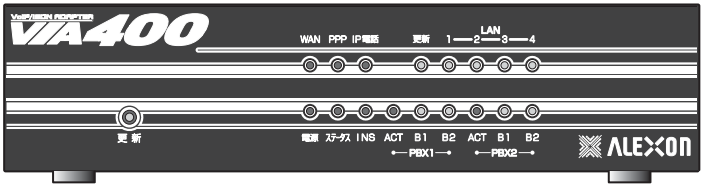
VIA400

取扱説明書



ALEXON

安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解のうえ、正しくご使用ください。

■絵表示の説明

表示内容を無視して誤った使い方をした場合に生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠危険：取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険性が切迫して生じることが想定される場合。

⚠警告：取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合か、軽傷または、物的損害※が発生する頻度が高い場合。

⚠注意：取扱いを誤った場合、使用者が重傷を負う可能性は少ないが、傷害を負う危険性が想定される場合、ならびに物的損害※のみの発生が想定される場合。

※物的損害とは、家屋家財及び家畜ペットに関わる拡大損害を示しています。

■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し説明しています。

△マークは、危険、警告を含む「注意」を示しています。
左図の例は、「特定しない一般的な注意、警告、危険の通告」を示しています。

⃠ マークは、してはいけない「禁止」を示しています。
左図の例は、「分解禁止」を示しています。

●マークは、必ず実行していただく「強制」や「指示」を示しています。
左図の例は、「差込プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

輸出する際の注意事項

注意　本製品（ソフトウェアを含む）は、日本国内向けの製品です。海外の規格などには準拠しておりません。本製品を日本国外で使用された場合、当社はいっさい責任を負いません。あらかじめご了承ください。
This unit is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波障害を引き起こすことがあります。この場合には、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

ご注意

（1） 本書及び本製品の内容の一部又は全部を無断で複写、複製することを禁じます。
（2） 本書及び本製品の内容に関しましては、将来予告なしに変更することがあります。
（3） 本書及び本製品は内容について万全を期していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがございましたら、ご連絡ください。
（4） 本製品（ハードウェア、ソフトウェア及び関連文書）を運用した結果については、（3）項に関わらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
（5） 本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電時の外部要因によって異常な課金が発生したり、通信などの機会を逸したために生じた損害等の純正経済損失につきましては、いっさいその責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
（6） 設定値を保存中に停電が発生した場合など、設定データが異常になることが有ります。その場合は再起動時に全ての設定値を初期化しますので、再度設定をやり直してください。

● INSネット64はNTTの商標です。
● Windows95/98/Me/2000/XP、InternetExplorerはMicrosoft Corporationの米国およびその他の国における商標もしくは登録商標です。

⚠警告

●万一異常が発生したら、すぐに電源スイッチをOFFにして電源コードを抜く！
煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。
火災や感電の原因となります。このようなときには、すぐに電源スイッチをOFFにして電源コードを抜き、お買い上げの販売会社や弊社にお問い合わせください。

●AC 100V(50または60Hz)以外の電源電圧では使用しない
定格以外の電源電圧で使用しますと火災や故障の原因となります。

●異物を入れない
本機に金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。
万一異物が入った場合、すぐに電源スイッチをOFFにして、お買い上げの販売会社か弊社にお問い合わせください。

●本機付属以外の電源コードを使用しない
火災や故障の原因となります。

●分解したり改造したりしない
本体カバーをはずして内部を触ったり、本機を改造しないでください。
火災や感電、故障の原因となります。
修理の際は、お買い上げの販売会社か弊社にお問い合わせください。

●本機の近くに水や飲料などの液体、ヘアースプレーなどの可燃物の入っている容器を置かない
内部に液体や可燃性の強い気体が入ると、火災や感電、故障の原因となります。

●水・薬品がかからないように
引火・火災や感電の恐れがあります。

●電源コードを大切に
コードに重いものをのせたり、熱器具に近づけたりしないでください。
コードが損傷します。コードに傷がつくと火災や感電、故障の原因となります。
また、コードを加工したり、無理に曲げたり引っ張ったりすると、火災や感電の原因となります。コードが痛んだ場合には、お買い上げの販売会社か弊社にお問い合わせください。

●本機を落としたり破損した場合は
そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。電源スイッチをOFFにして、背面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売会社か弊社にお問い合わせください。

●極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない
本機は一般オフィスや家庭のOA機器と接続する用途の製品として設計されています。幹線通信機器や業務の中心となるコンピュータシステム、人命に直接関わる医療機器のような、極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器には、接続しないでください。

●サービスコンセントは300W以下
本機のサービスコンセントは300W迄です。定格以上の機器を接続しますと火災や故障の原因となります。

⚠注意

●本機は日本国内のみで使用
国外での使用は、電源電圧等の問題により、本機が故障することがあります。

●電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない
電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くと電源コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。

●ぬれた手で電源プラグにさわらない
ぬれた手で電源プラグを抜いたり、差し込んだりしないでください。感電や火災、故障の原因となることがあります。

●上にものを置かない
本機の上にものをのせないでください。故障の原因となることがあります。また本機の上に乗らないで下さい。倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。
特にお子様のいらっしゃる家庭では注意をお願いします。

●電源プラグとコンセントの定期点検を
電源プラグとコンセントは長時間つないだままですと、ほこりがたまります。
そのままの状態で使用を続けますと、火災や感電の原因となることがあります。
１年に１回は電源プラグとコンセントの定期的な掃除をし、接触不良などを点検してください。

●アース端子を接地する
本機は、落雷などの影響を最小限に抑えるための落雷対策を行っていますが、必ず本機のアース端子を使って接地してください。

●お手入れのときは
本機の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください（決して、プラグやコネクタ等の外部機器接続部をこの方法で拭かないでください）。
薬品類（ベンジン・シンナーなど）は使わないでください。変質・変色する場合があります。プラグやコネクタ等の外部接続部にほこりがたまった場合は、接続先からはずし、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず、電源スイッチをOFFにして、背面のコネクタをすべて抜いてから行ってください。

●本機を長期間使用しないときは
本機を長期間使用にならないときは、電源スイッチをOFFにして、電源プラグをコンセントから抜き、背面のコネクタを全てはずして保管してください。

●雷が鳴り始めたら、電源プラグをコンセントから抜く
落雷の恐れのあるときには、ただちに使用をやめ、本機の電源スイッチをOFFにして、電源プラグを抜き、背面のコネクタから接続ケーブルをはずしてください。落雷時に内部に電流が流れ込むと、本機を破壊する恐れがあります。

⚠設置に関する注意

●風通しの悪いところに置かない
本機をラック内など、密閉された場所に置かないでください。また、本機を直接積み重ねて使用するなど、本機の上にものを置いて使用しないでください。
熱がこもり、火災、故障の原因となることがあります。

●温度が高くなるところに置かない
直射日光の当たるところや発熱する器具の近くなど高温になるところに置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。

●湿気やほこりの多いところに置かない
湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くに置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。

●ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない
ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害が発生する恐れがあります。

●不安定な場所やお子様の手の届くところに置かない
ぐらついた台や本機より面積が小さいものの上や傾いたところ、また衝撃や振動の加わるところなど、不安定な場所やお子様の手の届くところに置かないでください。
落ちたり倒れたりして、けがや故障の原因となります。

●指定以外の方法で設置しない
本機指定以外の方法で設置しないでください。
また、布等でくるんだ状態での使用もおやめください。特にビニールやゴム製品が接触している状態での使用もおやめください。火災や故障の原因となることがあります。

●本機よりNTT交換機側にアナログ装置を設置しない
ISDN回線上に検針器や警報装置等を設置されているときは、必ず装置の会社もしくは装置を取り付けた会社に連絡を取り適切な処置を行ってください。
装置を取り付けたままでは、本機が正常に動作しなくなることがあります。
また、設置されている装置が完全に動作しなくなります。

●本機よりNTT交換機側で回線を分配しない
本機よりNTT交換機側で回線を分配すると本機や分配している別の先の装置が正常に動作しなくなることがあります。
ISDN回線には、DSUを１台しか接続できません。

⚠設置に関する注意

●指定外の接続をしない
指定外の接続をしますと、火災や故障の原因となることがあります。
・クロスのS/T点ケーブルでバス接続しないでください。
・ISDN-S/TコネクタにISDN-S/T端子を持った機器以外を接続しないでください。
・ISDN-UコネクタにISDN回線のU点以外を接続しないでください。
・ISDN-S/Tコネクタに接続した機器にDSUが有る場合は、必ずDSUを切り離してください。
・PBX-UコネクタにDSUを1台しか接続しないでください。
・PBX-UコネクタにISDN機器のU点以外を接続しないでください。
・電話機をISDN-U・PBX-Uコネクタに接続しないでください。
・サービスコンセント（300W迄）に負荷量が大きく変化する機器や負荷量が大きい機器を接続しないでください。

本機の保証について

●保証期間中は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。ただし、弊社では設置工事・出張修理は行っておりません。
●保証期間を過ぎている場合には
修理によって使用できる場合には、ご要望によって有償で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造打ち切り後5年です。

目次

1 概要 1
2 お客様にご準備して頂くこと 2
3 製品の構成（梱包内容） 2
4 利用までの流れ 3
5 各部の名称とはたらき 4
5.1 正面図 4
5.2 背面図 7
6 本機を接続するには 9
6.1 接続に関する注意点 9
6.2 各機器との接続 9
6.3 複数回線収容型の PBX との接続 10
6.3.1 一般的な接続例 10
6.3.2 PBX 経由での接続例 10
6.4 接続後の確認 11
6.4.1 ADSL モデムと本機 11
6.4.2 パソコンと本機 11
6.4.3 ISDN 用 PBX と本機 11
6.4.4 ISDN 回線と本機 11
7 パソコン側を設定するには 12
7.1 Windows95/98/Me の場合 12
7.2 Windows2000 の場合 15
7.3 WindowsXP の場合（カテゴリ表示の場合） 17
7.4 インターネットオプションの設定 19
8 本機を設定するには 21
8.1 Web 設定を使用する 21
8.2 WAN を設定する（PPPoE 接続の設定例） 22
8.3 WAN を設定する（DHCP クライアントの設定例） 25
8.4 VoIP サーバーを登録する 28
8.5 発信を設定する 30
8.6 着信を設定する 33
8.6.1 契約者番号の設定 35
8.6.2 ダイヤルイン又は i ・ナンバーの設定 36
8.6.3 代表サービス（複数端末利用） 38
8.7 発着信を設定する（ISDN 回線） 39
8.8 詳細な設定をする 41
8.8.1 Web 設定を使用する 41
8.8.2 管理者用の設定 42

9　着信するには 43
9.1 代表組を使うには 43
10 発信するには 44
10.1 IP 電話や ISDN 回線に発信できない電話番号 44
11 便利な機能 45
11.1 FAX の送受信を ISDN 回線で利用するには 45
11.1.1 FAX 送信で ISDN 回線のみ利用の場合 45
11.1.2 FAX 受信を ISDN 回線限定で利用する場合 47
11.2 G4 FAX を利用するには 49
11.3 PBX のダイヤルイン、ｉ・ナンバー機能を IP 電話で利用するには 51
11.3.1 ダイヤルインでの参考例 51
11.3.2 ｉ・ナンバーでの参考例 56
11.4 コールバック機能を使って、本機へ無料通話するには（コールバック中継発信機能:OFF） 61
11.5 コールバック機能を使って、本機へ無料通話するには（コールバック中継発信機能:ON） 65
11.6 コールバック中継発信機能を使って、本機を通しての無料通話するには（コールバック中継発信機能:ON） 70
11.7 着信転送するには 75
11.7.1 着信転送とは 75
11.7.2 ボタン電話機から着信転送を設定するには 76
11.7.3 リモートで着信転送を設定するには 76
11.7.4 Web 設定で着信転送を設定するには 76
11.8 PBX の登録電話番号を変更無しで IP 電話を利用するには 77
11.9 PBX の登録電話番号以外に新たに専用電話番号を利用するには 79
11.10 リモコン設定するには 81
12 その他の機能 85
12.1 更新機能 85
12.2 停電時のとき 85
12.3 設定初期化 85
13 故障かな？と思ったとき 86
13.1 電話がかけられない 86
13.2 その他 87
13.3 お問い合わせ 87
14 ご参考 88
14.1 本機通話に関するランプと識別音について 88
14.2 INS ネット 64（ISDN）の付加サービスについて 89
14.3 IP 電話の付加サービスについて 89
14.4 電話機からの設定一覧 90
14.5 電話機からの操作一覧 90
14.6 回線選択テーブル（初期値） 91
14.7 主な仕様 92

1　概要

本機VIA400はNTTコミュニケーションズ(株)が提供するIP電話サービス(OCNドットフォンオフィス)に対応したアダプターです。
INSネット64(以後ISDNと呼びます)対応PBX等からの発信をISDN回線またはIP網に自動で振り分け、かつISDN回線およびIP網の両方からの着信も可能にします。
特に、本機の回線選択テーブルに電話番号を登録しますと、登録済みの電話番号で発信する時にご希望されるISDN回線またはIP電話を自動的に選択します。これにより、通話品質と通話費用を発信先に応じて選ぶことができます。

主な特徴として、

◆本機1台でIP電話が同時に4通話が可能です。※1
◆PBXのS/T点に接続したG4FAXが利用可能です。
◆オンラインヘルプ機能により、Web設定画面の「ヘルプ」ボタンを押すことにより弊社サーバーから逐次最新ヘルプ情報の提供が可能です。※2
◆FAXに対して、FAX着信専用PBXポートの指定が可能です。また、FAXの発信も短縮番号の変更無しにISDN回線へ発信が可能です。IP網へFAX発信すると正常に送信できない場合があります。
◆コールバック機能により、登録電話の通話料金を本機持ちにできます。
◆コールバック中継発信機能により、登録電話が本機を経由して発信し通話料金を本機(中継器)側に負担させる事が可能です。
◆リモコン設定機能により、登録済み電話から着信転送等のON/OFFを設定する事が可能です。
◆着信転送機能を搭載。IP電話やISDN回線で個別に着信転送先の電話番号を登録が可能です。
◆本機内部で100件の発信相手先電話番号変換テーブルを持ち、PBXの設定を変更せずにIP電話を利用可能です。
◆本機内部で100件の発信相手先電話番号変換テーブルを持ち、PBXの短縮番号とは別に、ユーザー独自設定番号で発信が可能です。

※1：同時4通話発信するには、4チャンネルプランの契約が必要です。
※2：ヘルプ情報は、弊社最新ファームウェアに合わせて用意します。

ご使用上の注意

・フレックスホン(キャッチホン、通信中転送、三者通話、着信転送)、通話中着信通知はサポートしていません。(詳しくは、「INSネット64の付加サービスについて」をご参照ください。)
・本機に電源が入っていない時、IP通話が出来ません。この場合はISDN回線を使って通話を行います。(通話料はお客様が加入している電話会社からの請求となります。)
・着信番号の通知条件によっては、PBX-U点に接続しているISDN機器の設定変更が必要となることがあります。
・本機のPBX-U点経由ではDチャンネルのパケット通信はできません。PBX-U点に接続するISDN機器のS/TコネクタにTA等でデータ通信を行う機器を接続している場合、本機のS/Tコネクタに接続してください。
・ISDN回線契約が現在P-P接続のお客様は本機を利用できません。P-MP接続(常時)に契約を変更する必要が有ります。
・発着信中・本機設定中や通話中に接続ケーブルが抜けますと正常に動作しなくなる事が有ります。その時は、接続PBXと本機の電源を一旦オフにしてからオンにして利用ください。
・問題なく通話するには、IP網が少なくとも上り下り共　約720Kbps以上の回線速度が必要です。回線速度が遅いと通話品質が落ちたり通話ができないことがあります。
・本機にグローバルIPアドレスが利用可能であることが必要です。
・IP電話で利用できない電話番号はISDN回線を使って通話が可能です。(通話料は、お客様が加入している電話会社からの請求となります。)IP電話利用は識別音にてご確認できます。

本機故障時の応急処置

・本機の故障によりIP通話やISDN通話が出来なくなった場合は、本機の電源をオフにする事によりPBX-U点とISDN-U点を直結してISDN回線を使って通話が可能となります。

2　お客様にご準備して頂くこと

本機を設置される前に、あらかじめお客様に以下のご準備を御願いします。

1. ADSLサービスを受けるための回線のご用意(詳細は、NTTコミュニケーションズ(株)提供の資料をご参照ください)と、OCN ADSL等(以後ISPと呼びます)への申し込みをお済ませください。契約が完了しましたら、本機設定の際に契約書(お申し込み内容のご案内)をご用意ください。
2. IP電話サービスを受けるために、OCNドットフォン オフィスへの申し込みをお済ませください。契約が完了しましたら、本機設定の際に契約書(お申し込み内容のご案内)をご用意ください。
3. イーサネットインタフェースを有するADSLモデム等とその取扱説明書。
4. ADSLモデム等と本機を接続のためのLANケーブル(RJ45ストレートカテゴリ5、本機付属)。
5. OSがWindos95/98/Me/2000/XPのいずれかで、10/100BASE-T/TX LANカードを搭載したパソコン。
6. LANカードが無い場合は、LANカードをご用意の上、付属の説明書に従ってカードの取り付けとドライバーのインストールを行ってください。
7. Web設定を行うためのWebブラウザ　InternetExplorer(5.0以降)。
8. 本機とパソコンを接続するためのLANケーブル(RJ45ストレートカテゴリ5)。
9. DSU(U点インタフェース)を有するISDN用PBXと本機を接続のための回線ケーブル(RJ11中央2芯ストレート)。ISDN用PBXにU点が無い場合(S/T点の場合)は、別途DSUをご用意ください。
10. 安定動作と安全(雷等)の為のアース線。

3　製品の構成（梱包内容）

ご購入いただいた製品には次のものが含まれています。利用になる前に内容をご確認ください。

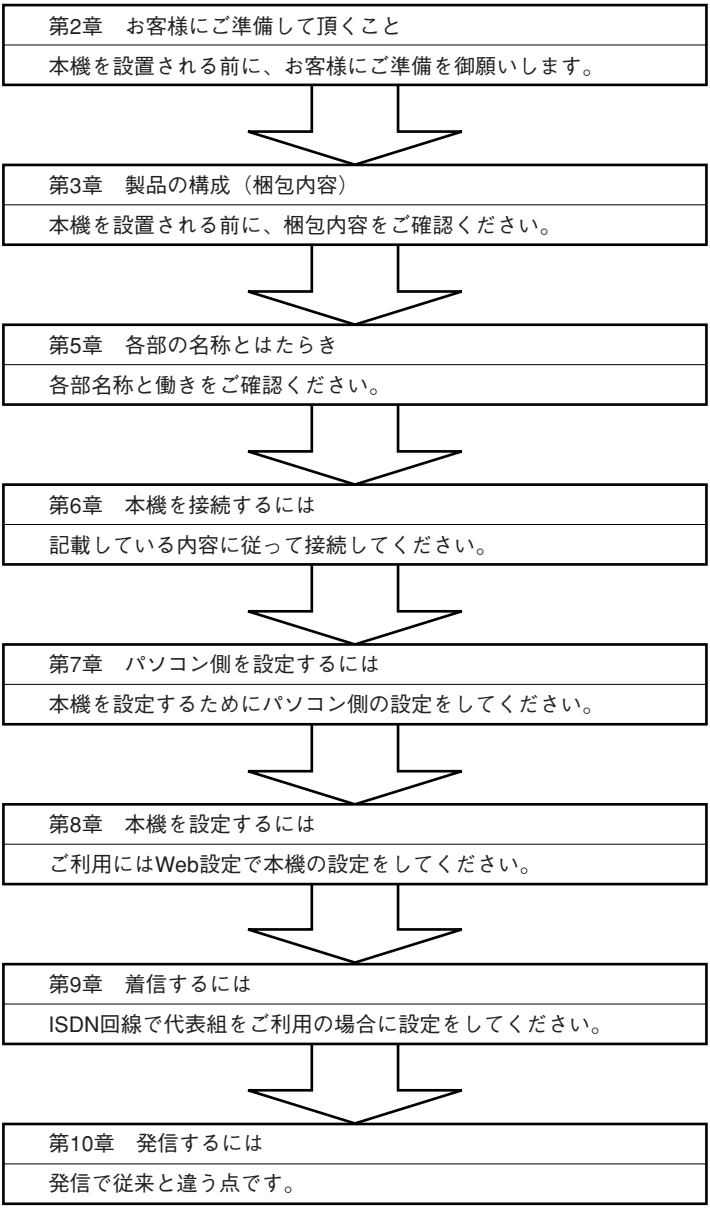
万一、不足の物が御座いましたら、お買いあげの販売店までお申し付けください。

項 目	数
VIA400本 体	1台
LANケーブル(ストレート、WAN用 1メートル)	1本
電 源 コ ー ド	1本
ユーザー登 録 カ ー ド	1枚
保 証 書	1枚
CD－ROM(取 扱 説 明 書)	1枚

注意： 接続に必要なケーブルは別途ご用意ください。
取扱説明書は本機と共に利用ください。

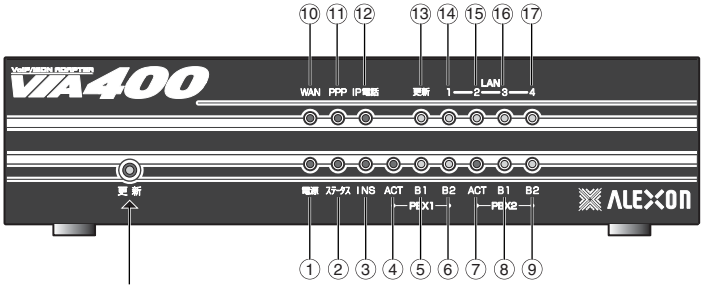
4　利用までの流れ

本機を利用するには下記順番で各章をご確認ください。



5　各部の名称とはたらき

5.1 正面図



更新（更新スイッチ）

　更新ランプが点滅2（0.5秒間点灯・0.5秒間消灯）の時、ファームウェア（本機を制御するプログラム）の更新が必要ですので、更新スイッチを押してください。これでファームウェアの更新が自動的に行えます。（詳しくは、「12.1 更新機能」をご参照ください。）

□が正常時のランプの状態です。B1・B2に関しては利用状態により変化します。
ランプの色指定が無い場合は、緑色となります。

LED ランプ名	表示状態	表示状態の内容
① 電源	消灯	電源OFFの状態です。
	□点灯□	電源ONの状態です。
② ステータス	消灯	本機が異常状態です。
	赤点灯	転送モードONの状態です。
	赤点滅2	ファームウェア異常です。更新スイッチを押してください。（0.5秒間点灯・0.5秒間消灯）
	□緑点灯□	本機は正常動作中です。
	□橙点灯□	本機は正常動作で転送モード中です。
③ INS	赤点滅2	ISDN回線と未接続か同期がとれず使用不可の状態です。（0.5秒間点灯・0.5秒間消灯）
	□緑点灯□	ISDN回線と同期がとれて使用可能な状態です。

[ ]が正常時のランプの状態です。B1・B2に関しては利用状態により変化します。
ランプの色指定が無い場合は、緑色となります。

LED ランプ名	表示状態	表示状態の内容
PBX1		
④ ACT	赤点滅2	PBX-Uと未接続かレイヤ1の同期がとれず使用不可の状態です。(0.5秒間点灯・0.5秒間消灯)
	橙点灯	PBX-Uとレイヤ1の同期がとれている状態です。
	[緑点灯]	PBX-Uと接続機器の内の1台とレイヤ1・2で同期がとれて使用可能の状態です。
⑤ B1	消灯	PBX側B1チャンネルがISDN回線と接続中か未使用です。
	点滅2	本機から発信でIP電話経由により一般加入電話と通話中です。(0.5秒間点灯・0.5秒間消灯)
	点灯	上記外か通話中です。
⑥ B2	消灯	PBX側B2チャンネルがISDN回線と接続中か未使用です。
	点滅2	本機から発信でIP電話経由により一般加入電話と通話中です。(0.5秒間点灯・0.5秒間消灯)
	点灯	上記外か通話中です。
PBX2		
⑦ ACT	赤点滅2	PBX-Uと接続機器の内の1台とレイヤ1・2で同期がとれて使用可能の状態です。
	橙点灯	PBX側B1チャンネルが未使用中です。
	[緑点灯]	ISDN回線と回線接続中、又は、ビジートーン送出中です。(0.25秒間点灯・0.25秒間消灯)
⑧ B1	消灯	PBX側B1チャンネルがISDN回線と接続中か未使用です。
	点滅2	本機から発信でIP電話経由により一般加入電話と通話中です。(0.5秒間点灯・0.5秒間消灯)
	点灯	上記外か通話中です。
⑨ B2	消灯	PBX側B2チャンネルがISDN回線と接続中か未使用です。
	点滅2	本機から発信でIP電話経由により一般加入電話と通話中です。(0.5秒間点灯・0.5秒間消灯)
	点灯	上記外か通話中です。

□が正常時のランプの状態です。
ランプの色指定が無い場合は、緑色となります。

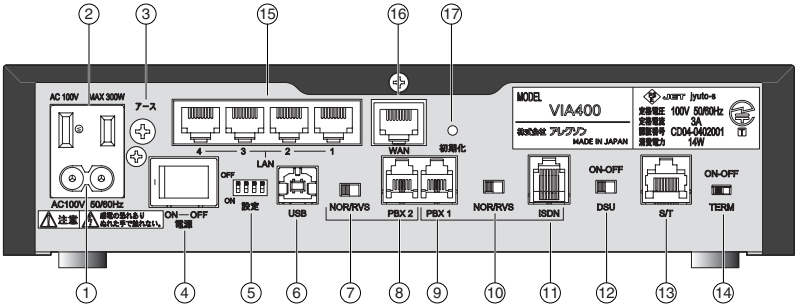
LED ランプ名	表示状態	表示状態の内容
⑩ WAN	消灯	ADSLモデム等と未接続状態です。
	□点滅□	ADSLモデム等と接続状態です。
⑪ PPP	消灯	PPP接続が未確立の状態です。 PPPoEの設定が工場出荷値の状態です。
	点滅1	PPP接続作業中の状態です。 PPPoEの接続準備中です。 (0.25秒間点灯・0.25秒間消灯)
	点滅2	PPP接続認証失敗の状態です。 PPPoEの設定間違いです。 (0.5秒間点灯・0.5秒間消灯)
	□点灯□	PPP接続が確立している状態です。 インターネットの利用が可能です。
⑫ IP 電話	消灯	VoIPサーバーへの登録が未だの状態です。 IP電話の設定が工場出荷値の状態です。
	点滅2	VoIPサーバーへの登録失敗の状態です。 IP電話の設定間違い、又はVoIPサーバーが障害中です。 (0.5秒間点灯・0.5秒間消灯)
	□点灯□	VoIPサーバーへの登録が完了している状態です。 全てのIP電話の利用が可能です。
⑬ 更新	□消灯□	最新ファームウェアです。
	点滅1	ファームウェア搭載サーバーとの接続エラーです。 しばらくお待ちの上、再度更新スイッチを押してください。 (0.25秒間点灯・0.25秒間消灯)
	点滅2	ファームウェアの更新が必要です。 更新スイッチを押してください。 (0.5秒間点灯・0.5秒間消灯)
	点灯	ファームウェアを自動更新中です。 更新ランプ点灯中は、絶対電源を切らないでください。
LAN		
⑭⑮⑯⑰ LAN1, 2, 3, 4	消灯	パソコンと接続が確立していません。
	□点滅□	パソコンとデータの送受信が行われています。
	□点灯□	パソコンと接続が確立しています。

・点滅1とは、0.25秒間点灯し0.25秒間消灯します。
・点滅2とは、0.5秒間点灯し0.5秒間消灯します。

ご注意

●更新、PPP、IP電話ランプ共　0.25秒間点灯・0.25秒間消灯している場合は、ファームウェアの異常です。本機の電源スイッチを一旦OFFからONにしてください。
●ファームウェア自動更新中(更新ランプ点灯)に、WAN側に障害が発生した場合、更新ランプは点灯から点滅2に変わります。
●ファームウェア自動更新中(更新ランプ点灯)は絶対電源を切らないでください。故障の原因となります。
●電源スイッチをONにしたり停電回復後、PPPの再接続に数十分必要な場合があります。その時は自動的に再接続(PPPランプ点灯)するまでしばらくお待ちください。

5.2 背面図



名称	使用説明
① 電源コネクタ	付属の電源コードを本機と電源コンセント(AC100V)に接続します。
② AC サービスコンセント	他機の電源(AC100V)として使用可能なサービスコンセントです。本機電源スイッチと関係なく、常時通電しています。 注意：最大300Wまで使用可能です。300W以上使用しますと火災の原因となります。
③ アース端子	安定動作と安全の為にアース線を使って接地します。アース線は付属していませんので、ご用意の上、接続してください。
④ 電源スイッチ	電源のON／OFFを行うためのスイッチです。
⑤ 設定スイッチ	次ページ記載。
⑥ USB	設置業者様等のメンテナンス用です。
⑦ NOR/RVS	PBX2のU点(RJ11)の極性が反転しているときに、極性を変えるためのスイッチです。初期設定はNORになっています。
⑧ PBX2	PBX(ISDN機器)等のU点(RJ11)に接続します。 注意：接続するISDN機器がS/T点接続の場合は、別途DSUをご用意ください。
⑨ PBX1	PBX(ISDN機器)等のU点(RJ11)に接続します。 注意：接続するISDN機器がS/T点接続の場合は、別途DSUをご用意ください。
⑩ NOR/RVS	ISDN回線の極性が反転しているときに、極性を変えるためのスイッチです。初期設定はNORになっています。 （このスイッチは、ISDN側とPBX側の極性が連動しています。）
⑪ ISDN	本機DSUスイッチ⑫がONのとき、ISDN回線(RJ11)と接続します。
⑫ DSU	内蔵しているDSUを使用するときにはON、外部DSUを使用するときはOFFにします。初期設定はONになっています。

名称	使用説明
⑬ S/T	本機DSUスイッチ⑫がOFFの場合は、他のDSUに接続するコネクタです。他のDSUに接続する場合は、必ず本機DSUスイッチをOFFにしてください。 本機DSUスイッチ⑫がONの場合は、このS/Tコネクタは、他のISDN機器を接続するためのDSU機能としてのみ機能します。 他のISDN機器(RJ45)との接続に利用します。ファントム給電しておりますので給電で動作したり、給電により回線接続を判断するISDN機器を接続できます。 注意：・PBX用U点に接続した機器が、ISDN回線を2チャンネル使用していますとS/Tコネクタに接続したISDN機器は通信や通話ができません。 ・S/Tコネクタに接続したISDN機器が、ISDN回線を2チャンネル使用しているときPBX用U点に接続した機器は、ISDN回線での通話はできません。 ・S/Tコネクタに接続したISDN機器はIP電話として利用できません。
⑭ TERM	終端抵抗のON／OFFを設定します。初期設定はONになっています。 S/Tに接続機器が無い場合はON、他の機器を接続される場合は、本機から一番遠いISDN機器の終端抵抗のみONにして、それ以外のISDN機器は終端抵抗をOFFに設定してください。
⑮ LAN1 ～ 4	LANケーブル（ストレート、RJ45）を使ってパソコンと接続します。
⑯ WAN	LANケーブル（ストレート、RJ45）を使ってADSLモデム等と接続します。
⑰ 初期化スイッチ	初期化スイッチを押しながら電源を入れると、全設定を初期化します。 ステータスランプが点灯するまで初期化スイッチを押し続けてください。 この操作を行うと、設定していた内容が全て工場出荷値に戻りますので十分にご注意ください。

⑤ 設定スイッチ

【固】：固定値 【初】：初期値

番号	内容	ON	OFF
1	ISDN 回線発信※1	発信禁止	発信許可【初】
2	ISDN 回線着信※1	着信禁止	着信許可【初】
3	未使用	―	【固】
4	未使用	―	【固】

※1　設定変更後すぐに有効となります。

ご注意

●電源スイッチをONにしたり停電回復後、PPPの再接続に数十分必要な場合があります。
その時は自動的に再接続（PPPランプ点灯）するまでしばらくお待ちください。

6　本機を接続するには

6.1 接続に関する注意点

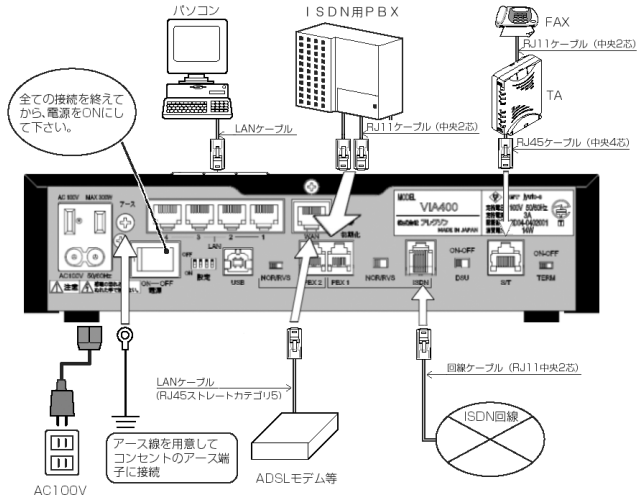
1. ルータタイプのADSLモデムを利用になっているお客様は、ADSLモデムの動作モードをブリッジモードにする必要が有ります。(お手持ちのADSLモデムの取扱説明書でご確認ください。)
2. ADSLモデムと接続する場合は、添付のLANケーブル(RJ45ストレートカテゴリ5)をご使用ください。
3. ADSLモデムと接続する場合は、ADSLモデムの取扱説明書にてご確認ください。
4. パソコンと接続する場合は、LANケーブル(RJ45ストレートカテゴリ5)をご使用ください。
5. ISDN回線と接続する場合は、回線ケーブル(RJ11中央2芯)を利用ください。
6. ISDN用PBXと接続する場合は、回線ケーブル(RJ11中央2芯)を利用ください。
7. PBX-U点に接続するISDN用PBXがS/T点接続の場合は、別途DSUをご用意ください。
8. 本機にはADSLモデムと接続するケーブル以外は付属していませんので、別途ご用意ください。
9. 干渉の問題を回避する為にPBX-Uケーブルは他のケーブルと分離し、宅内配線を行う必要があります。干渉がありますと動作不良の原因となります。
10. 本機のPBX-U点経由ではDチャンネルのパケット通信はできません。PBX-U点に接続するISDN機器のS/Tコネクタに Dチャンネルのパケット通信を行う機器を接続している場合、本機のS/Tコネクタに接続してください。G4FAXやPPP等のデータ通信は接続変更無しで利用可能です。

ご注意

- S/T点終端スイッチ(TERM)は、S/Tに接続機器が無い場合はON、他の機器を接続される場合は、本機から一番遠いISDN機器の終端抵抗のみONにして、それ以外のISDN機器は終端抵抗をOFFに設定してください。
- 本機内蔵のDSUを使用するときにはDSUスイッチをONにしてISDN回線をISDNコネクタに接続してください。外部DSUを使用するときには必ずOFFにして他のISDN機器のS/TバスをS/Tコネクタに接続してください。DSUスイッチをONのまま使用しますと故障の原因となります。

6.2 各機器との接続

次のように接続してください。機器の接続は電源をOFFにした状態で行ってください。

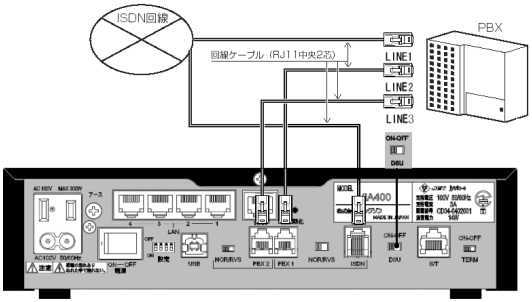


6.3 複数回線収容型のPBXとの接続

6.3.1 一般的な接続例

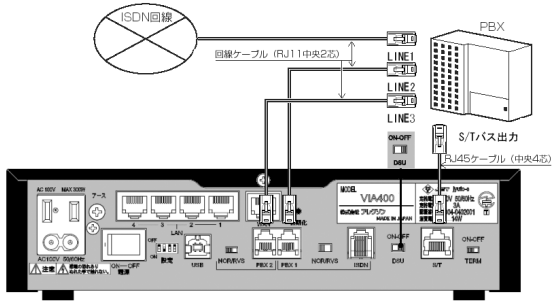
本機のPBXとの接続インタフェース（PBXコネクタ）は、本機ISDNコネクタに収容されたISDN回線に従属同期する様に設計されています。

本機をISDN回線を直接接続でご使用になる場合、下図の様に本機のDSUスイッチをONに設定し、ISDN回線を本機ISDNコネクタに接続してください。ISDN回線からの契約者番号での着信は、LINE2（PBX1）・LINE3（PBX2）の空きポートに順次着信します。



6.3.2 PBX経由での接続例

PBXにISDN回線を直接接続でご使用で、本機ISDNコネクタに接続するISDN回線が存在しない場合、下図の様に本機のDSUスイッチをOFFにして、PBXのS/Tバス出力を、本機のS/Tコネクタに接続してください。これにより本機とPBXとの接続インタフェースはISDN回線に従属同期します。



ご注意

- ●PBX経由で利用の場合、設定スイッチ2（ISDN回線着信）をON（禁止）に設定してください。
- ●この接続では、本機ISDNコネクタへISDN回線の収容はできません。

6.4 接続後の確認

6.4.1 ADSL モデムと本機

1. ADSLモデムの電源投入を確認します。
2. 本機の電源投入後、電源ランプ点灯を確認します。
3. ステータスランプ点灯を確認します。
4. 本機WANランプ点灯を確認します。(ADSLモデムと接続中表示)
   WANランプ消灯の場合は、
   ・LANケーブル(RJ45ストレート)が正しく接続されていますか？
   ・ストレートケーブルではなくクロスケーブルを使用されていませんか？

6.4.2 パソコンと本機

1. パソコンの電源投入を確認します。
2. 本機LANランプ点灯を確認します。(パソコンとリンク中表示)
   LANランプ消灯の場合は、
   ・LANケーブル(RJ45ストレート)が正しく接続されていますか？
   ・パソコンのネットワーク設定を正しくされていますか？(詳しくは次項の「7　パソコンを設定するには」をご参照ください。)

6.4.3 ISDN 用 PBX と本機

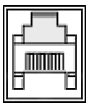
1. ISDN用PBXの電源投入を確認します。
2. 本機ACTランプ点灯を確認します。(PBXと同期表示)
   ACTランプ点滅の場合は、
   ・回線ケーブル(RJ11中央2芯)が正しく接続されていますか？
   ・ISDN回線とPBXの極性が両方反転していませんか？その時は、ISDN回線リバーススイッチを変更してください。

6.4.4 ISDN 回線と本機

1. 本機INSランプ点灯を確認します。(ISDN回線と同期表示)
   INSランプ点滅の場合は、
   ・回線ケーブル(RJ11中央2芯)が正しく接続されていますか？
   ・ストレートケーブルではなくクロスケーブルを使用されていませんか？
   ・DSUスイッチは正しく設定されていますか？

ワンポイント

RJ11(回線ケーブルを接続:上部表)　RJ45(S/Tケーブルを接続:下部表)



PBX1･2

S/T

ピン番号	6	5	4	3	2	1
信号名	—	—	L1	L2	—	—

ピン番号	8	7	6	5	4	3	2	1
信号名	—	—	TB	RB	RA	TA	—	—

注意： ピン番号は信号名表と同じで右から１番となります。

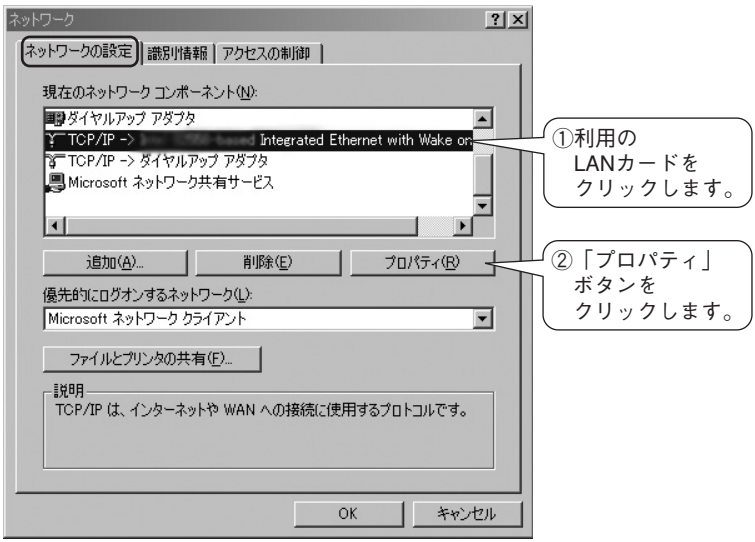
7　パソコン側を設定するには

本機とパソコンを接続するには、パソコン側に TCP/IP の設定が必要です。
利用の OS により TCP/IP の設定方法が異なりますので、以下をご参照ください。

7.1 Windows95/98/Me の場合

1. 「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」をダブルクリックします。
「ネットワーク」ダイアログが表示されます。

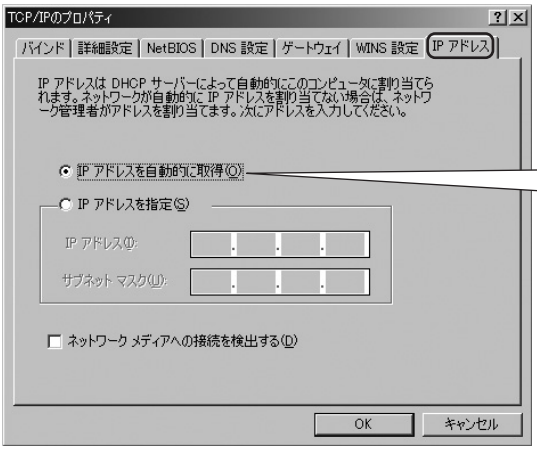
2. 「ネットワーク」ダイアログで、「TCP/IP」→「利用のLANカードの品番」をクリックし、「プロパティ」ボタンをクリックします。
「TCP/IPのプロパティ」ダイアログが表示されます。



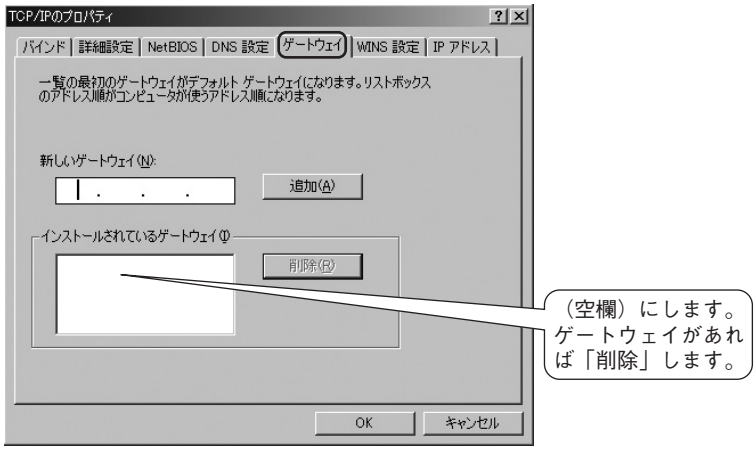
ご注意

●Windows95の場合、「現在のネットワークコンポーネント」にTCP/IPがインストールされているか確認してください。インストールされていなければ、「追加」「TCP/IP」「プロトコル」「追加」「Microsoft」「TCP/IP」「OK」を順繰りにクリックすることでTCP/IPがインストールされます。

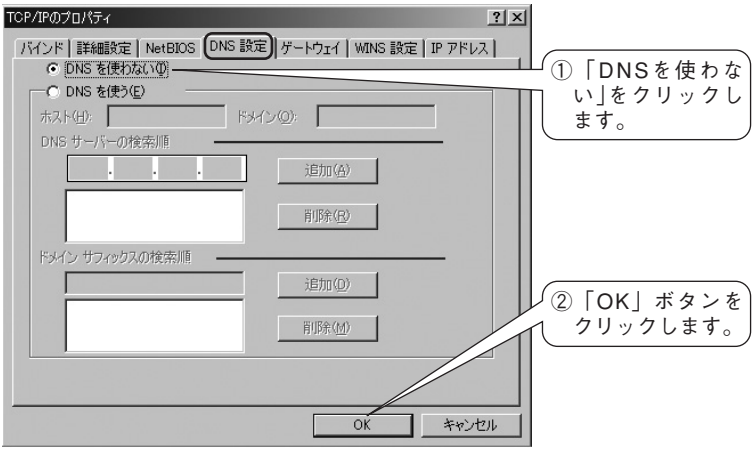
3.「TCP/IPのプロパティ」ダイアログの「IPアドレス」タブをクリックし、「IPアドレスを自動的に取得」をクリックします。



4.「TCP/IPのプロパティ」ダイアログの「ゲートウェイ」タブをクリックします。「新しいゲートウェイ」は追加しないでください。また、「インストールされているゲートウェイ」は空欄にしてください。入っている場合はゲートウェイをクリックし、「削除」ボタンをクリックして削除してください。

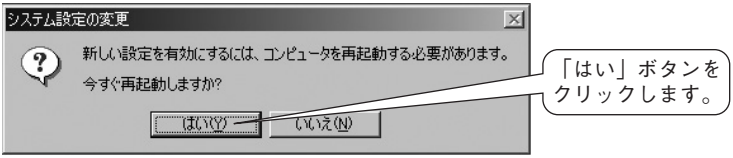


5.「TCP/IPのプロパティ」ダイアログの「DNS設定」タブをクリックします。「DNSを使わない」をクリックし、「OK」ボタンをクリックします。



6.「ネットワーク」ダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックします。

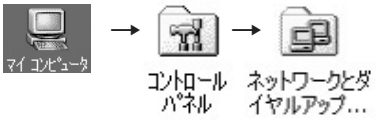
7. 設定を変更した場合は、次のようなメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックしてパソコンを再起動します。



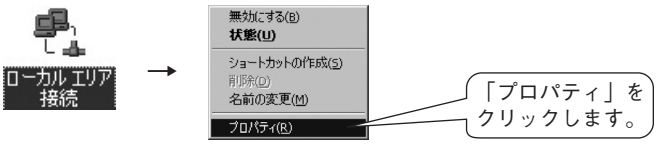
8.「7.4 インターネットオプションの設定」の設定を行ってください。

7.2 Windows2000 の場合

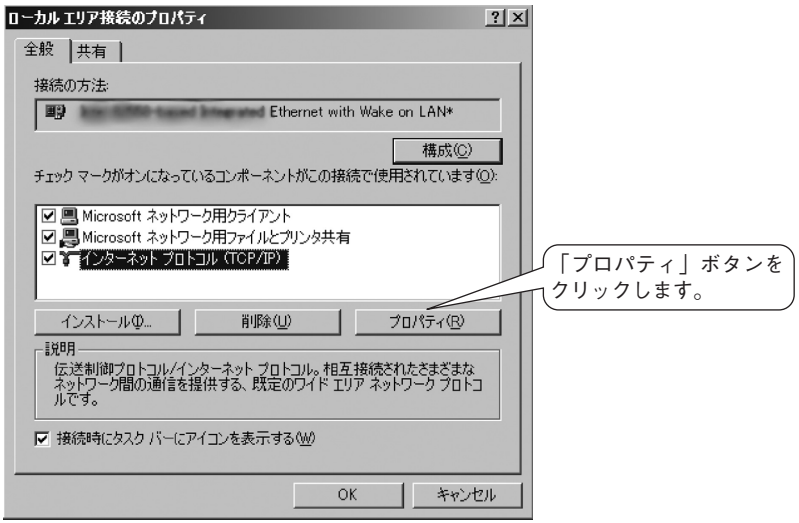
1. 「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリックします。



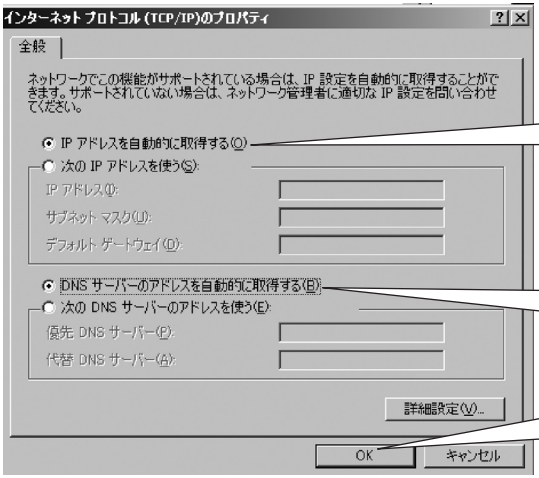
2. 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選びます。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログが表示されます。



3. 「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログで「全般」タブをクリックします。
「コンポーネントリスト」から「インターネットプロトコル(TCP/IP)」をクリックし、「プロパティ」ボタンをクリックします。
「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」ダイアログが表示されます。

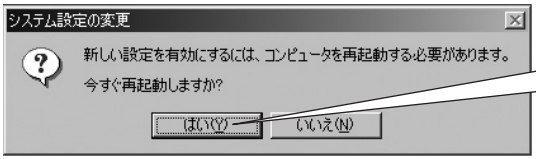


4.「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」ダイアログで「IPアドレスを自動的に取得する」をクリックします。次に、「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」をクリックし、「OK」ボタンをクリックします。



5.「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックします。

6. 設定を変更した場合は、次のようなメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックしてパソコンを再起動します。



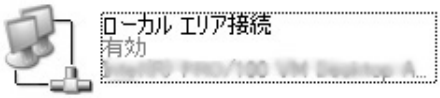
7.「7.4 インターネットオプションの設定」の設定を行ってください。

7.3 WindowsXP の場合（カテゴリ表示の場合）

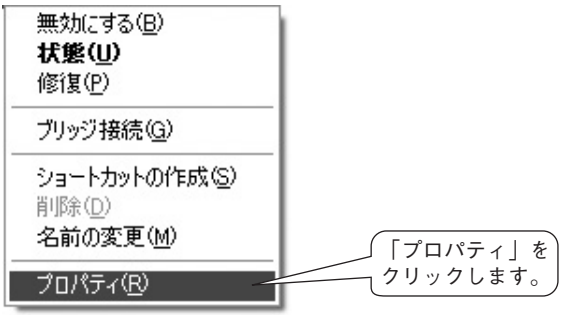
1. スタートメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2.「コントロールパネル」ウィンドウで「ネットワーク接続」をダブルクリックします。

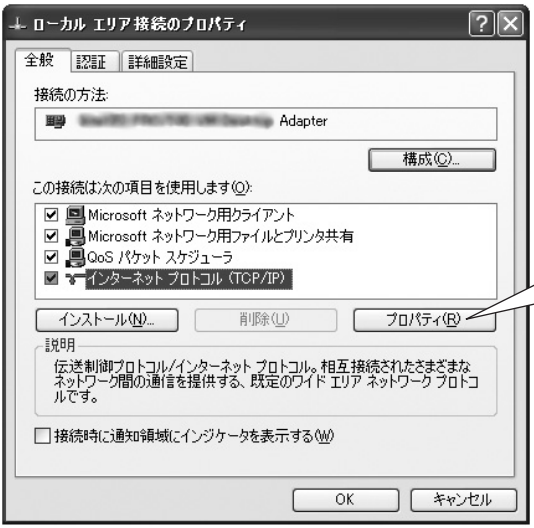
3.「ローカルエリア接続」を右クリックします。



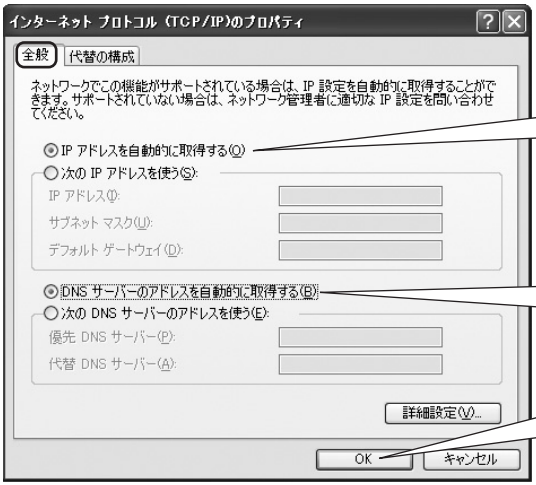
4.「プロパティ」をクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログが表示されます。



5.「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログで「インターネットプロトコル(TCP/IP)」をクリックし、「プロパティ」ボタンをクリックします。
「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」ダイアログが表示されます。



6.「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」ダイアログで「全般」タブをクリックします。
「IPアドレスを自動的に取得する」をクリックします。次に、「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」をクリックし、「OK」ボタンをクリックします。



7.「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックします。

8.「7.4 インターネットオプションの設定」の設定を行ってください。

7.4 インターネットオプションの設定

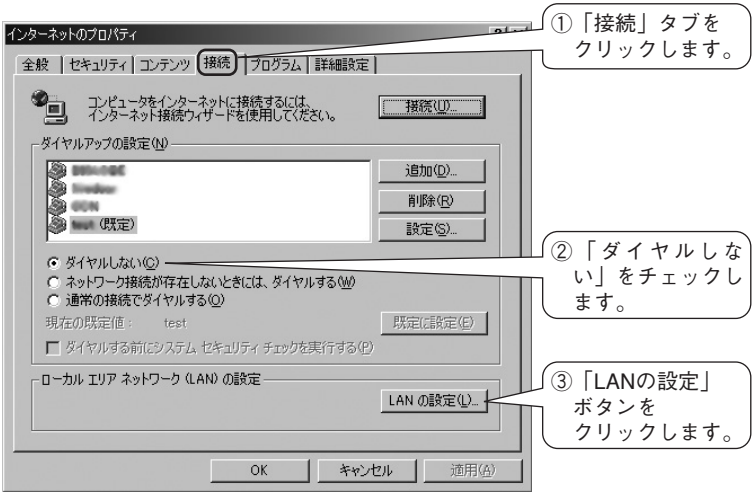
ご注意

●OSにより多少デザインが異なります。

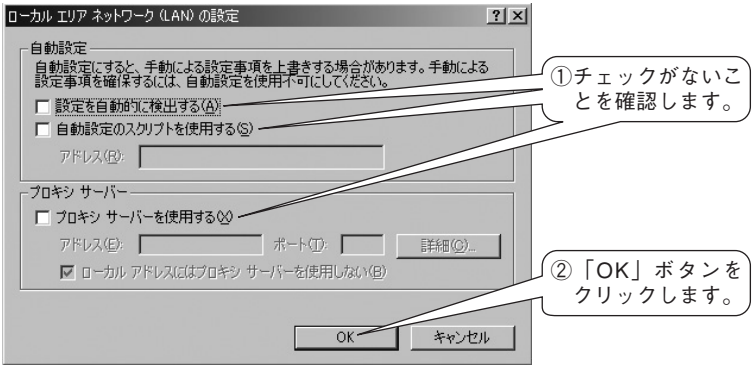
1.「マイコンピュータ」をダブルクリックします。→「コントロールパネル」をダブルクリックします。

2.「インターネットオプション」をダブルクリックします。
「インターネットのプロパティ」ダイアログが表示されます。

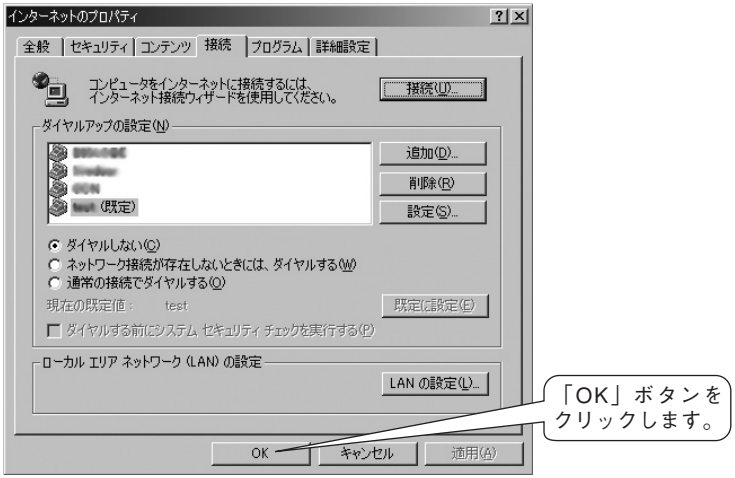
3.「インターネットのプロパティ」ダイアログの「接続」タブをクリックします。「ダイヤルアップの設定」の一覧にプロバイダ接続が有れば、「ダイヤルしない」をチェックします。プロバイダ接続が無ければ選択の必要はありません。次に、「LANの設定」ボタンをクリックします。
「ローカルエリアネットワーク(LAN)の設定」ダイアログが表示されます。



4.「ローカルエリアネットワーク(LAN)の設定」ダイアログでチェックボタンの全てに、チェックがないことを確認し、「OK」ボタンをクリックします。
「ローカルエリアネットワーク(LAN)の設定」ダイアログが閉じられます。



5.「インターネットのプロパティ」ダイアログの「OK」ボタンをクリックします。



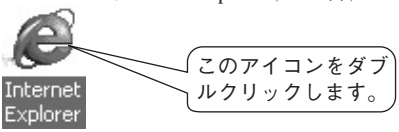
6. これでインターネットオプションの設定は完了します。

8　本機を設定するには

本機でIP電話を利用するにはパソコンからInternetExplorer（5.0以降）を使って「VoIP電話サービスの設定」の項目を設定する必要があります。
設定での入力は半角で大文字・小文字をご確認の上　正しく入力を御願いします。
（**注意**：仕様の変更により説明書のWeb画面と多少異なる事が御座います。）

8.1 Web設定を使用する

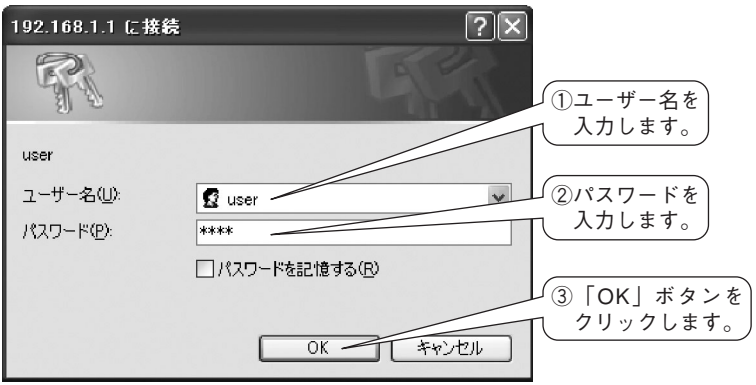
1. パソコンよりInternetExplorer（5.0以降）アイコンをダブルクリックします。



2. URLフィールドに本機のIPアドレス「192.168.1.1」を入力し、Enterキーを押します。

3. ユーザー名とパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリックします。

ユーザー名：user
パスワード：user



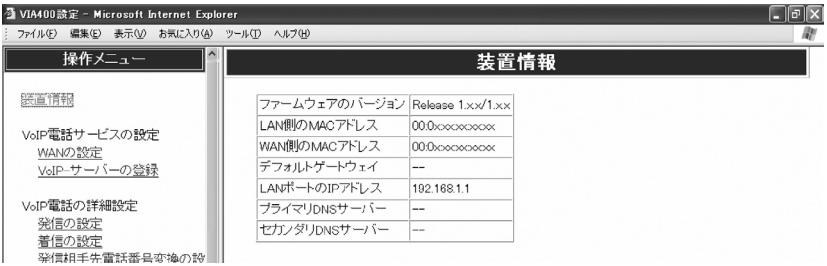
ご注意

●通話中に、本機の設定変更は行わないようにしてください。正常な通話が出来なくなります。

ワンポイント

●上記パスワードは初期値です。運用開始時には安全管理の為にパスワードを変更してください。
●パスワードを変更するには、Web設定で「高度な設定」→「WEB設定パスワードの変更」→「パスワードの変更」。パスワードは最小1文字、最大15文字半角英数字です。大文字小文字の区別します。

4. 正しくユーザー名とパスワードを入力しますと、Web設定画面を表示します。

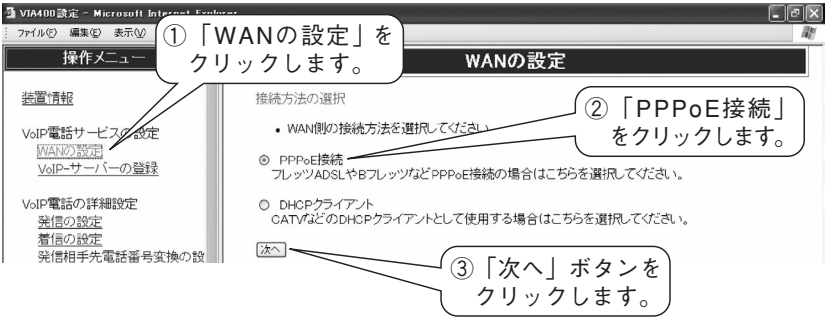


8.2 WAN を設定する（PPPoE 接続の設定例）

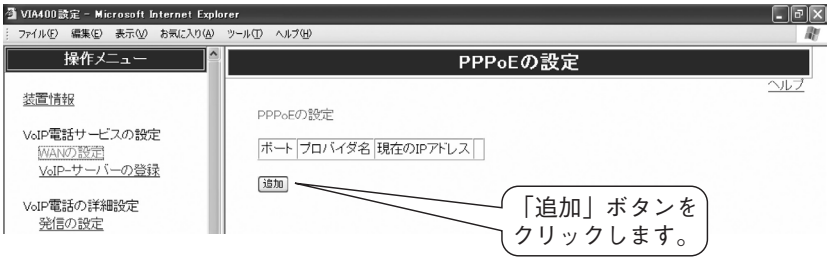
1. 本機のWANランプが点灯していることをご確認ください。WANランプが消灯の場合、ADSLモデム等と正常に接続できていない可能性があります。接続をご確認ください。

2. 「操作メニュー」から「VoIP電話サービスの設定」の「WANの設定」をクリックします。
「接続方法の選択」画面が表示されます。
新規で「PPPoE接続」を行うときに「接続方法の選択」画面を表示しない場合は、「DHCPクライアント」が設定されています。この設定を「削除」してから「再起動」してください。

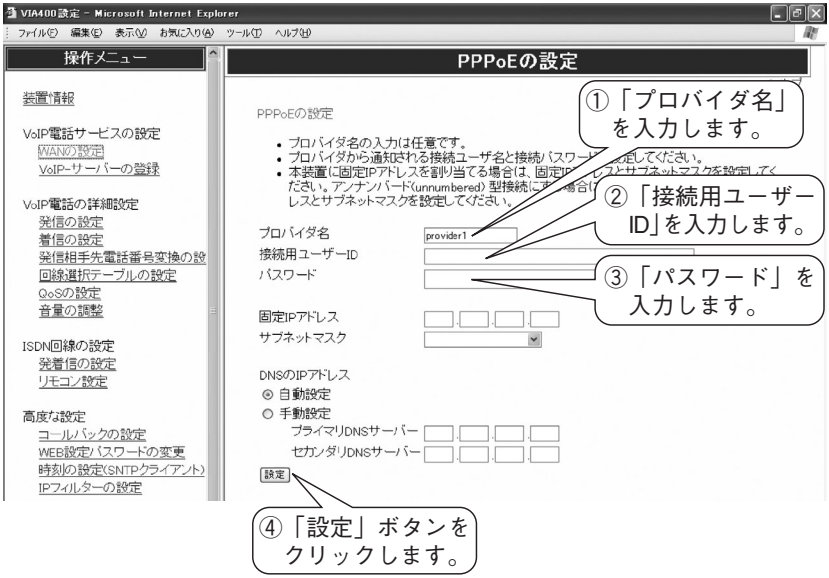
3. 「接続方法の選択」で「PPPoE接続」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックします。



4.「PPPoEの接続」画面で「追加」ボタンをクリックします。



5.「PPPoEの設定」画面で「プロバイダ名」、「接続用ユーザーID」、「パスワード」を入力します。次に、「設定」ボタンをクリックします。(契約書をご用意の上、半角文字で英数字・記号・大文字・小文字の違いをよくご確認ください。)



6.「PPPoEの設定」が空白から設定内容を表示することを確認します。

7. PPPランプが点滅してデータの送受信が行われます。数分経過しても点滅の状態でしたら、「PPPoEの設定」に間違いがあると思われます、再度「PPPoEの設定」画面をご確認ください。

8. PPP接続が確立しますとPPPランプが点灯します。

9. 念のため、「操作メニュー」から「装置情報」をクリックし、「装置情報」画面で装置情報を確認します。「PPPoEポートのIPアドレス」にアドレスが入っている事を確認します。

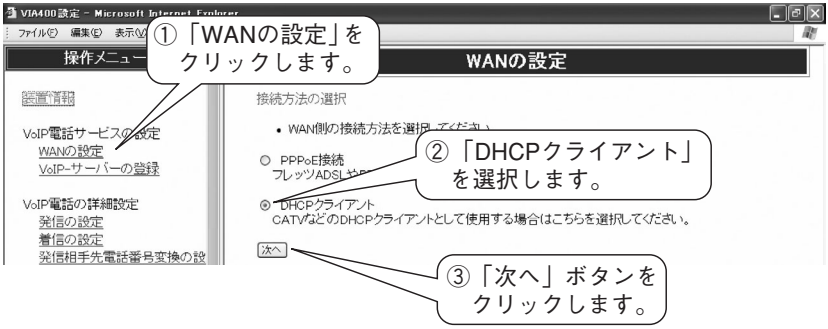
10. これで、ADSLモデム等との設定が完了します。

8.3 WANを設定する（DHCPクライアントの設定例）

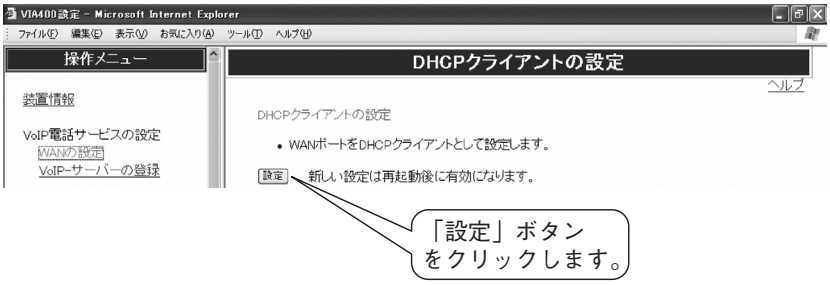
1. 本機のWANランプが点灯していることをご確認ください。WANランプが消灯の場合、ADSLモデム等と正常に接続できていない可能性があります。接続をご確認ください。

2. 「操作メニュー」から「VoIP電話サービスの設定」の「WANの設定」をクリックします。
「接続方法の選択」画面が表示されます。
新規で「DHCPクライアント」を行うときに「接続方法の選択」画面を表示しない場合は、「PPPoE接続」が設定されています。この設定を「削除」します。そして、「操作メニュー」から「メンテナンス」の「装置の再起動」をクリックてから「装置を再起動する」をクリックして「再起動」してください。

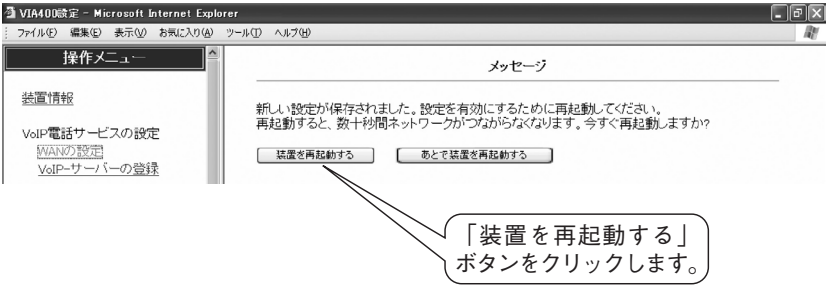
3. 「接続方法の選択」画面で「DHCPクライアント」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックします。



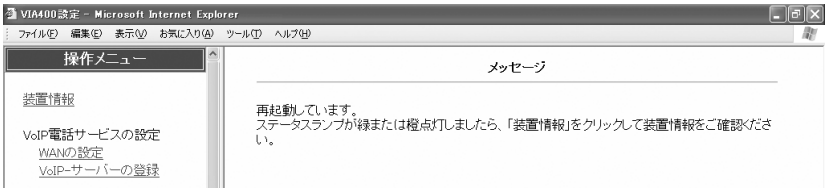
4. 「DHCPクライアントの設定」画面で「設定」ボタンをクリックします。



5.「メッセージ」画面で「装置を再起動する」ボタンをクリックします。

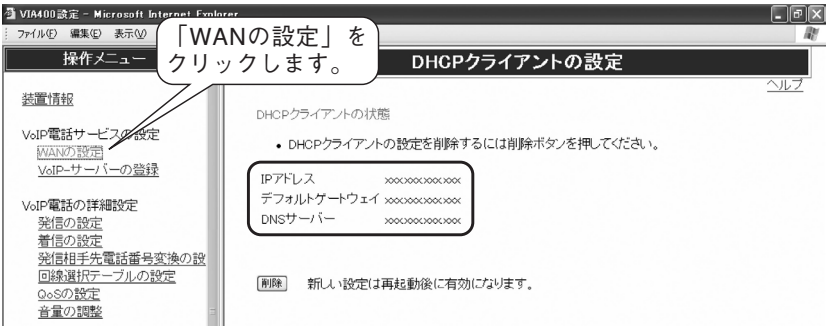


6.「メッセージ」画面には「再起動しています...」の表示が出ますので「ステータスランプ」点灯までしばらくお待ちください。



7. 本機の「ステータスランプ」点灯確認します。「操作メニュー」から「装置情報」をクリックし、「装置情報」画面で装置情報を確認します。「デフォルトゲートウェイ」にアドレスが入っている事を確認します。

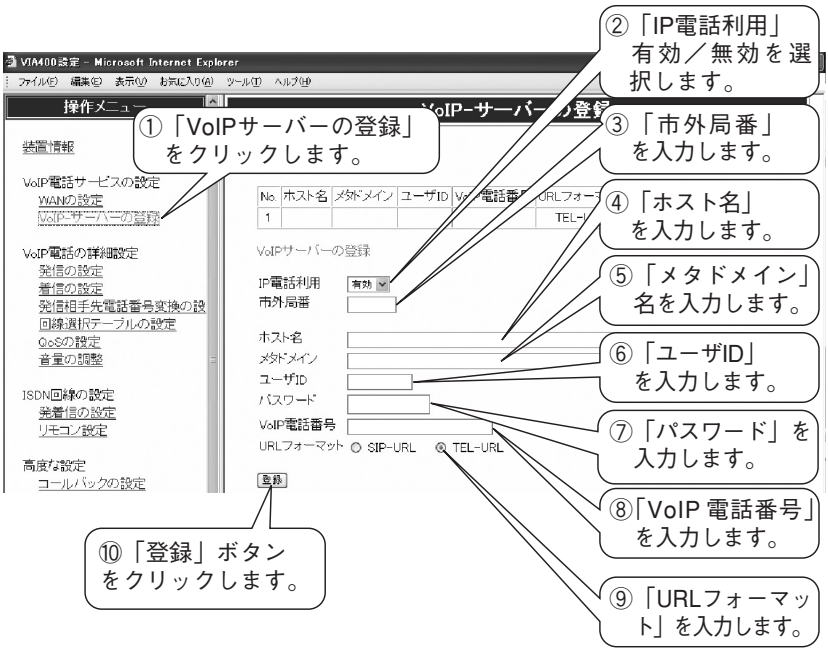
8. 「操作メニュー」から「VoIP電話サービスの設定」の「WANポートの設定」をクリックします。
「DHCPクライアントの状態」画面を確認し、「IPアドレスを取得していません」の表示が出ましたら、WANポートの異常か「接続方法の選択」が間違っています。ISPの契約書等でご確認ください。



9. これで、「DHCPクライアント」の設定は完了します。

8.4 VoIP サーバーを登録する

1. 本機のPPPランプが点灯している事をご確認ください。PPPランプが消灯の場合は、「8.2 WANを設定する」からご確認ください。
2. 「操作メニュー」から「VoIP電話サービスの設定」の「VoIPサーバーの登録」をクリックします。「VoIPサーバーの登録」画面が表示されます。
3. 「VoIPサーバーの登録」画面で、以下の設定を行います。
4. 設定が完了したら、「登録」ボタンをクリックします。



[ ] が初期値です。

項　目	設　定	内　　容
IP電話利用	[有　効]	主にIP電話を利用します。
	無　効	ISDN回線のみを利用します。
市外局番	―	ISDN回線で利用する市外局番を入力します。
ホスト名	―	「ホスト名」を入力します。　設定例　xx.ocn.ne.jp
メタドメイン	―	「メタドメイン」名を入力します。　設定例　ocn.ne.jp
ユーザID	―	「ユーザID」を入力します。
パスワード	―	「パスワード」を入力します。
VoIP電話番号	―	「VoIP電話番号」(基本契約番号)を入力します。 電話番号の間にスペースや記号を入力しないでください。 設定例　050xxxxxxxx又は03xxxxxxx
URLフォーマット	―	IP電話を利用する場合の電話番号通知方式です。VoIPサービスプロバイダーからの指示が無ければ変更の必要は有りません。

5. 「登録」ボタンをクリック後、「装置の再起動」画面に移動しますので、画面の指示に従って再起動してください。

6. 再起動後、ステータスランプ点灯を確認してから、「VoIPサーバーの登録」をクリックして「VoIPサーバーの一覧」が空白から設定内容を表示することを確認します。

7. 本機IP電話ランプが点滅の状態でしたら、VoIPサーバーへの登録エラーです。「VoIPサーバーの登録」に間違いがあると思われます、再度「VoIPサーバーの登録」をご確認ください。

8. VoIPサーバーへの登録が完了しますと本機IP電話ランプが点灯します。

ご注意

- ●市外局番は変更されることがありますので、その都度変更を御願いします。
- ●設定時には、IP電話サービスプロバイダーからの<お申し込み内容のご案内>をご用意の上、半角文字で英数字･記号･大文字･小文字の違いをよくご確認ください。

8.5 発信を設定する

IP電話で発信に関する設定をします。

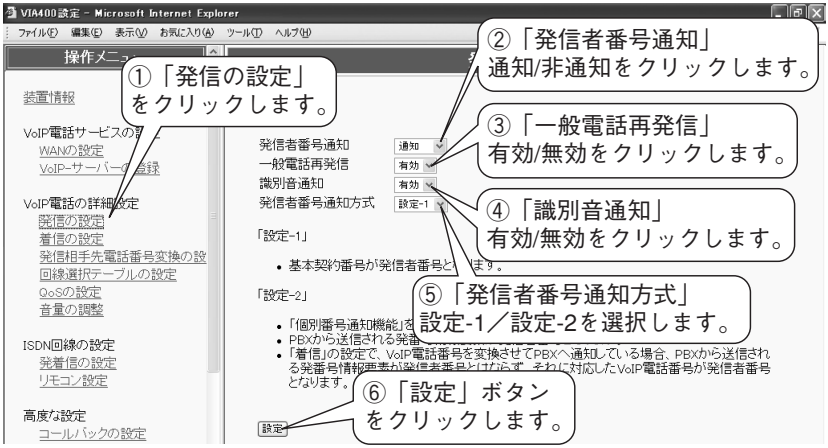
1. 本機のIP電話ランプが点灯している事をご確認ください。IP電話ランプが点滅の場合は、「8.2 WANを設定する」からご確認ください。

2. 「操作メニュー」から「VoIP電話の詳細設定」の「発信の設定」をクリックします。「発信の設定」が表示されます。

3. 「発信の設定」が表示されます。

4. 「発信の設定」画面で、以下の設定を行います。

5. 設定が完了したら、「設定」ボタンをクリックします。



[ ]が初期値です。

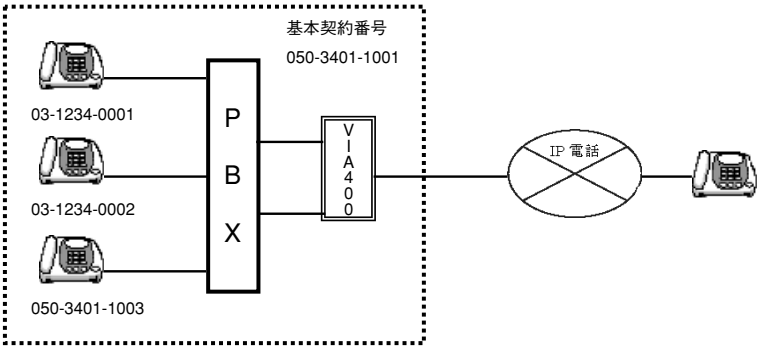
項　目	設　定	内　　容
発信者番号通知	[通　知]	IP電話で相手先に電話番号を通知します。
	非通知	IP電話で相手先に電話番号を通知しません。
一般電話再発信	[有　効]	IP電話が利用できないときに自動的にISDN回線へ発信します。
	無　効	IP電話が利用できないときには発信しません。
識別音通知	[有　効]	発信時にIP電話経由の場合は呼出音の前に“ドミソ”の音を出します。
	無　効	発信時に特別な音を出しません。
発信者番号通知方式	設定-1	「個別番号通知機能」を契約されていない場合。
	設定-2	「個別番号通知機能」を契約されている場合。

「個別番号通知機能」を利用する

PBX から送信される発番号情報要素を使って、IP 電話へ発信者番号を通知します。
IP 電話へ発信者番号の通知は、PBX から送信される発番号情報要素を、「着信の設定」に対応したVoIP電話番号が発信者番号となります。

「個別番号通知機能」をご契約の上、「発信者番号通知方式」を「設定-2」に設定します。

発・着信の運用例



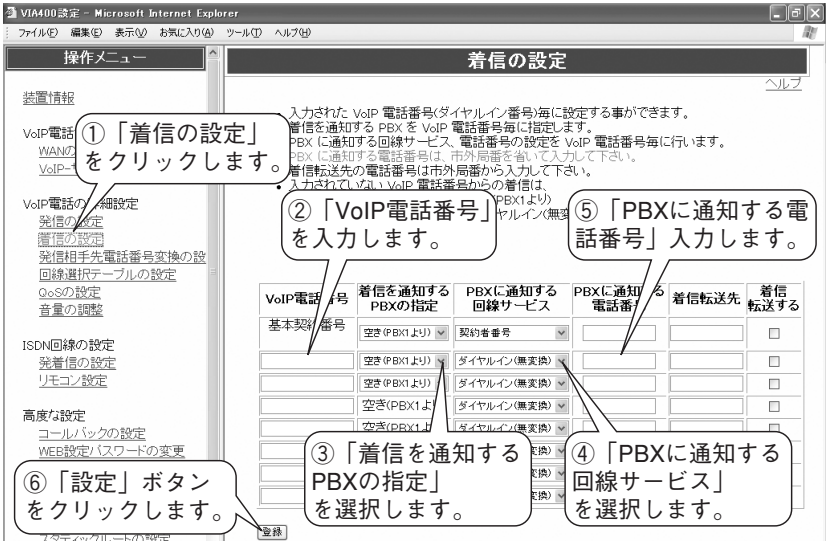
発信番号は以下の様に変換します

発信番号	⇒	VoIP 番号
03-1234-0001（代表番号）	⇒	050-3401-1001（基本契約番号）
03-1234-0002（ダイヤルイン1）	⇒	050-3401-1002（追加番号1）
050-3401-1003（ダイヤルイン2）	⇒	050-3401-1003（追加番号2）

着信番号は以下の様に変換します

回線番号	⇐	着信番号
03-1234-0001（代表番号）	⇐	050-3401-1001（基本契約番号）
03-1234-0002（ダイヤルイン1）	⇐	050-3401-1002（追加番号1）
050-3401-1003（ダイヤルイン2）	⇐	050-3401-1003（追加番号2）

＜設定例＞



本機の設定例

VoIP電話番号	着信を通知するPBXの指定	PBXに通知する回線サービス	PBXに通知する電話番号	備考
基本契約番号	空き（PBX1より）	契約者番号	ー	代表番号
050-3401-1002	空き（PBX1より）	ダイヤルイン（変換）	03-1234-0002	ダイヤルイン1
050-3401-1003	空き（PBX1より）	ダイヤルイン（無変換）	050-3401-1003	ダイヤルイン2

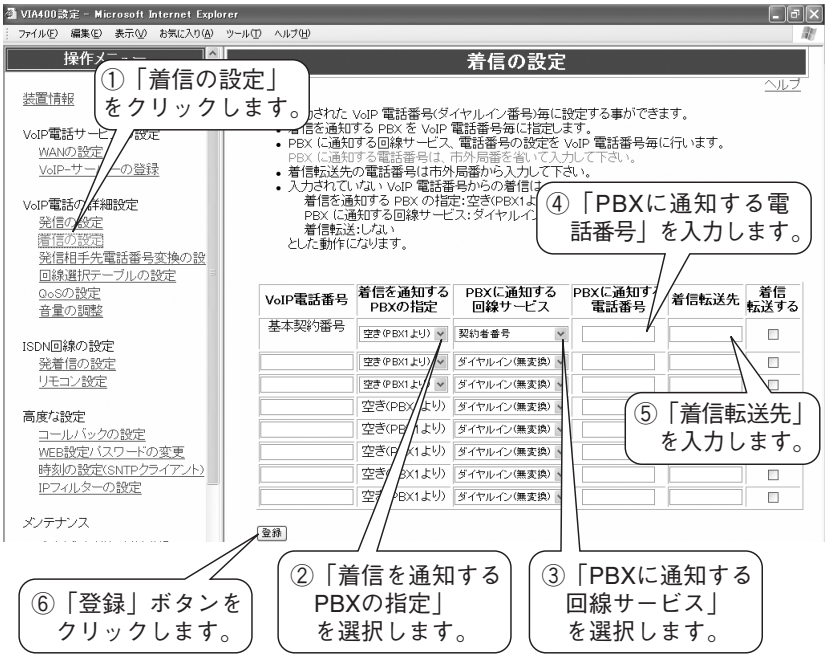
ご注意

- ●番号変換可能な電話番号は、ダイヤルイン番号として最大8件迄です。
- ●「VoIP電話番号」に設定していない着信は、「ダイヤルイン（無変換）」として「空き（PBX1より）」に通知します。

8.6 着信を設定する

IP電話で着信に関する設定をします。

1. 本機のIP電話ランプが点灯している事をご確認ください。IP電話ランプが点滅の場合は、「8.2 WANを設定する」からご確認ください。
2. 「操作メニュー」から「VoIP電話の詳細設定」の「着信の設定」をクリックします。「着信の設定」が表示されます。
3. 「着信の設定」画面で、以下の設定を行います。
4. 設定が完了したら、「登録」ボタンをクリックします。



[ ]が初期値です。

項　目	内　　容	
VoIP電話番号	基本契約番号以外のオプション契約「ダイヤルイン」番号を入力します。電話番号の間にスペースや記号を入力しないでください。 注意：VoIP電話番号に登録していない番号で着信すると、「空き（PBX1より）」・「ダイヤルイン（無変換）」・着信転送「しない」とした動作になります。	
着信を通知するPBXの指定	PBX1	IP電話での着信通知をPBX1ポートにします。空きチャンネルが無い時はビジー音が聞こえます。
	PBX2	IP電話での着信通知をPBX2ポートにします。空きチャンネルが無い時はビジー音が聞こえます。
	[空き（PBX1より）]	IP電話での着信通知をPBX1ポートより行います。PBX1がビジーの場合、PBX2ポートへ着信し、空きチャンネルが無い時はビジー音が聞こえます。 注意：VoIP電話番号の上から4番目以降は変更できません。
PBXに通知する回線サービス	[契約者番号]	IP電話での着信を契約者番号としてPBXへ通知します。
	[ダイヤルイン（無変換）]	IP電話での着信番号を変換しないでダイヤルイン番号としてPBXへ通知します。
	ダイヤルイン（変換）	IP電話での着信番号を「PBXに通知する電話番号」をダイヤルイン番号としてPBXへ通知します。
	iナンバー1	IP電話での着信を「PBXに通知する電話番号」をi・ナンバー1番号としてPBXへ通知します。
	iナンバー2	IP電話での着信を「PBXに通知する電話番号」をi・ナンバー2番号としてPBXへ通知します。
	iナンバー3	IP電話での着信を「PBXに通知する電話番号」をi・ナンバー3番号としてPBXへ通知します。
PBXに通知する電話番号	IP電話での着信をダイヤルイン（変換）又は、i・ナンバーとしてPBXに通知する電話番号を設定します。32桁迄の半角数字を市外局番を省いて入力します。	
着信転送先	IP電話で着信した場合、「着信転送する」を☑にしていれば、ここで入力した32桁迄の半角数字を着信転送先電話番号とします。	
着信転送する	☑でIP電話の着信転送機能を有効にします。ボタン電話機又はリモートより設定可能です。	

●着信転送については、詳しくは「11.7 着信転送するには」をご参照ください。

8.6.1 契約者番号の設定

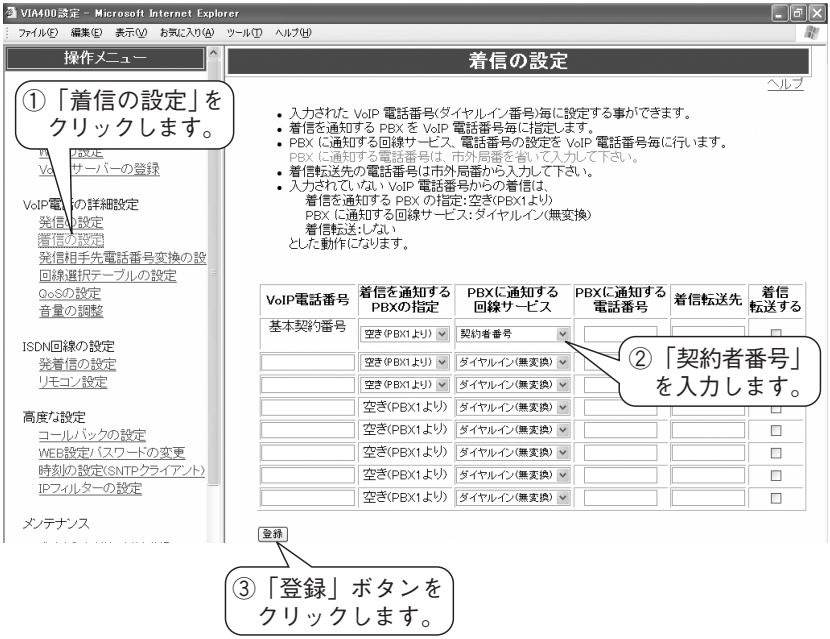
VoIP電話番号毎に契約者番号（グローバル着信）としてPBXへ通知します。

1. 本機のIP電話ランプが点灯している事をご確認ください。IP電話ランプが点滅の場合は、「8.2 WANを設定する」からご確認ください。

2. 「操作メニュー」から「VoIP電話の詳細設定」の「着信の設定」をクリックします。

3. 「着信の設定」画面の「PBXに通知する回線サービス」で「契約者番号」を選択します。「PBXに通知する電話番号」の入力は必要有りません。

4. 設定が完了したら、「登録」ボタンをクリックします。



項　目	内　容	
PBX に通知する回線サービス	契約者番号	IP 電話での着信を契約者番号として PBX へ通知します。

ご注意

- ●設定に関係なく、発信者番号通知は基本契約（050）番号です。
- ●「一般加入電話番号によるIP-IP着信」と一般加入電話番号（0AJ）／050併用利用を契約され、基本契約番号が050で始まる番号の場合、一般加入電話番号又は050番号での着信は、初期値ではダイヤルイン番号として着信します。契約者番号で着信させるには、「VoIP電話番号」に「一般加入電話番号」を入力・「PBXに通知する回線サービス」を「契約者番号」に登録する必要が有ります。

8.6.2 ダイヤルイン又はｉ・ナンバーの設定

VoIP電話番号毎でダイヤルイン又はｉ･ナンバー1～3に入力した番号を電話番号としてPBXへ通知します。

1. 本機のIP電話ランプが点灯している事をご確認ください。IP電話ランプが点滅の場合は、「8.2 WANを設定する」からご確認ください。

2. 「操作メニュー」から「VoIP電話の詳細設定」の「着信の設定」をクリックします。

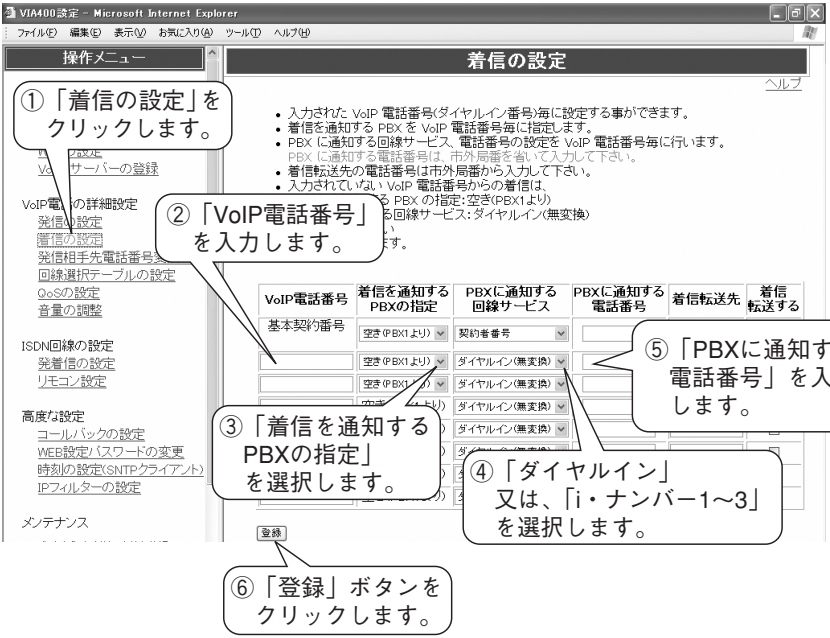
3. 基本契約番号以外のオプション契約「ダイヤルイン」番号を「VoIP電話番号」に入力します。

4. 「着信を通知するPBXの指定」でIP電話での着信を通知するPBXポートを指定します。

5. 「PBXに通知する回線サービス」で「ダイヤルイン」又は「ｉ･ナンバー1～3」を選択します。

6. 「ダイヤルイン（変換）」又は「ｉ･ナンバー」としてPBXに通知する電話番号を入力します。登録電話番号は1～32桁迄の半角数字で、電話番号の間にスペースや記号を入力しないでください。（市外局番を除いて登録します。また、「ダイヤルイン（無変換）」では電話番号の入力は必要が有りません。）

7. 設定が完了したら、「登録」ボタンをクリックします。



[ ]が初期値です。

項　目	内　　容	
VoIP電話番号	基本契約番号以外のオプション契約「ダイヤルイン」番号を入力します。 電話番号の間にスペースや記号を入力しないでください。 注意：VoIP電話番号に登録していない番号で着信すると、「空き（PBX1より）」・「ダイヤルイン（無変換）」・着信転送「しない」とした動作になります。	
着信を通知するPBXの指定	PBX1	IP電話での着信通知をPBX1ポートにします。空きチャンネルが無い時はビジー音が聞こえます。
	PBX2	IP電話での着信通知をPBX2ポートにします。空きチャンネルが無い時はビジー音が聞こえます。
	[空き（PBX1より）]	IP電話での着信通知をPBX1ポートより行います。PBX1がビジーの場合、PBX2ポートへ着信し、空きチャンネルが無い時はビジー音が聞こえます。 注意：VoIP電話番号の上から4番目以降は変更できません。
PBXに通知する回線サービス	契約者番号	IP電話での着信を契約者番号としてPBXへ通知します。
	[ダイヤルイン（無変換）]	IP電話での着信を番号変換無しでダイヤルイン番号としてPBXへ通知します。
	ダイヤルイン（変換）	IP電話での着信を下項の設定番号をダイヤルイン番号としてPBXへ通知します。
	iナンバー1	IP電話での着信を下項の設定番号をi・ナンバー1番号としてPBXへ通知します。
	iナンバー2	IP電話での着信を下項の設定番号をi・ナンバー2番号としてPBXへ通知します。
	iナンバー3	IP電話での着信を下項の設定番号をi・ナンバー3番号としてPBXへ通知します。
PBXに通知する電話番号	IP電話での着信をダイヤルイン（変換）又は、i・ナンバーとしてPBXに通知する電話番号を設定します。32桁迄の半角数字を市外局番を省いて入力します。	

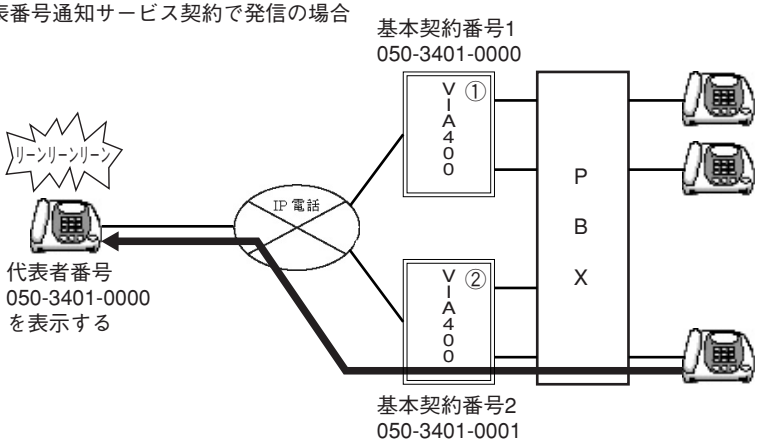
ご注意

●設定に関係なく、発信者番号通知は基本契約（050）番号です。

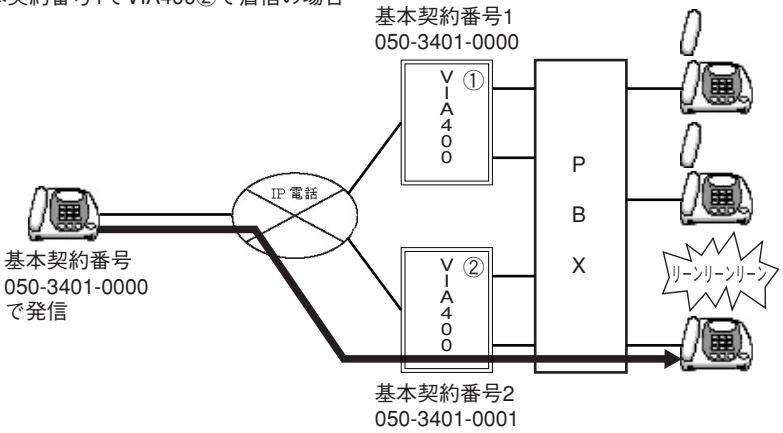
8.6.3 代表サービス（複数端末利用）

複数端末で代表サービスを利用する場合、各端末の「基本契約番号通知」に加え、「代表番号通知」も相手先に表示する発信者番号として設定が出来ます。このサービスは、申し込みにより「基本契約番号通知」と「代表番号通知」を選択出来ます。

代表番号通知サービス契約で発信の場合



基本契約番号1でVIA400②で着信の場合



ご注意

●VIA400①で空きチャンネルが無く、代表サービスによりVIA400②で着信させる場合、VIA400②の「操作メニュー」から「VoIP電話の詳細設定」の「着信の設定」をクリックし、「VoIP電話番号」を「05034010000」・「PBXに通知する回線サービス」を「契約者番号」と設定してください。

8.7 発着信を設定する（ISDN 回線）

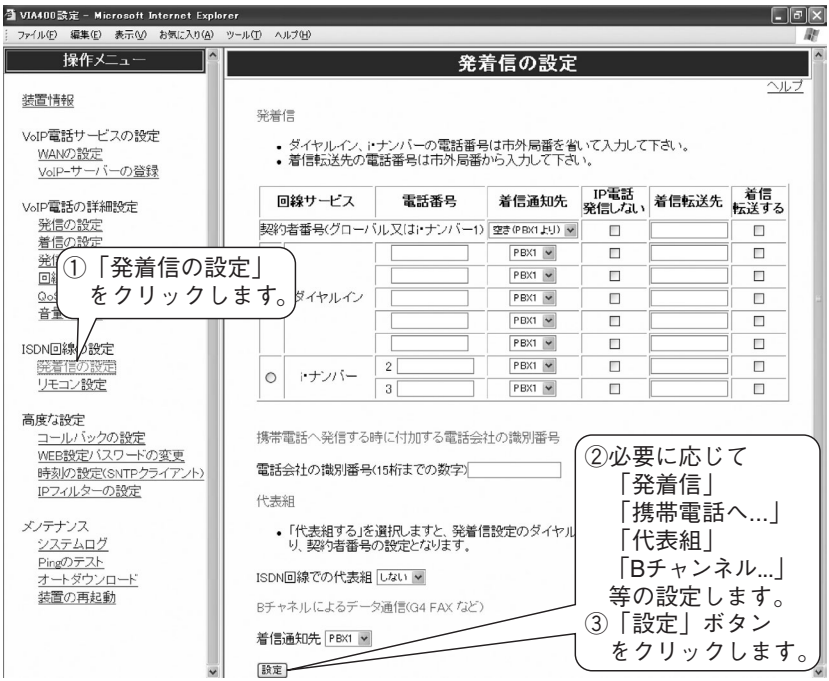
ISDN回線との発着信を接続PBXに合わせて設定ください。

1. 本機のIP電話ランプが点灯している事をご確認ください。IP電話ランプが点滅の場合は、「8.2 WANを設定する」からご確認ください。

2. 「操作メニュー」から「ISDN回線の設定」の「発着信の設定」をクリックします。

3. 「発着信の設定」画面で、以下の設定を行います。

4. 設定が完了したら、「設定」ボタンをクリックします。



ワンポイント

- 「発着信」については、詳しくは「11.1 FAXの送受信をISDN回線で利用するには」をご参照ください。
- 「着信転送」については、詳しくは「11.7 着信転送するには」をご参照ください。
- 「携帯電話へ...」については、次ページ中をご参照ください。
- 「代表組」については、詳しくは「9.1 代表組を使うには」をご参照ください。
- 「Bチャンネル...」については、詳しくは「11.2 G4 FAXを利用するには」をご参照ください。

[ ]が初期値です。

項　目	内　　容	
発着信（詳しくは、「11.1 FAXの送受信をISDN回線で利用するには」をご参照ください）		
回線サービス	契約のダイヤルイン又はｉ・ナンバー2／3に合わせて選択します。	
電話番号	回線サービスをダイヤルイン又はｉ・ナンバー2／3に選択した場合は、着信通知先を決めるために、電話番号を市外局番無しで32桁迄の半角数字を入力します。	
着信通知先（契約者番号）	[空き（PBX1より）]	ISDN回線からの着信通知先が空きチャンネルのPBX1又はPBX2になります。
	PBX1	ISDN回線からの着信通知先がPBX1になります。
	PBX2	ISDN回線からの着信通知先がPBX2になります。
着信通知先（ダイヤルイン/i-ナンバー）	[PBX1]	ISDN回線からの着信通知先がPBX1になります。
	PBX2	ISDN回線からの着信通知先がPBX2になります。
IP電話発信しない	☑すると、「0000」のプリフィックスを付けずにISDN回線へ発信します。これにより、FAX等に登録している短縮番号を変更せずにISDN回線へ発信できます。	
着信転送先	ISDN回線からの着信をここで入力した32桁迄の半角数字を着信転送先電話番号とします。（詳しくは、「11.7 着信転送するには」をご参照ください）	
着信転送する	☑すると、ISDN回線からの着信を「着信転送先」に入力した電話番号へ転送します。	
携帯電話へ発信する時に付加する電話会社の識別番号		
電話会社の識別番号	ISDN回線から携帯電話へ発信する時に、ここで入力した数字を電話会社の識別番号として先頭に付加します。これにより、ISDN回線から携帯電話への通話料を節減できます。「0000」を先頭に付加して携帯発信でも正常に利用できます。 最大15桁迄の半角数字を入力します。マイライン契約と異なる電話会社を利用する場合、ご契約の上、122（マイライン解除番号）＋xxxx（電話会社の識別番号）を設定する必要があります。	
代表組（詳しくは、「9.1 代表組を使うには」をご参照ください）		
ISDN回線での代表組	[しない]	ISDN回線で代表組を利用されない場合に選択します。
	する	・ISDN 回線で代表組を利用の場合に選択します。 ・着信は、「回線サービス」の契約者番号設定に従います。 ・発信は、「発着信の設定」に従います。 ・発着信において番号通知情報の変更は行いません。
Bチャンネルによるデータ通信（G4 FAXなど）（詳しくは、「11.2 G4 FAXを利用するには」をご参照ください）		
着信通知先	[PBX1]	発着信の項目で契約者番号の「着信通知先」を「空き（PBX1より）」の設定にしますと、ISDN回線でBチャンネルによるデータ通信の着信通知先がPBX1になります。
	PBX2	発着信の項目で契約者番号の「着信通知先」を「空き（PBX1より）」の設定にしますと、ISDN回線でBチャンネルによるデータ通信の着信通知先がPBX2になります。

ご注意

- ダイヤルイン又はｉ・ナンバー2／3において契約と異なる設定をしますと、設定と異なる着信は契約者番号での着信扱いとなります。但し、契約者番号の着信転送機能とは連動しません。
- 「IP電話発信しない」を☑した上で、「0000」を先頭に付加して発信しますと誤動作します。

8.8 詳細な設定をする

本機で詳細な設定内容を変更するにはパソコンからInternet Explorer(5.0以降)を使って「管理者用のログイン」で設定する必要があります。

設定での入力は半角で大文字･小文字をご確認の上　正しく入力を御願いします。

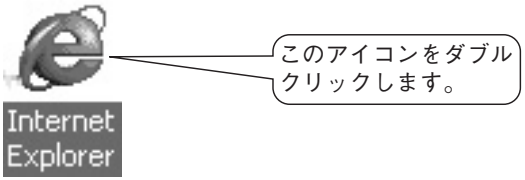
(**注意：**仕様の変更により説明書の Web 画面と多少異なる事がございます。)

ご注意

- ●管理者モードは､弊社ホームページから管理者用説明書をダウンロードするか､Web設定の設定画面右上隅のヘルプをクリック後､オンラインヘルプをご参照の上ご利用ください。
- ●記載している専門用語を充分ご理解の上でご利用下さい｡不用意に設定されますと､設定内容が不適切な場合､通信不能や設定不能になる事があります。
- ●新たな設定で､通信不能になった場合は､設定を元に戻して設定の誤りをお調べください。
- ●新たな設定で､設定不能になった場合は､本機背面の「初期化スイッチ」を押しながら電源を入れて､全設定を初期化してから改めて設定をやり直してください｡詳しくは､「12.3 設定初期化」をご参照ください。
- ●IP通話中にデータ通信を行うと､IP電話の音声品質が保てなくなることが有ります｡その場合は､「VoIP電話の詳細設定」→「QoSの設定」画面を表示して画面右上隅のヘルプをクリック後､オンラインヘルプをご参照ください。

8.8.1 Web 設定を使用する

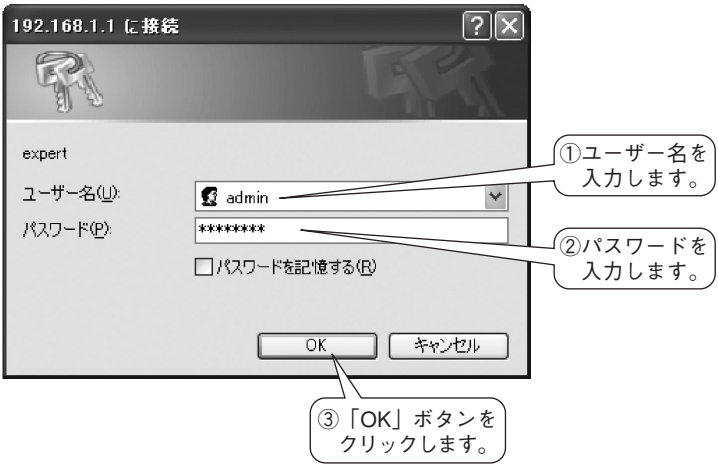
1. パソコンよりInternet Explorer(5.0以降)アイコンをダブルクリックします。



2. URLフィールドに本機のIPアドレス「192.168.1.1/Exp」を入力し､Enterキーを押します。

3. ユーザー名とパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリックします。

ユーザー名：admin
パスワード：administ



ワンポイント

●パスワードを変更するには、Web設定で「高度な設定」→「ＷＥＢ設定パスワードの変更」→「パスワードの変更」。パスワードは最小1文字、最大15文字半角英数字です。大文字小文字の区別します。
●ユーザー名は変更できません。

4. 正しくユーザ名とパスワードを入力しますと、Web設定画面が表示されます。

8.8.2 管理者用の設定

管理者用設定項目には、ユーザー用に比べて下記項目を追加しています。

> LANの設定
> DHCPサーバーの設定
> スタティックルートの設定
> NATの設定
> 設定の初期化
> 設定ファイルの書き込み／取得

各設定項目の詳細は、管理者モードの説明書を弊社ホームページからダウンロードしてから利用して頂くか、Web設定の設定画面　右上隅のヘルプをクリック後、オンライヘルプをご参照ください。

9　着信するには

IP電話とISDN回線の両方から着信できます。
ISDN回線で代表組を利用の場合は、「9.1 代表組を使うには」をご参照ください。
ただし、電話の着信は下記条件で行っています。

- 空きチャンネル１つでISDN回線とIP電話から着信が同時の場合、どちらの網を着信するかは不定です。
- 空きチャンネル１つでISDN回線から着信し、PBXからの発信が同時に発生した場合、着信か発信かは不定です。
- 空きチャンネル１つでIP電話から着信し、PBXからの発信が同時に発生した場合、両方ともビジーとなります。
- 空きチャンネルが無く、ISDN回線から新たに着信した場合、発信側へビジー音を返します。
- 空きチャンネルが無く、IP電話から新たに着信した場合、発信側へビジー音を返します。

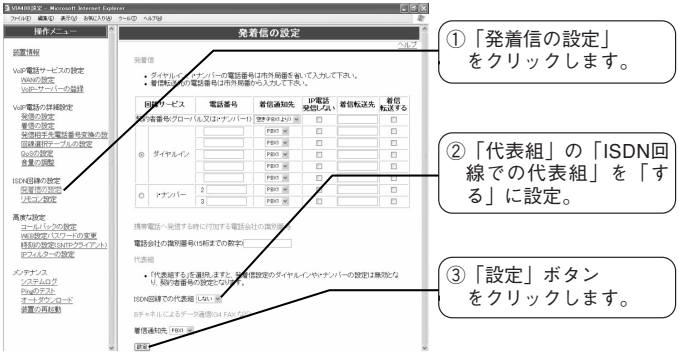
ワンポイント

●本機をIP電話専用として利用される場合、設定スイッチ2（ISDN回線着信）をON（禁止）に設定してください。

9.1 代表組を使うには

ISDN回線で代表組を利用の場合は下記設定が必要です。

1. 本機のIP電話ランプが点灯している事をご確認ください。IP電話ランプが点滅の場合は、「8.2 WANを設定する」からご確認ください。
2. 「操作メニュー」から「ISDN回線の設定」の「発着信の設定」をクリックします。
3. 「発着信の設定」画面で、「代表組」の「ISDN回線での代表組」を「する」に設定します。
4. 設定が完了したら、「設定」ボタンをクリックします。



ご注意

●「代表組を使用する」を設定する場合は、INSネット64付加サービスの発信専用制御（「インタフェース単位制御モード」）の契約が必ず必要です。（局番なし「116」番（NTT）でお申し込みください。2005/5/31現在　工事費・月々の費用共無料です。）

10 発信するには

発信の操作は、今までと同じです。
ただし、次のことが異なります。

- 緊急電話等の特殊な電話番号以外は、IP電話へ発信します。
- 続けて電話を利用の場合は、受話器を2秒以上置いてから利用ください。
- 回線選択テーブルを登録しますとISDN回線へ発信します。(設定にはWeb設定の「VoIP電話の詳細設定」→「回線選択テーブルの設定」→「回線選択テーブルへ追加」で設定可能です。)
- 発信先がIP電話経由で接続した場合、“ドミソ”の音が流れてから相手に接続します。(B1、又はB2ランプが点滅します。)
- 発信先がIP電話経由で一般電話に接続した場合、“ドミ”の音が流れてから相手に接続します。(B1、又はB2ランプが点滅します。)
- IP電話サービスに何らかの障害がある場合は、「一般電話再発信」「有効」の場合、発信のとき受話器から「ピピ」と聞こえてから、ISDN回線へ発信します。「一般電話再発信」「無効」の場合は、発信のとき受話器から「ピピ」と聞こえてから、ビジートーン(話中音)が聞こえます。
- ISDN回線へ直接発信するには、電話番号の先頭に「0000」を付加してください。(「0000」の番号はWeb設定の「VoIP電話の詳細設定」→「回線選択テーブルの設定」→「プリフィックス設定」で変更可能です。)
- 「5555」の4桁発信は機能設定用ですので、IP電話およびISDN回線へ発信できません。

発信に関する詳細動作は、「14.1 本機通話に関するランプと識別音について」をご参照ください。

ワンポイント

●本機をIP電話専用として利用される場合、設定スイッチ1(ISDN回線発信)をON(禁止)に設定してください。

ご注意

●発信者番号通知は基本契約(050)番号のみです。
●緊急電話等の特殊な電話番号以外は、IP電話へ発信します。詳細は「14.6 回線選択テーブル」をご参照ください。
●「5555」の4桁発信は、IP電話およびISDN回線へ発信できません。
●「回線選択テーブル」に登録した電話番号は、ISDN回線へ発信します。
●「186(通知)」「184(非通知)」を相手先電話番号の最初に付加して発信した場合、「発信者番号通知」の設定よりも優先します。
●ISDN回線への直接発信は、本機接続前と同じ条件で発信者番号通知が可能です。
●発信先で非課金ガイダンス等をご利用の際、冒頭で数秒間可聴できませんのでご注意ください。

10.1 IP電話やISDN回線に発信できない電話番号

下記電話番号は、機能設定用となっていますので、IP電話やISDN回線に発信できません。

5555(本機の設定に使用)

11 便利な機能

11.1 FAXの送受信をISDN回線で利用するには

本機の初期値では、FAXの送受信でIP電話やISDNの区別は致しません。FAX専用のダイヤルイン又はｉ・ナンバーの契約をされている場合、これから説明する設定で今までと変わらずISDN回線を使ってFAXの送受信ができます。

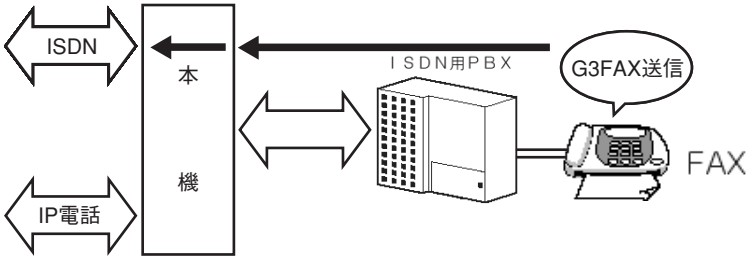
11.1.1 FAX送信でISDN回線のみ利用の場合

FAXで送信の際、ISDN回線のみを利用される場合は以下の設定が必要です。この設定をしない場合、FAXの発信はすべてIP電話の方へ送信します。

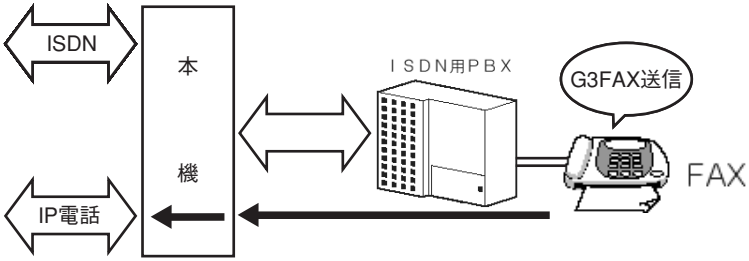
設置例

FAX専用をISDN回線のｉ・ナンバー2（電話番号　１２３４０００２）で契約されている場合。

☑ IP電話発信しない... ｉ・ナンバー2で登録しているFAXは、「0000」のプリフィックスを付けずにISDN回線へ発信します。



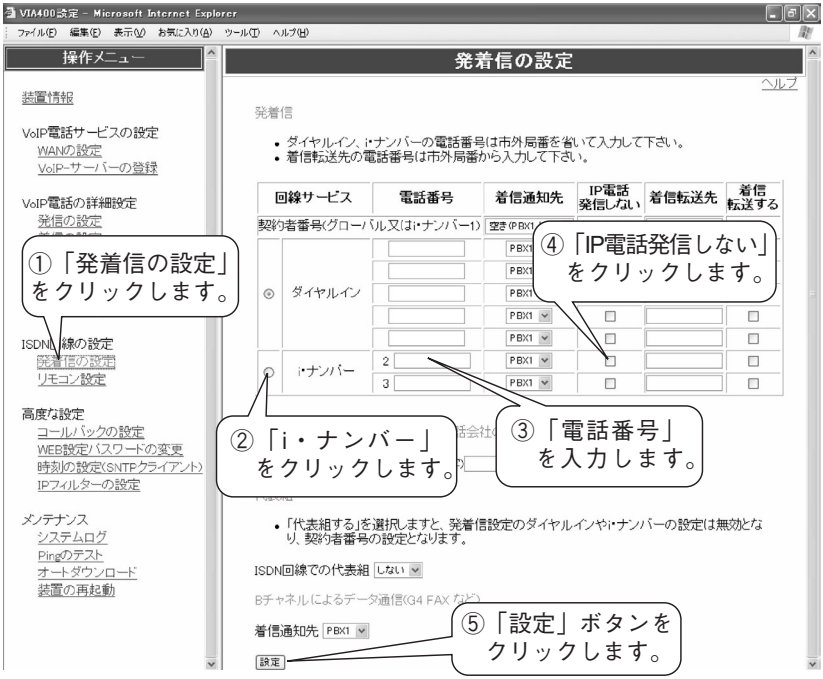
☐ IP電話発信しない（初期値）... ｉ・ナンバー2で登録しているFAXはIP電話へ発信します。「0000」のプリフィックスを付けるとISDN回線へ発信します。



ご注意

●「IP電話発信しない」を☑した上で、「0000」を先頭に付加して発信しますと誤動作します。

Web設定方法(設置例を元に設定します。)



①「操作メニュー」から「ISDN回線の設定」の「発着信の設定」をクリックします。
②「発着信の設定」の「ｉ・ナンバー」に「◉」します。
③「電話番号」として「ｉ・ナンバー２」に「１２３４００００２」を入力します。
④「IP電話発信しない」に「☑」します。
⑤「設定」ボタンをクリックします。(これで設定完了です。)

項　目	内　　容
回線サービス	契約のダイヤルイン又はｉ・ナンバー2／3に合わせて選択します。
電話番号	回線サービスをダイヤルイン又はｉ・ナンバー2／3に選択した場合は、契約の電話番号を市外局番無しで32桁迄の半角数字を入力します。
IP電話発信しない	☑すると、「0000」のプリフィックスを付けずにISDN回線へ発信します。これにより、FAX等に登録している短縮番号を変更せずにISDN回線へ発信できます。

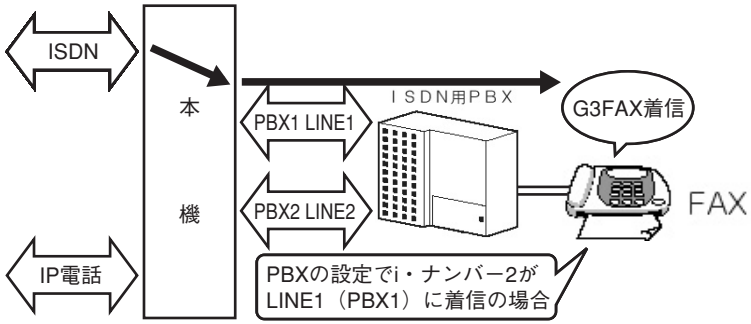
11.1.2 FAX受信をISDN回線限定で利用する場合

FAX専用のダイヤルイン又はｉ･ナンバーの契約をされている場合、これから説明する設定で今までと変わらずISDN回線を使ってFAXの受信ができます。

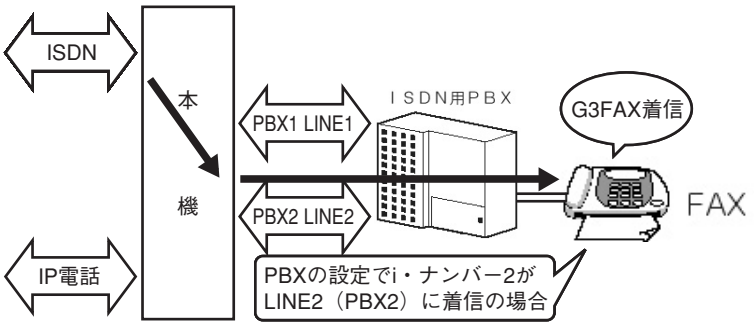
設置例

FAX専用をｉ･ナンバー2(電話番号　１２３４０００２)で契約されている場合。

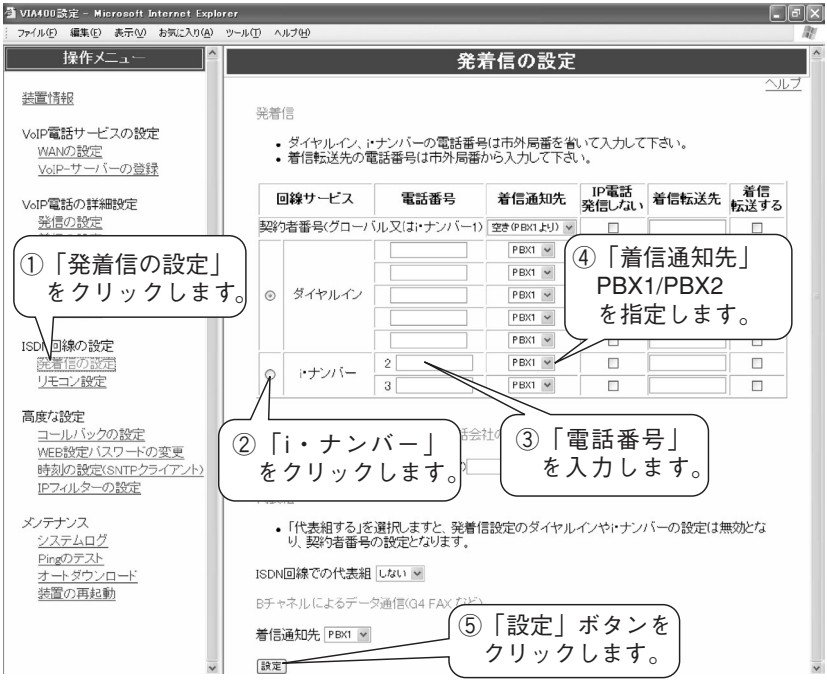
PBX1(初期値)...ISDN回線からｉ･ナンバー2の着信は着信通知先がPBX1になります。



PBX2...ISDN回線からｉ･ナンバー2の着信は着信通知先がPBX2になります。



Web設定方法(設置例を元に設定します。)



①「操作メニュー」から「ISDN回線の設定」の「発着信の設定」をクリックします。
②「発着信の設定」の「ｉ・ナンバー」に「◉」します。
③「電話番号」として「ｉ・ナンバー２」に「１２３４００００２」を入力します。
④「着信通知先」に「PBX1」又は「PBX2」を指定します。
⑤「設定」ボタンをクリックします。(これで設定完了です。)

[　　]が初期値です。

項　目	内　　容	
回線サービス	契約のダイヤルイン又はｉ・ナンバー2／3に合わせて選択します。	
電話番号	回線サービスをダイヤルイン又はｉ・ナンバー2／3に選択した場合は、契約の電話番号を市外局番無しで32桁迄の半角数字を入力します。	
着信通知先	[PBX1]	ISDN回線からの着信通知先がPBX1になります。
	PBX2	ISDN回線からの着信通知先がPBX2になります。

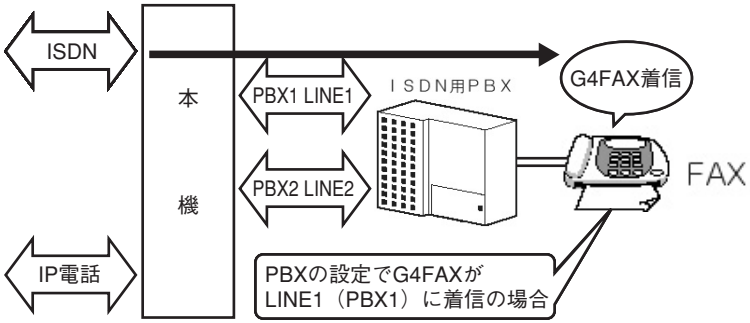
11.2 G4 FAX を利用するには

本機の初期値では、G4 FAX受信の区別は致しません。これから説明する設定で今までと変わらずISDN回線からG4 FAXの受信等（Bチャンネルによるデータ通信）ができます。
G4 FAX送信はISDN回線へ発信します。

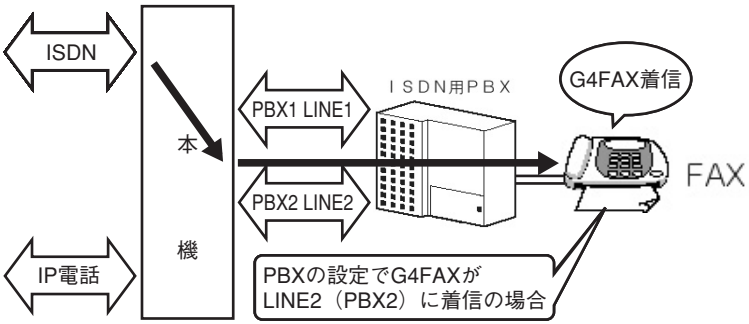
設置例

G４　FAXを受信する場合。

PBX1（初期値）. . . ISDN回線でBチャンネルによるデータ通信の着信通知先がPBX1になります。



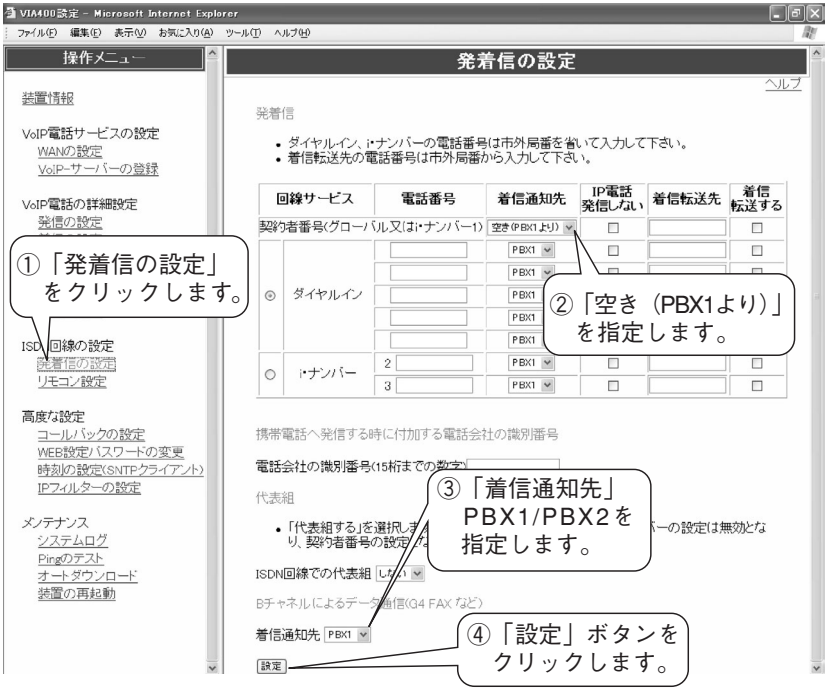
PBX2. . . ISDN回線でBチャンネルによるデータ通信の着信通知先がPBX2になります。



ご注意

●上記設定は、「ダイヤルイン」又は「ｉ･ナンバー」の「着信通知先」設定が優先されます。例えば、ダイヤルインで「着信通知先」の指定があり、そのダイヤルイン番号でG4 FAXの着信があれば、「Bチャンネルによるデータ通信」の設定は無視します。

Web設定方法(設置例を元に設定します。)



①「操作メニュー」から「ISDN 回線の設定」の「発着信の設定」をクリックします。
②「発着信」の「契約者番号(グローバル又は i・ナンバー 1)」を「着信通知先」に「空き(PBX1 より)」を指定します。
③「B チャンネルによるデータ通信(G4 FAX など)」の「着信通知先」に「PBX1」又「PBX2」を指定します。
④「設定」ボタンをクリックします。(これで設定完了です。)

[ ]が初期値です。

項　目	内　容	
着信通知先	[PBX1]	発着信の項目で契約者番号の「着信通知先」を「空き(PBX1より)」の設定にしますと、ISDN回線でBチャンネルによるデータ通信の着信通知先がPBX1になります。
	PBX2	発着信の項目で契約者番号の「着信通知先」を「空き(PBX1より)」の設定にしますと、ISDN回線でBチャンネルによるデータ通信の着信通知先がPBX2になります。

11.3 PBXのダイヤルイン、ｉ・ナンバー機能をIP電話で利用するには

PBXの設定を変更せずにダイヤルイン､i･ナンバー機能をIP電話で利用するには､契約済みのISDNのダイヤルイン､i･ナンバー番号を本機に設定する必要があります。

11.3.1 ダイヤルインでの参考例

ISDN回線で代表組･契約者回線番号･ダイヤルインを2番号を契約済みの場合､PBXの設定変更無しでIP電話番号の着信をISDN回線での契約と同様に利用できます。

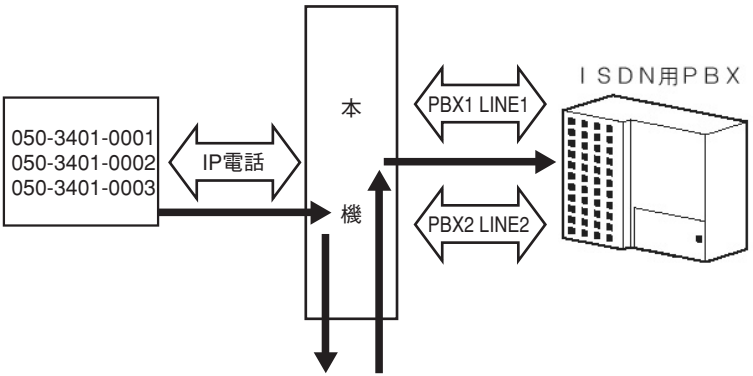
設置例

オプションの050ダイヤルイン追加番号を2番号契約し､その2番号をISDNのダイヤルイン契約番号として利用する場合。

下記表を契約例とします

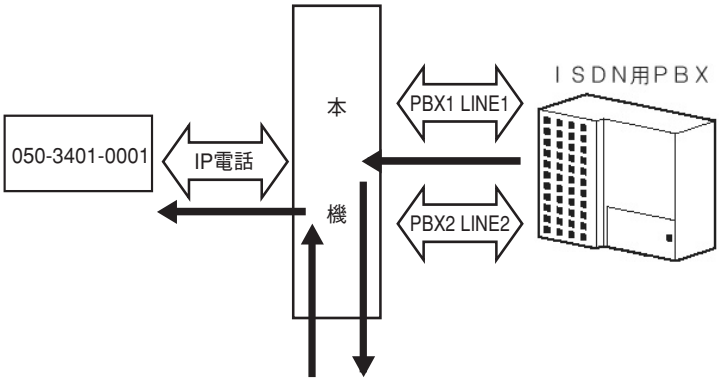
ISDNのサービス名称	ISDN回線番号	VoIP電話番号	IP電話番号
契約者番号	1234-0001	基本契約番号	050-3401-0001
ダイヤルイン	1234-0002	追加番号	050-3401-0002
ダイヤルイン	1234-0003	追加番号	050-3401-0003

着信時の番号変換について



●基本契約番号「05034010001」の着信を契約者番号「12340001」として空きチャンネルへ着信通知します。
●追加番号「05034010002」の着信をダイヤルイン「12340002」として空きチャンネルへ着信通知します。
●追加番号「05034010003」の着信をダイヤルイン「12340003」として空きチャンネルへ着信通知します。

発信者番号通知について

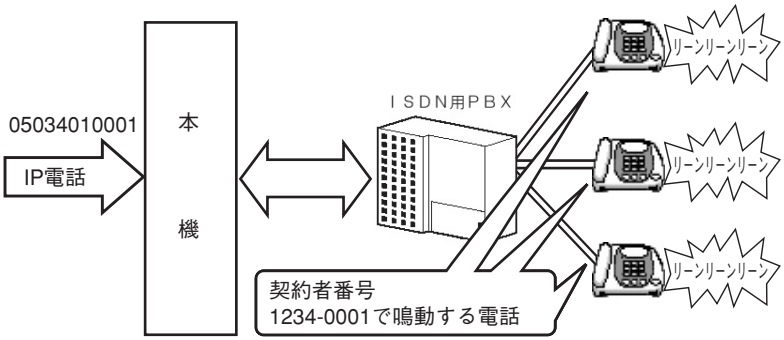


●発信者番号通知は基本契約番号「05034010001」のみです。

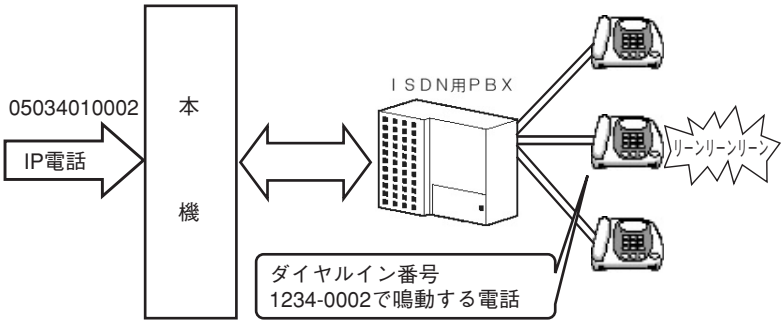
ご注意

●この設置例でISDN回線で代表組を利用されていない場合、PBXの設定により着信できない場合があります。代表組については、「9.1 代表組を使うには」をご参照ください。
●登録済みのVoIP電話番号と異なる電話番号で着信した場合、ダイヤルイン番号として無変換でPBXへ番号通知します。
●IP電話が利用できないときに自動的にISDN回線は発信する（一般電話再発信：有効）場合、PBXからの発信者番号を相手に通知します。

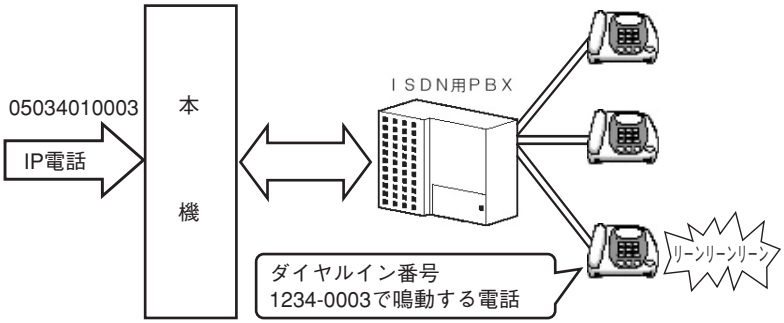
IP電話０５０－３４０１－０００１で着信した場合(契約者番号で通知)



IP電話０５０－３４０１－０００２で着信した場合(12340002ダイヤルイン番号で通知)



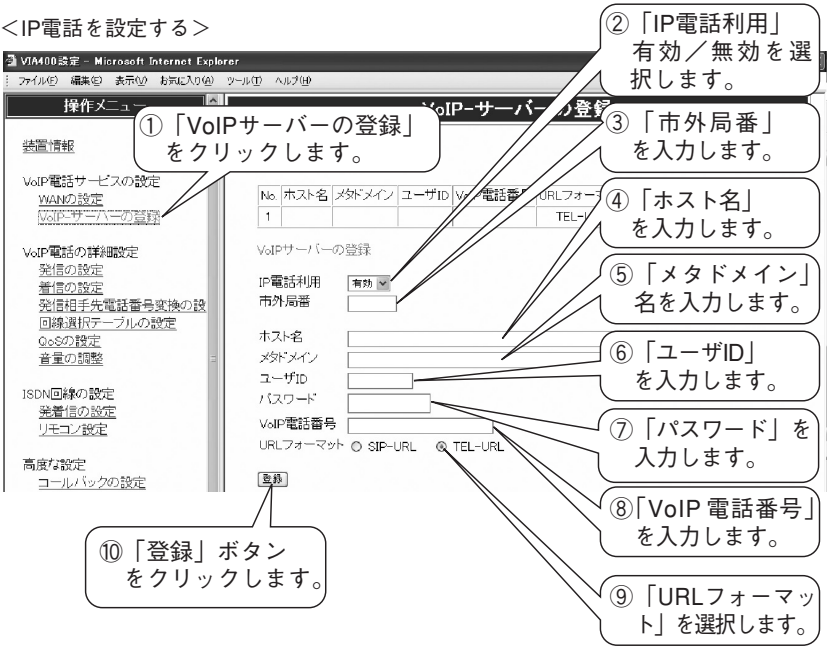
IP電話０５０－３４０１－０００３で着信した場合(12340003ダイヤルイン番号で通知)



Web設定方法(設置例を元に設定します。)

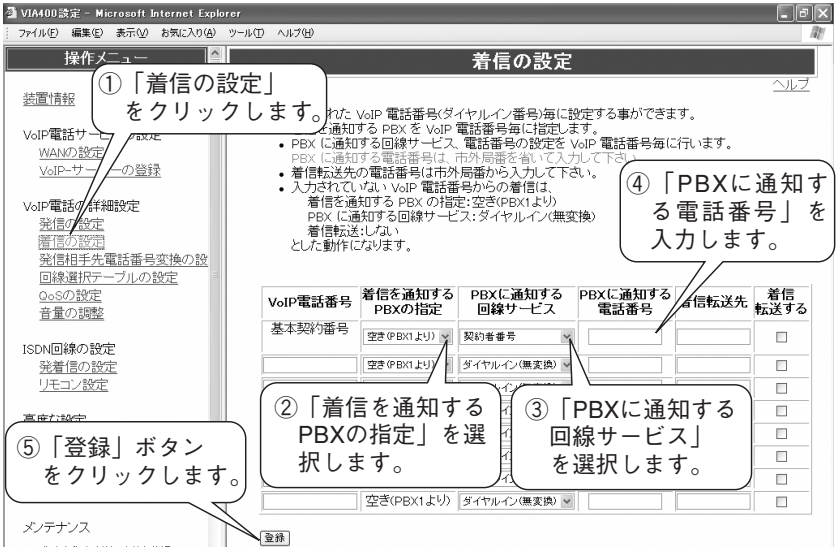
IP電話サービスプロバイダーからの<お申し込み内容のご案内>を用意して、確認の上設定してください。

<IP電話を設定する>



①「操作メニュー」から「VoIP 電話サービスの設定」の「VoIP サーバーの登録」をクリックします。
②「VoIP サーバーの登録」の「IP 電話利用」を「有効」に選択します。
③「市外局番」を（東京ならば）「０３」を入力します。
④「基本契約番号」の登録をするには、「ホスト名」に「xx.ocn.ne.jp」を入力します。
⑤「メタドメイン」に「ocn.ne.jp」を入力します。
⑥「ユーザ ID」に「ユーザ ID」を入力します。
⑦「パスワード」に「パスワード」を入力します。
⑧「VoIP 電話番号」に「０５０３４０１０００１」を入力します。
⑨「URL フォーマット」を選択します。
⑩ Web 画面一番下の「登録」ボタンをクリックします。

＜IP電話の着信通知を設定する＞



①「操作メニュー」から「VoIP 電話の詳細設定」の「着信の設定」をクリックします。

「基本契約番号」を設定するには、
②「着信を通知する PBX の指定」の「空き（PBX1 より)」を選択します。
③「PBX に通知する回線サービス」の「契約者番号」を選択します。
④「PBX に通知する電話番号」には番号の入力は必要が有りません。

「ダイヤルイン番号」1234-0002 を設定するには、
⑤「VoIP 電話番号」にダイヤルイン追加番号「０５０３４０１０００２」を入力します。
⑥「着信を通知する PBX の指定」の「空き（PBX1 より)」を選択します。
⑦「PBX に通知する回線サービス」の「ダイヤルイン（変換)」を選択します。
⑧「PBX に通知する電話番号」に市外局番を省いて「１２３４０００２」を入力します。

「ダイヤルイン番号」1234-0003 を設定するには、
⑨「VoIP 電話番号」にダイヤルイン追加番号「０５０３４０１０００３」を入力します。
⑩項目⑥から⑦まで同じ操作を行い設定します。
⑪「PBX に通知する電話番号」に市外局番を省いて「１２３４０００３」を入力します。

⑫ Web 画面一番下の「登録」ボタンをクリックします。

11.3.2 ｉ・ナンバーでの参考例

ISDN回線でｉ･ナンバーを契約済みの場合､PBXの設定変更無しでIP電話番号での着信をISDN回線でのｉ･ナンバーと同様に利用できます。

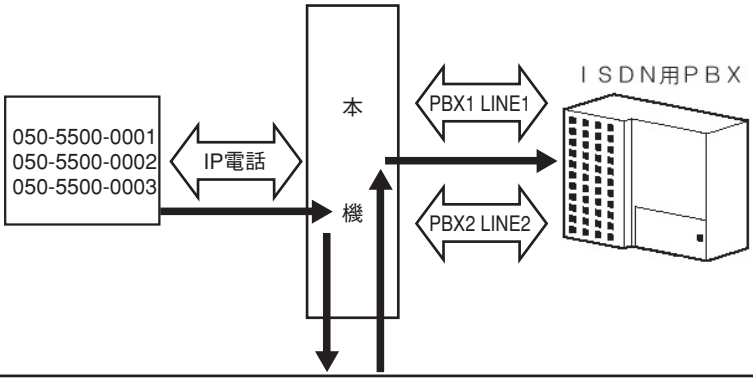
設置例

オプションの050ダイヤルイン追加番号を2番号契約し､その番号をISDNのｉ･ナンバーとして利用する場合。

下記表を契約例とします

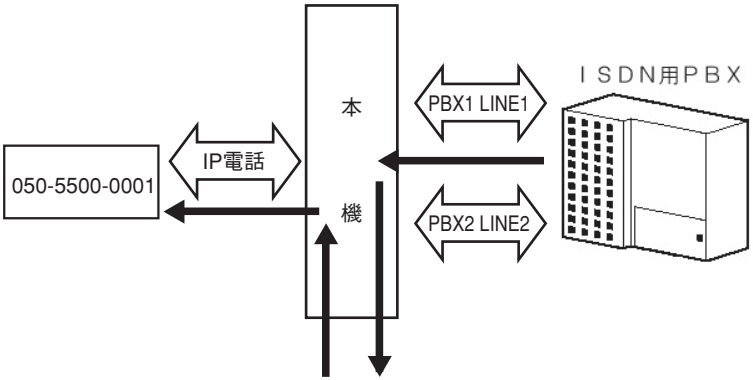
ISDNのサービス名称	ISDN回線番号	VoIP電話番号	IP電話番号
i･ナンバー1	1234-0001	基本契約番号	050-3401-0001
i･ナンバー2	1234-0002	追加番号	050-3401-0002
i･ナンバー3	1234-0003	追加番号	050-3401-0003

着信時の番号変換について



- 基本契約番号「05055000001」の着信をｉ･ナンバー1「12340001」としてPBX1へ着信通知します。
- 追加番号「05055000002」の着信をｉ･ナンバー2「12340002」としてPBX1へ着信通知します。
- 追加番号「05055000003」の着信をｉ･ナンバー3「12340003」としてPBX1へ着信通知します。

発信者番号通知について

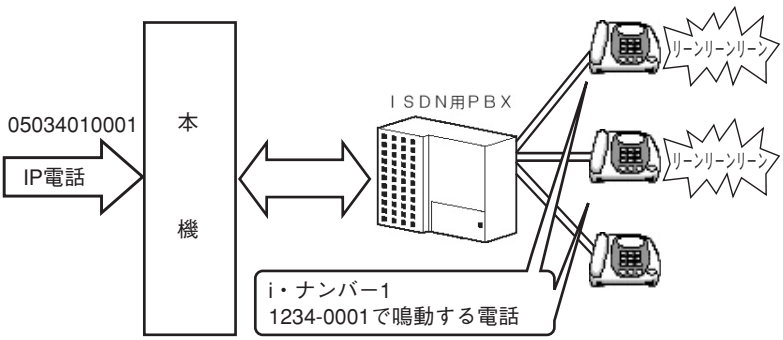


- ｉ・ナンバー1「12340001」で発信すると、発信者番号通知は基本契約番号「05034010001」となります。
- ｉ・ナンバー2「12340002」で発信すると、発信者番号通知は基本契約番号「05034010001」となります。
- ｉ・ナンバー3「12340003」で発信すると、発信者番号通知は基本契約番号「05034010001」となります。

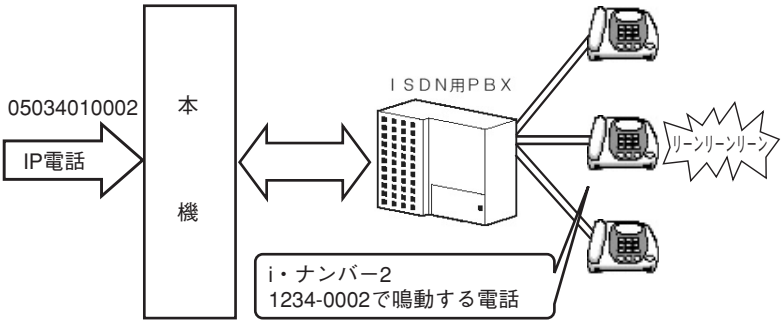
ご注意

- 登録済みのVoIP電話番号と異なる電話番号で着信した場合、ダイヤルイン番号として無変換でPBXへ番号通知します。
- IP電話が利用できないときに自動的にISDN回線は発信する（一般電話再発信：有効）場合、PBXからの発信者番号を相手に通知します。

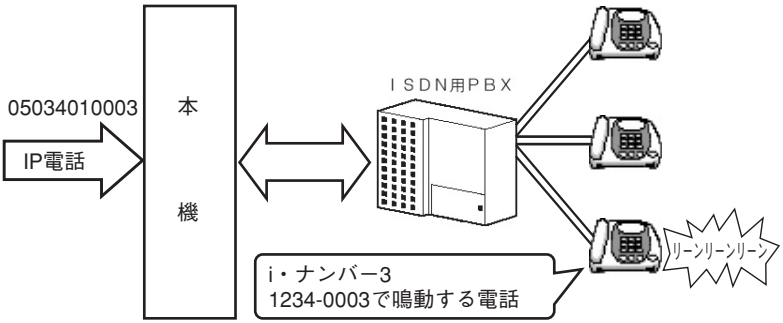
IP電話０５０－３４０１－０００１で着信した場合（ｉ・ナンバー１で通知）



IP電話０５０－３４０１－０００２で着信した場合（12340002 ｉ・ナンバー２で通知）



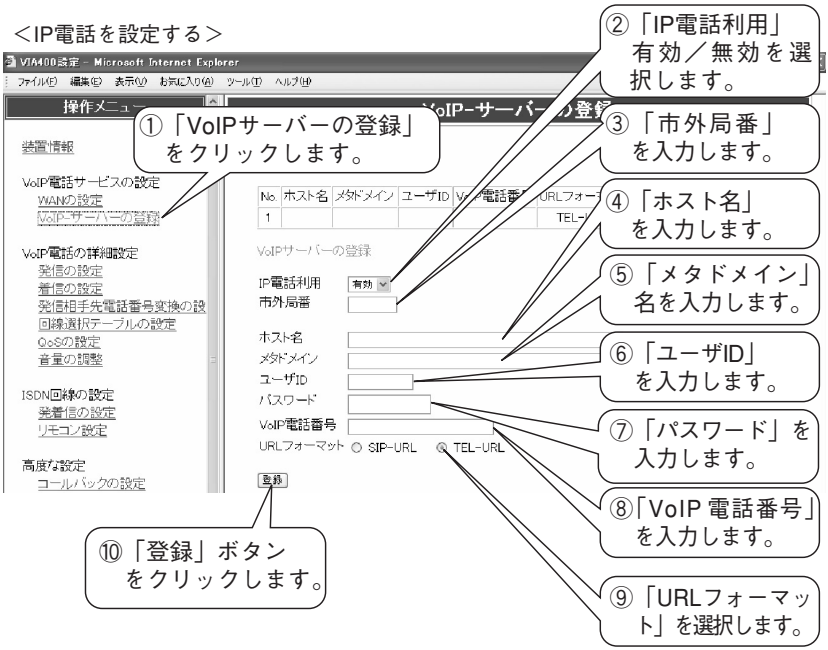
IP電話０５０－３４０１－０００３で着信した場合（12340003 ｉ・ナンバー３で通知）



Web設定方法(設置例を元に設定します。)

IP電話サービスプロバイダーからの<お申し込み内容のご案内>を用意して、確認の上設定してください。

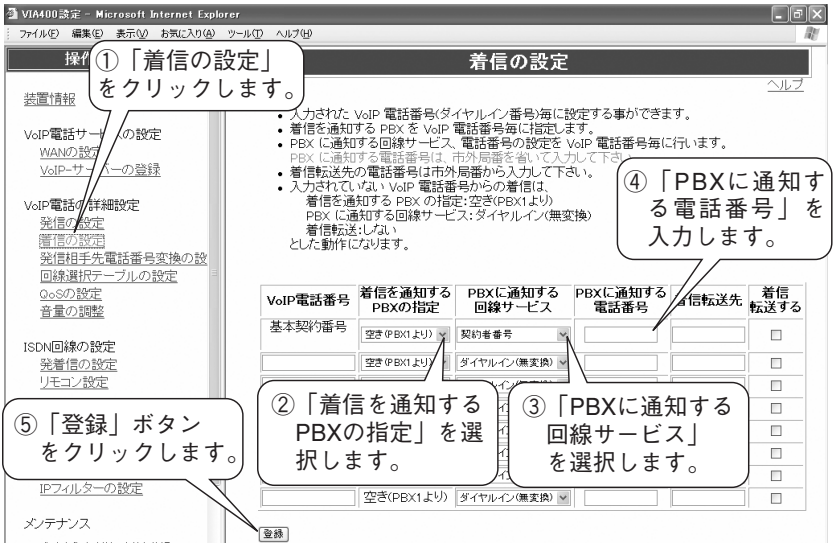
<IP電話を設定する>



①「操作メニュー」から「VoIP 電話サービスの設定」の「VoIP サーバーの登録」をクリックします。
②「VoIP サーバーの登録」の「IP 電話利用」を「有効」に選択します。
③「市外局番」を（東京ならば)「０３」を入力します。

④「基本契約番号」の登録をするには、「ホスト名」に「xx.ocn.ne.jp」を入力します。
⑤「メタドメイン」に「ocn.ne.jp」を入力します。
⑥「ユーザ ID」に「ユーザ ID」を入力します。
⑦「パスワード」に「パスワード」を入力します。
⑧「VoIP 電話番号」に「０５０３４０１０００１」を入力します。
⑨「URL フォーマット」を選択します。
⑩ Web 画面一番下の「登録」ボタンをクリックします。

＜IP電話の着信通知を設定する＞



①「操作メニュー」から「VoIP 電話の詳細設定」の「着信の設定」をクリックします。

「i・ナンバー 1」1234-0001 を設定するには、
②「着信を通知する PBX の指定」の「PBX1」を選択します。
③「PBX に通知する回線サービス」の「ｉ・ナンバー 1」を選択します。
④「PBX に通知する電話番号」に市外局番を省いて「１２３４０００１」を入力します。

「i・ナンバー 2」1234-0002 を設定するには、
⑤「VoIP 電話番号」にダイヤルイン追加番号「０５０３４０１０００２」を入力します。
⑥「着信を通知する PBX の指定」の「PBX1」を選択します。
⑦「PBX に通知する回線サービス」の「ｉ・ナンバー 2」を選択します。
⑧「PBX に通知する電話番号」に市外局番を省いて「１２３４０００２」を入力します。

「i・ナンバー 3」1234-0003 を設定するには、
⑨「VoIP 電話番号」にダイヤルイン追加番号「０５０３４０１０００３」を入力します。
⑩「着信を通知する PBX の指定」の「PBX1」を選択します。
⑪「PBX に通知する回線サービス」の「ｉ・ナンバー 3」を選択します。
⑫「PBX に通知する電話番号」に市外局番を省いて「１２３４０００３」を入力します。

⑬ Web 画面一番下の「登録」ボタンをクリックします。

11.4 コールバック機能を使って、本機へ無料通話するには(コールバック中継発信機能:OFF)

外出先から、通話料金を本機側に持たせることができます。

コールバックを許可する電話番号(最大20件)を登録すると、登録済みの電話から番号通知着信があると自動的にIP電話(基本契約番号)で電話をかけ直します。

操作手順例

電話番号(03-1234-0001:本機がコールバックを許可する電話番号)の電話から本機(03-1234-0002:本機の着信電話番号)へ無料通話する場合

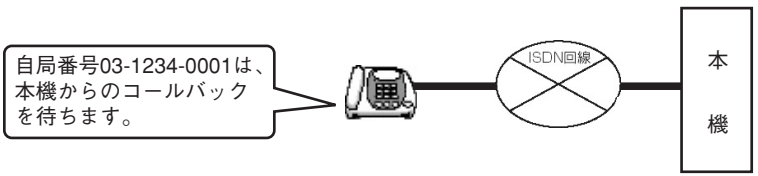
1. 登録済み電話から本機へ発信します。

ご注意

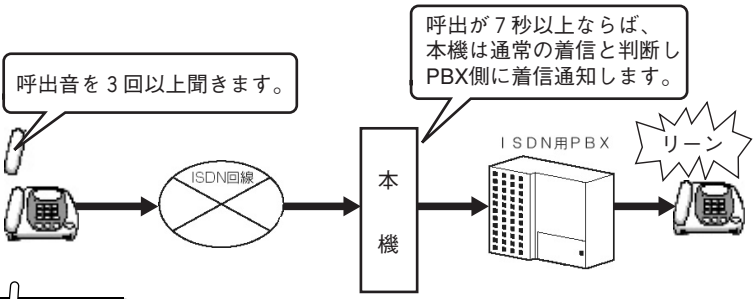
- コールバックをするには、本機に発信者番号を通知する必要があります。
- 発信者番号通知するには「INSナンバー・ディスプレイ」の契約が必要な場合があります。

2. 呼出音を聞きます。

3. 呼出音が聞こえたら、直ぐに(呼出音2回:6秒以内)一旦電話を切断します。



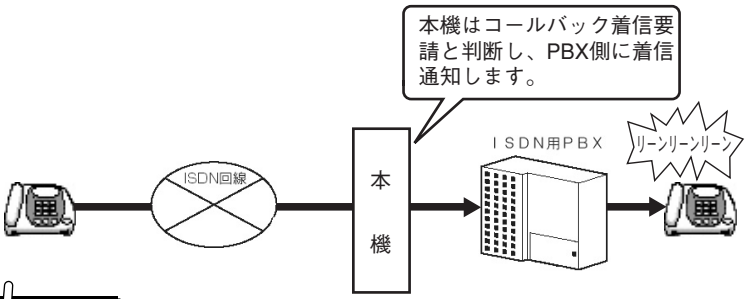
4. 登録電話がコールバック機能を利用しない場合、呼出音を3回以上聞きます。
その後、項目8へ。



ご注意

- ●PBX側ボタン電話機には、登録電話の最初の呼出音の2回（約6秒間）は聞こえません。
- ●コールバック機能と着信転送機能が有効の場合、コールバック機能を優先します。また、コールバック通常着信操作をした場合、着信転送はしません。
- ●コールバック許可番号がアナログ回線又はIP電話で本機のISDN回線に着信したとき、着信番号が使用中の場合、呼出音が継続することがあります。その様な時は、しばらくしてからおかけ直しください。
- ●登録電話がコールバック機能を利用しない場合、発信者番号を非通知にして電話をかけることでも可能です。

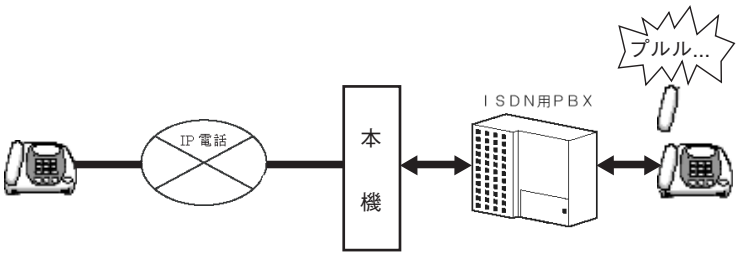
5. 項目3より、本機はPBXへ着信を通知します。



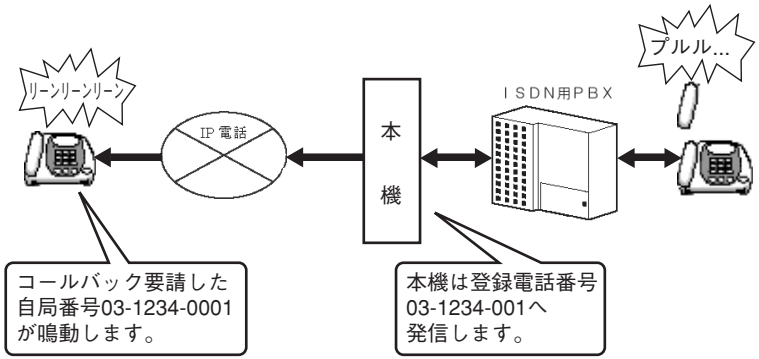
ご注意

- ●指定PBXポートがビジーの場合、着信の設定に関わらず空きPBXポートへ着信通知します。空きPBXポートが無ければコールバックしません。
- ●PBX側ボタン電話機がオフフックしない場合、2分後回線を切断してコールバックはしません。
- ● IP電話からのコールバック要請に対して、基本契約番号でコールバックします。
- ● ISDN回線からのコールバック要請に対して、基本契約番号でコールバックします。
- ●コールバックで使用するIP電話に空きチャンネルが無い場合コールバックしません。
- ●コールバック待ちで2分以上コールバックが無ければ、上記が原因と思われます。おかけ直してください。

6. PBX側ボタン電話機がオフフックします。呼び出し音が聞こえます。



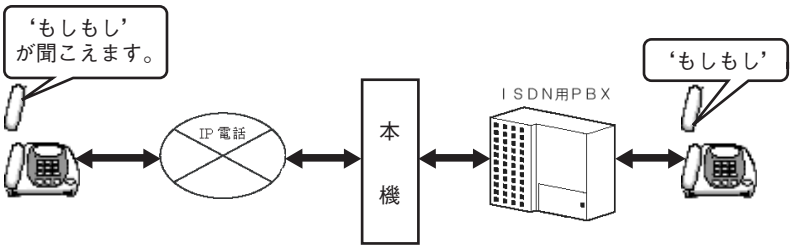
7. 本機は登録電話の自局番号03-1234-0001へIP電話を使ってコールバックします。



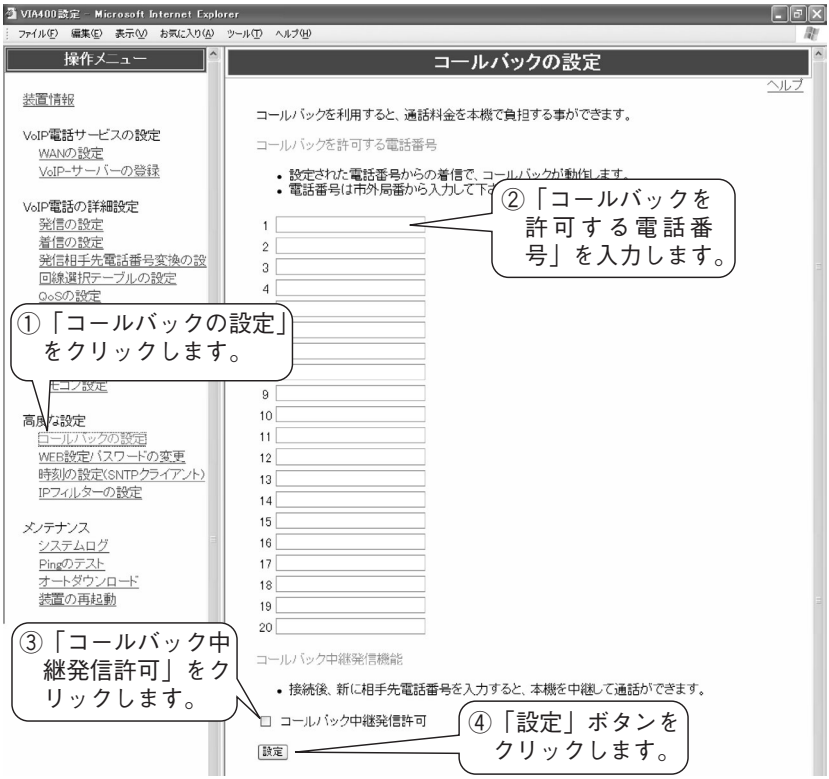
ご注意

- 本機がコールバックしたときに､登録電話が話し中ならばコールバックは直ぐに終了します。
- 登録電話がオフフックしない場合は､2分間呼出を継続した後コールバックは終了します。

8. 登録電話がオフフックすると通話が可能になります。



Web設定方法（操作手順例を元に設定します。）



①「操作メニュー」から「高度な設定」の「コールバックの設定」をクリックします。
②「コールバックを許可する電話番号」（32桁迄の半角数字、最大20件）として「０３１２３４０００１」を入力します。
③「コールバックの設定」画面の「コールバック中継発信許可」を☐します。
④「設定」ボタンをクリックします。（これで設定完了です。）

11.5 コールバック機能を使って、本機へ無料通話するには（コールバック中継発信機能:ON）

外出先から、通話料金を本機側に持たせることができます。

コールバックを許可する電話番号（最大20件）を登録すると、登録済みの電話から番号通知着信があると自動的にかかってきた経路（IP／ISDN）を優先にして、電話をかけ直します。

ご注意

- IP電話番号（本機契約番号：050-3401-xxxx）で着信した場合、IP電話を使ってコールバックします。回線状況によりコールバック機能を使った無料通話が正常に動作しない場合があります。その場合は、本機のISDN回線契約番号へ発信してください。

操作手順例

ISDN回線を使って、電話番号（03-1234-0001：本機がコールバックを許可する電話番号）の電話から本機（03-1234-0002：本機の着信電話番号）へ無料通話する場合

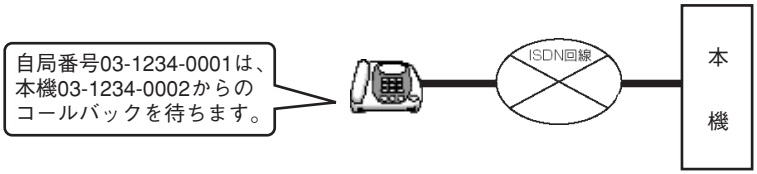
1. 登録済み電話から本機へ発信します。

ご注意

- コールバックをするには、本機に発信者番号を通知する必要があります。
- 発信者番号通知するには「INSナンバー・ディスプレイ」の契約が必要な場合があります。

2. 呼出音を聞きます。

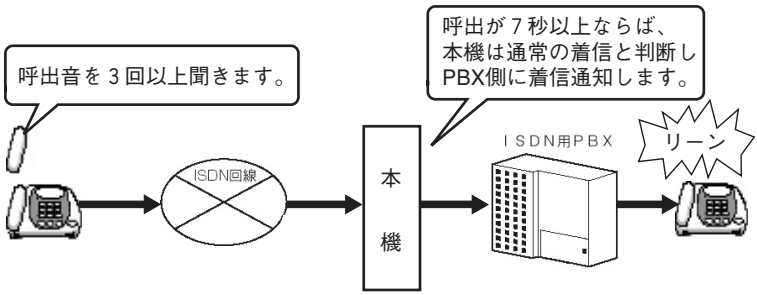
3. 呼出音が聞こえたら、直ぐに（呼出音2回：6秒以内）一旦電話を切断します。



ご注意

- ●指定PBXポートがビジーの場合、着信の設定に関わらず空きPBXポートへ着信通知します。空きPBXポートが無ければコールバックしません。
- ●IP電話からのコールバック要請に対して、基本契約番号でコールバックします。
- ●コールバックで使用するIP電話に空きチャンネルが無い場合コールバックしません。
- ● ISDN回線からのコールバック要請は、ISDN回線に空きチャンネルが無い場合やISDN回線発信禁止設定（設定スイッチ番号1がON）の時はコールバックしません。
- ●コールバック待ちで2分以上コールバックが無ければ、上記が原因と思われます。おかけ直してください。

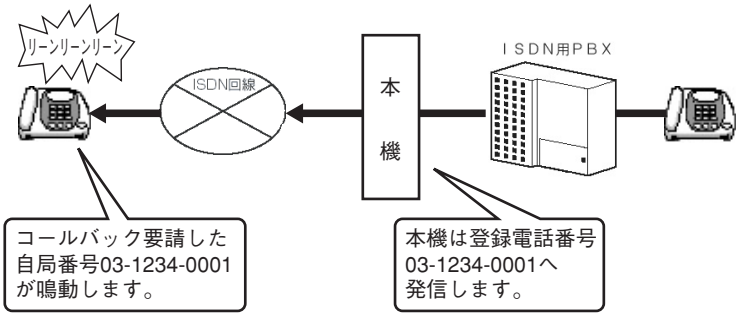
4. 登録電話がコールバック機能を利用しない場合、呼出音を3回以上聞きます。
その後、項目9へ。



ご注意

- ●PBX側ボタン電話機には、登録電話の最初の呼出音の2回（約6秒間）は聞こえません。
- ●コールバック機能と着信転送機能が有効の場合、コールバック機能を優先します。また、コールバック通常着信操作をした場合、着信転送はしません。
- ●コールバック許可番号がアナログ回線又はIP電話で本機のISDN回線に着信したとき、着信番号が使用中の場合、呼出音が継続することがあります。その様な時は、しばらくしてからおかけ直しください。
- ●登録電話がコールバック機能を利用しない場合、発信者番号を非通知にして電話をかけることでも可能です。

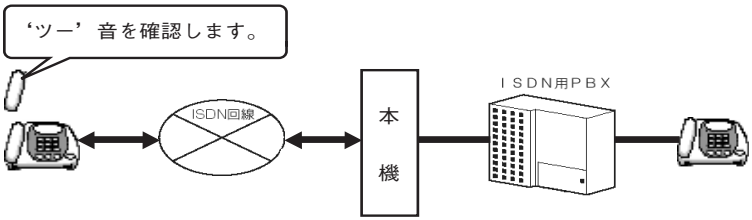
5. 項目3より、本機は登録電話の自局番号03-1234-0001へISDN回線でコールバックします。



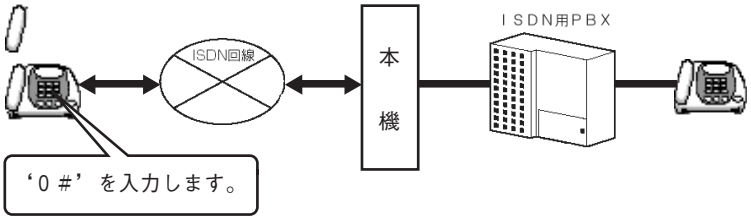
ご注意

●本機がコールバックしたときに、登録電話が話し中ならばコールバックは直ぐに終了します。また、登録電話がオフフックしない場合は、2分間呼出を継続した後コールバックは終了します。

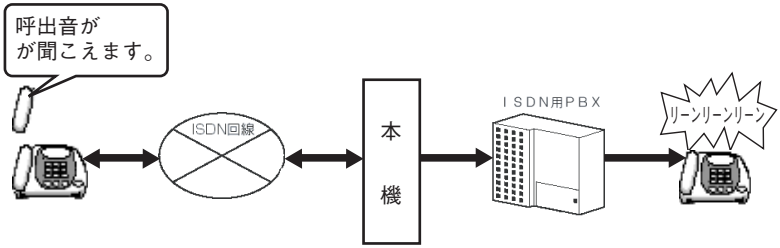
6. 登録電話がオフフックして'ツツツ'音の後で'ツー'の音に変わることを確認します。



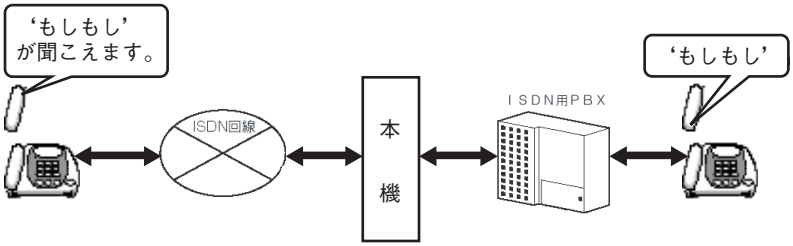
7. 受話器はオフフックしたまま登録電話から'0 #'を入力します。



8. 本機はボタン電話機を呼び出します。



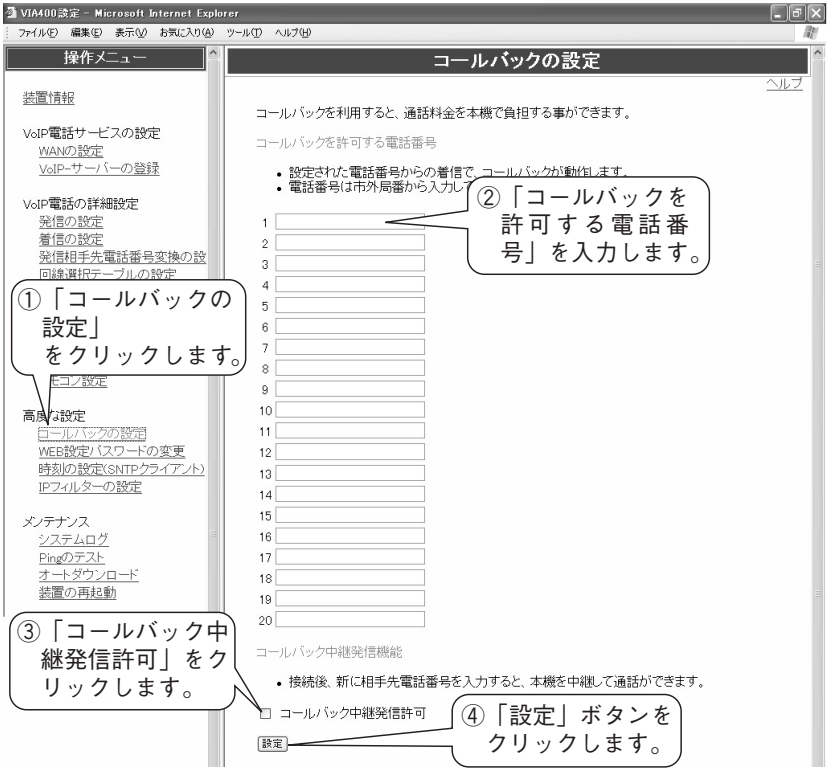
9. ボタン電話機がオフフックすると通話が可能になります。



ご注意

- ●コールバック処理中は､新たなコールバック着信は通話中として拒否します。
- ●コールバック処理とは､コールバック受付(項目2)からコールバック発信(項目6)迄とします。

Web設定方法（操作手順例を元に設定します。）



①「操作メニュー」から「高度な設定」の「コールバックの設定」をクリックします。
②「コールバックを許可する電話番号」（32桁迄の半角数字、最大20件）として「０３１２３４０００１」を入力します。
③「コールバックの設定」画面の「コールバック中継発信許可」を☑します。
④「設定」ボタンをクリックします。（これで設定完了です。）

11.6 コールバック中継発信機能を使って、本機を通しての無料通話するには(コールバック中継発信機能:ON)

外出先から相手先に電話する時、本機を通して発信すると通話料金を本機側に持たせることができます。

コールバックを許可する電話番号(最大20件)を登録し、「コールバック中継発信許可」すると、登録済みの電話からの着信があると、自動的にかかってきた経路(IP/ISDN)を優先にして、電話をかけ直します。

着信した登録電話は、新たに相手先電話番号を入力すると、かかってきた経路(IP電話)で発信し、本機が中継して相手先と通話ができます。

ご注意

- ●IP電話番号(本機契約番号:050-3401-xxxx)で着信した場合、IP電話を使ってコールバックします。回線状況によりコールバック中継発信機能が正常に動作しない場合があります。その場合は、本機のISDN回線契約番号へ発信してください。
- ●IP電話をコールバック中継や着信転送で4回線使用中の時、新たにダイヤルした番号でISDN回線へ発信します。通常の発信動作と異なる場合がありますのでご注意ください。

操作手順

ISDN回線を使って、電話番号(03-1234-0001:本機がコールバックを許可する電話番号)の電話から本機(03-1234-0002:本機の着信電話番号)を通して相手先(03-1234-0003)へ無料通話する場合

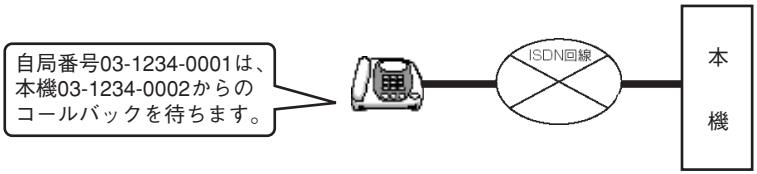
1. 登録済み電話から本機へ発信します。

ご注意

- ●コールバックをするには、本機に発信者番号を通知する必要があります。
- ●発信者番号通知するには「INSナンバー・ディスプレイ」の契約が必要な場合があります。

2. 呼出音を聞きます。

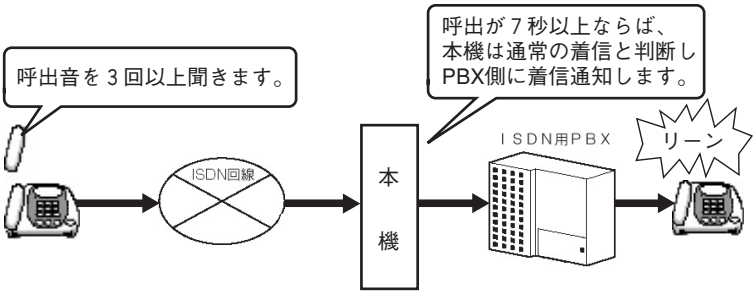
3. 呼出音が聞こえたら、直ぐに（呼出音2回：6秒以内）一旦電話を切断します。



ご注意

- ●指定PBXポートがビジーの場合、着信の設定に関わらず空きPBXポートへ着信通知します。空きPBXポートが無ければコールバックしません。
- ●IP電話からのコールバック要請に対して、基本契約番号でコールバックします。
- ●コールバックで使用するIP電話に空きチャンネルが無い場合コールバックしません。
- ●ISDN回線からのコールバック要請は、ISDN回線に空きチャンネルが無い場合やISDN回線発信禁止（設定スイッチ番号1がON）の時はコールバックしません。
- ●コールバック待ちで2分以上コールバックが無ければ、上記が原因と思われます。再度やり直してください。

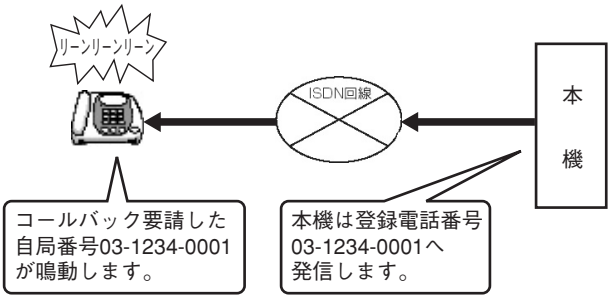
4. 登録電話がコールバック機能を利用しない場合、呼出音を3回以上聞きます。
その後、項目9へ。



ご注意

- ●PBX側ボタン電話機には、登録電話の最初の呼出音の2回（約6秒間）は聞こえません。
- ●コールバック機能と着信転送機能が有効の場合、コールバック機能を優先します。また、コールバック通常着信操作をした場合、着信転送はしません。
- ●コールバック許可番号がアナログ回線又はIP電話で本機のISDN回線に着信したとき、着信番号が使用中の場合、呼出音が継続することがあります。その様な時は、しばらくしてからおかけ直しください。
- ●登録電話がコールバック機能を利用しない場合、発信者番号を非通知にして電話をかけることでも可能です。

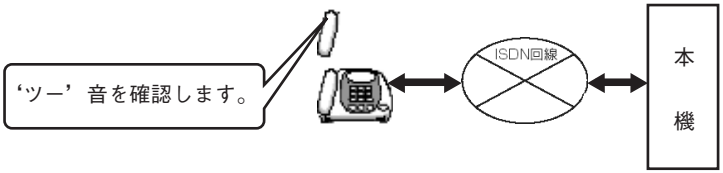
5. 項目3より、本機は登録電話の自局番号03-1234-0001へコールバックします。



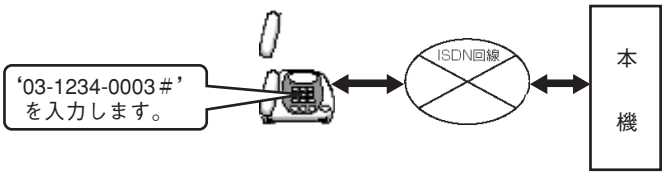
ご注意

●本機がコールバックしたときに、登録電話が話し中ならばコールバックは直ぐに終了します。また、登録電話がオフフックしない場合は、2分間呼出を継続した後コールバックを終了します。

6. 登録電話がオフフックして'ツツツ'音の後で'ツー'の音に変わることを確認します。



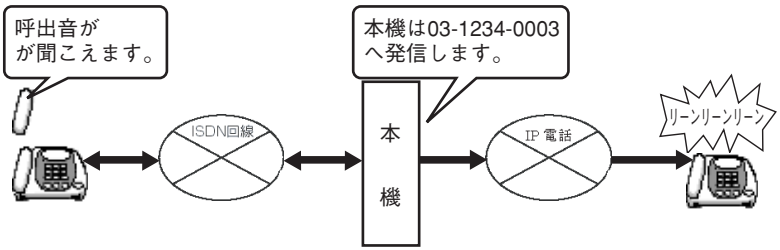
7. 登録電話は受話器をオフフックしたまま'相手先電話番号'と'#'を入力します。



ワンポイント

●相手先電話番号の入力を誤った場合、'*'を入力します。その後、'ツー'の音を確認してから再度　相手先の電話番号を入力できます。

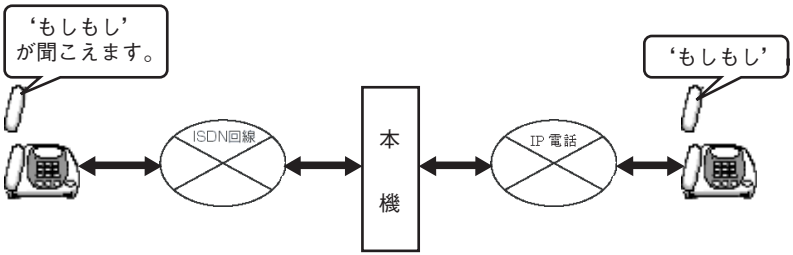
8. 本機は相手先へ発信します。



ご注意

●IP電話を使って発信した場合､初期値では識別音が聞こえます。

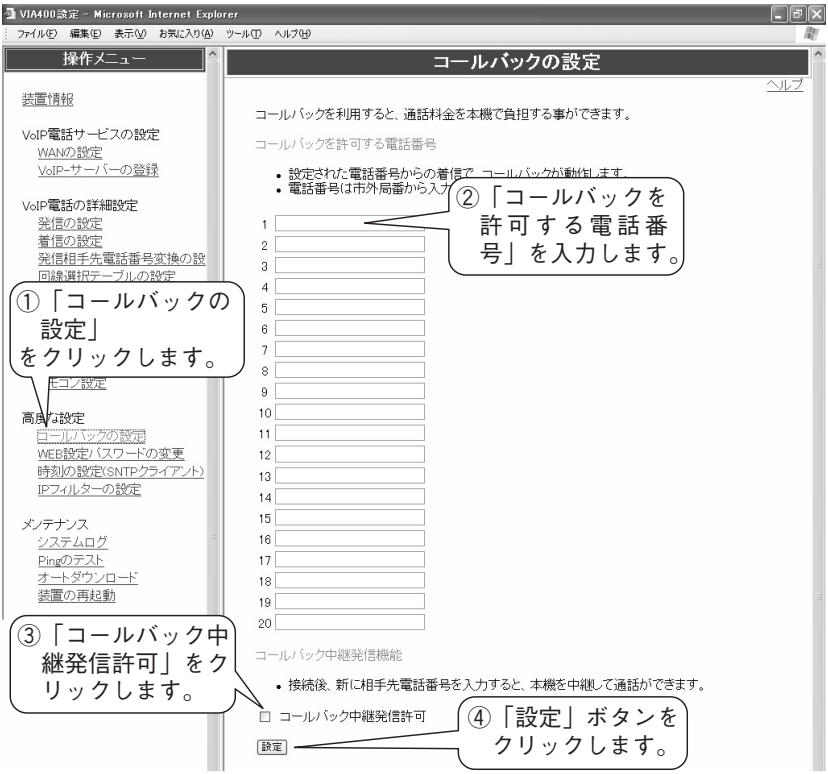
9. 相手先がオフフックすると通話が可能になります。



ご注意

●コールバック処理中は､新たなコールバック着信は通話中として拒否します。
●コールバック処理とは､コールバック受付(項目2)からコールバック発信(項目9)迄とします。

Web設定方法（操作手順例を元に設定します。）



①「操作メニュー」から「高度な設定」の「コールバックの設定」をクリックします。
②「コールバックを許可する電話番号」（32桁迄の半角数字、最大20件）として「０３１２３４０００１」を入力します。
③「コールバックの設定」画面の「コールバック中継発信許可」を☑します。
④「設定」ボタンをクリックします。（これで設定完了です。）

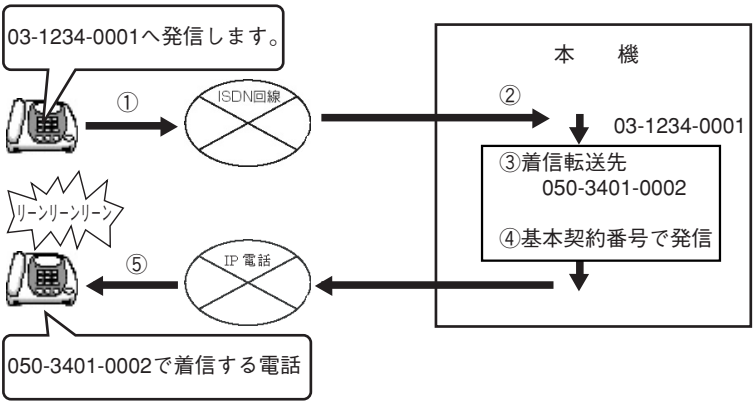
11.7 着信転送するには

11.7.1 着信転送とは

ここでの着信転送機能とは、本機のみで利用できますので、NTTとの契約や接続PBXの設定変更の必要もありません。

着信転送機能を有効にすると着信は着信転送先で設定した相手先へ転送します。

着信転送例（ISDN回線から着信転送の場合）



① 外部から本機（03-1234-0001）へ発信します。
② ISDN 回線から本機は着信します。
③「ISDN 回線の設定」の「着信転送先」設定に従って 050-3401-0002 へ IP 電話発信します。
④「基本契約番号」で 050-3401-0002 へ発信します。
⑤ 相手先が出れば、IP 電話を使って着信転送通話ができます。

ご注意

- ●転送発信はまず「基本契約番号」を使って発信します。「基本契約番号」に空きチャンネルが無ければビジー音が聞こえて転送しません。
- ●IP電話で相手先が通話中ならばビジー音となりISDN迂回発信しません。
- ●本機が代表サービスの親機で転送の設定がされており、転送先がISDN回線以外の時、転送先が話中等で接続できない場合は発信元はビジー音とはならず、代表サービス子機へ接続する場合が有ります。
- ●IP電話をコールバック中継や着信転送で4回線使用中の時、新たに発信すると その番号でISDN回線へ発信します。通常の発信動作と異なる場合がありますのでご注意ください。
- ●IP電話が利用できない時、Web設定の「VoIP電話の詳細設定」→「発信の設定」→「一般電話再発信」→「有効」であれば、自動的にISDN回線を使って発信します。
- ●IP電話が利用できない時、Web設定の「VoIP電話の詳細設定」→「発信の設定」→「一般電話再発信」→「無効」であれば、ビジー音が聞こえて転送しません。
- ●ISDN着信禁止設定（設定スイッチ番号2がON）の時、ISDNからの着信は出来ないのでISDNでの着信転送はできません。
- ●ISDN発信禁止設定の場合は、ISDNでの転送発信はできませんのでビジー音となります。
- ●着信転送中に呼出時間を本機は制限を設けていません。一定時間経過後に回線を切断しません。
- ●緊急電話（110・119）からの着信は「着信転送する」に設定されていても転送しません。
- ●ISDN回線を使って転送する場合、契約者回線番号で発信します。

11.7.2 ボタン電話機から着信転送を設定するには

本機に接続したPBXのボタン電話機より外線をかけるのと同じ手順で下記の様にします。

1. ボタン電話機の受話器をあげ、外線発信ボタンを押してから「ツー」の発信音を確認します。
2. 「5555」（4桁発信限定）を押し、「ツツツ...」の音の後で「ツー」の音に変わる事を確認します。
3. 「2」を押します。
4. 「＊」を押し、「ツゥツゥツゥ...」の音を確認します。
5. 「着信転送する」ならば「1」、「着信転送しない」ならば「0」を押します。
6. 「ツツツ...」の音の後で「ツー」の音に変わると設定が完了します。
7. 操作が正しくないとき、「ツーツー」の切断音となり、約2秒後に「ツー」の音に変わります。
8. 「ツー」の音を確認すれば、項目3から繰り返し設定が可能です。

● 設定の保存／変更
設定は、自動保存されますので電源を切っても設定は消えません。
設定の変更を行うと以前の設定に対して上書きされます。

11.7.3 リモートで着信転送を設定するには

「11.10 リモコン設定するには」をご参照ください。

11.7.4 Web 設定で着信転送を設定するには

IP電話での着信転送は、「8.6 着信を設定する」をご参照ください。
ISDN回線での着信転送は、「8.7 発着信を設定する（ISDN回線）」をご参照ください。

ワンポイント

●着信転送状態は前面パネルで確認できます。着信転送を「する」に設定しますと、本機前面のステータスランプは緑から橙に色が変わります。また、着信転送を「する」から「しない」に変更しますと、ステータスランプは橙から緑に色が変わります。

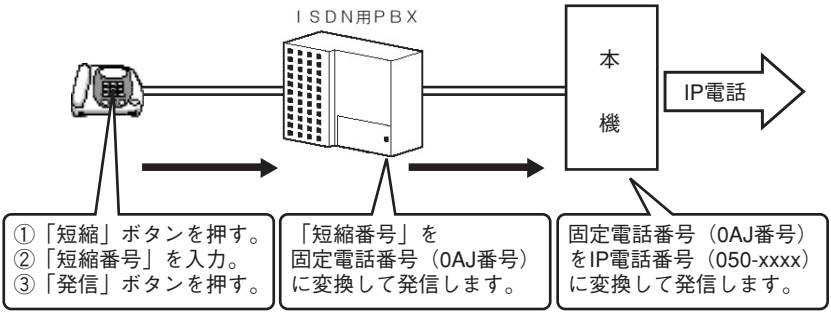
ご注意

●ボタン電話機やリモートで「着信転送機能する」を設定しますと、IP電話又はISDNからのすべての着信を着信転送します。但し、個別で着信転送の必要が無い場合、「着信転送先」に電話番号を設定しなければ着信転送はしません。
●Web設定で「着信転送機能する」を設定しますと、☑したIP電話又はISDNの着信のみ着信転送します。IP電話ならば「8.6 着信を設定する」、ISDNならば「8.7 発着信を設定する」もご参照ください。

11.8 PBXの登録電話番号を変更無しでIP電話を利用するには

PBX等で多くの短縮番号を登録済みでも、本機は発信電話番号（100件迄）をIP電話番号へ変換します。この機能により、相互接続先IP電話サービスへの通話料が無料となります。また、他事業者の提供するIP電話サービスへの通話料も比較的安価になります。

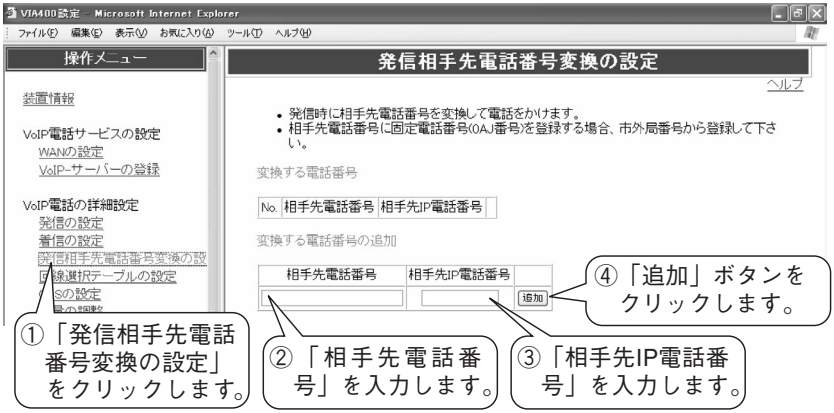
運用例



ご注意

- ●番号変換は最大100件迄です。
- ●プリフィックス発信（「0000」＋電話番号、ISDN発信）では番号変換はしません。
- ●相手先電話番号の登録で1から始まる3桁の数字（100から199）は、Web設定の時にエラーとなり登録できません。
- ●「184」又は「186」＋電話番号での発信では、番号変換後「184」又は「186」＋IP電話番号で発信します。
- ●相手先電話番号に固定電話番号（0AJ番号）を設定する場合、市外局番号から登録してください。
- ●番号変換後IP電話が利用できない場合、番号変換した電話番号で迂回発信します。
- ●相手先電話番号と全桁完全一致した番号を番号変換します。
- ●コールバック時に発信する電話番号も番号変換の対象となります。

Web設定方法(設置例を元に設定します。)



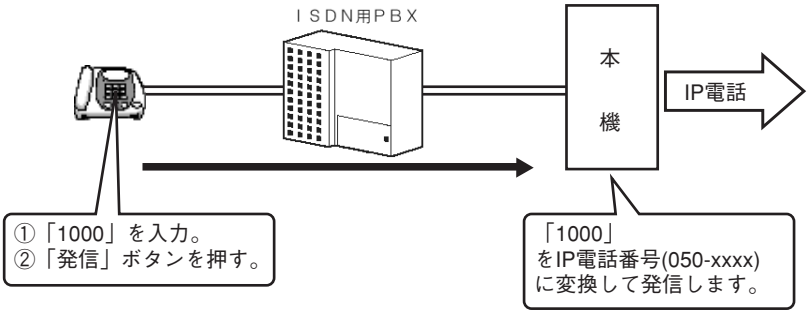
①「操作メニュー」から「VoIP 電話の詳細設定」の「発信相手先電話番号変換の設定」をクリックします。
②「相手先電話番号」として「固定電話番号（0AJ 番号)」を入力します。
③「相手先 IP 電話番号」として「０５０ｘｘｘｘ」を入力します。
④「追加」ボタンをクリックします。
⑤ 登録する電話番号があれば、②より④迄繰り返します。

項　目	内　　容
相手先電話番号	発信時､相手先電話番号を変換する番号を100件まで設定できます。 32桁迄の半角数字､＊､＃を入力します。
相手先 IP電話番号	発信時､相手先IP電話番号に変換する番号を100件まで設定できます。 16桁迄の半角数字を入力します。

11.9 PBXの登録電話番号以外に新たに専用電話番号を利用するには

IP電話を導入したときPBXに電話番号を登録しなくても、お客様が決められた電話番号でIP電話を利用できます。

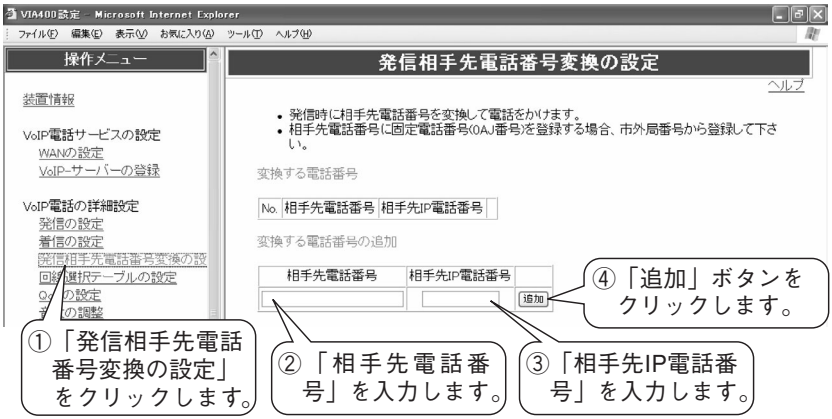
運用例



ご注意

- 番号変換は最大100件迄です。
- プリフィックス発信(「0000」+電話番号、ISDN発信)では番号変換はしません。
- 相手先電話番号の登録で1から始まる3桁の数字(100から199)は、Web設定の時にエラーとなり登録できません。
- 「184」又は「186」+電話番号での発信では、番号変換後「184」又は「186」+IP電話番号で発信します。
- 相手先電話番号に固定電話番号(0AJ番号)を設定する場合、市外局番号から登録してください。
- 番号変換後IP電話が利用できない場合、番号変換した電話番号で迂回発信します。
- 相手先電話番号と全桁完全一致した番号を番号変換します。
- コールバック時に発信する電話番号も番号変換の対象となります。

Web設定方法(設置例を元に設定します。)



①「操作メニュー」から「VoIP電話の詳細設定」の「発信相手先電話番号変換の設定」をクリックします。
②「相手先電話番号」として「１０００」を入力します。
③「相手先IP電話番号」として「０５０ｘｘｘｘ」を入力します。
④「追加」ボタンをクリックします。
⑤登録する電話番号があれば、②より④迄繰り返します。

項　目	内　　容
相手先電話番号	発信時、番号変換する相手先電話番号を100件まで設定できます。 32桁迄の半角数字、＊、＃を入力します。
相手先 IP電話番号	発信時、相手先IP電話番号に変換する番号を100件まで設定できます。 16桁迄の半角数字を入力します。

11.10 リモコン設定するには

外出先から、本機の設定を変更することができます。この機能をリモコン設定機能と呼びます。用途としては、携帯電話からの着信転送のセットと解除です。リモコン設定機能は、発信者番号と暗証番号による認証により安全性を確保しています。本機のISDN回線を使ってリモコン設定をします。

操作手順例

電話番号(03-1234-0001:本機がリモコン設定を許可する電話番号)の電話から本機(03-1234-0002:本機の着信電話番号)へ着信転送をセット(２＊１)する場合

1. 登録済み電話から本機へ発信します。

ワンポイント

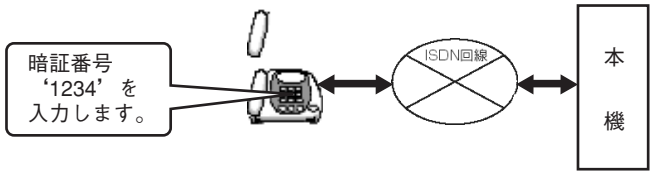
●本機がリモコン設定を許可する電話から通常の着信するには2通りの方法があります。
① 発信者番号を非通知にして電話をかけます。
② 暗証番号の入力時に‘0’を入力します。

ご注意

●電話を使用中やデータ通信中は、リモコン着信ができません。ビジー音が聞こえます。
●リモコン設定中は、電話の使用やデータ通信が利用できません。
●「リモコン設定を許可する電話番号」と「コールバックを許可する電話番号」に同じ電話番号を登録した場合、本機ISDN回線番号での着信ではリモコン設定となり、本機IP電話番号での着信ではコールバック機能が動作します。

2. 登録電話は本機からの短い応答音(短い間隔の連続音)を確認します。

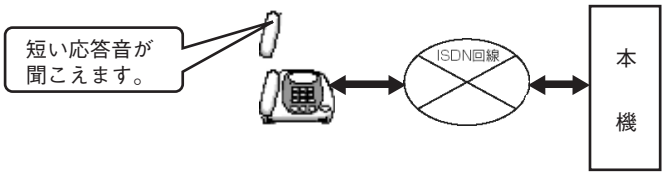
3. 受話器はオフフックしたまま登録電話から暗証番号‘１２３４’を入力します。



ご注意

●暗証番号なしの場合、リモコン設定はできません。Web設定で暗証番号の設定を御願いします。

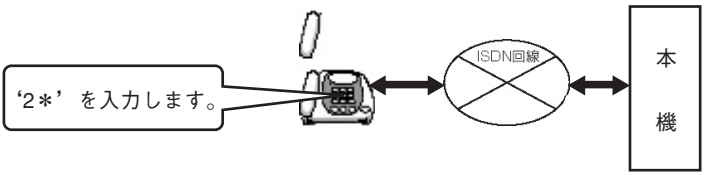
4. 暗証番号がOKの場合、短い応答音を確認します。



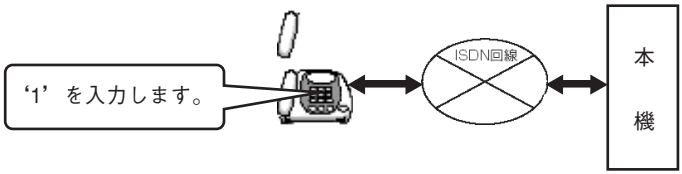
ご注意

●暗証番号を間違えた場合、長い応答音（約2秒）の後、改めて暗証番号を入力します。3回間違えるか30秒以内に暗証番号を入力しないと回線が切断されます。

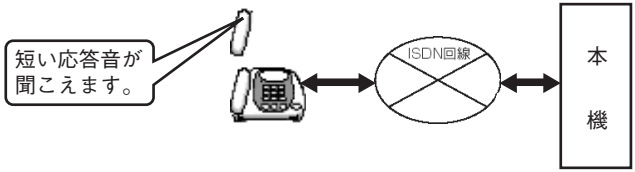
5. 受話器はオフフックしたまま登録電話から「着信転送」機能なら‘２＊’を入力します。



6. 「着信転送する」ならば‘1’を入力します。



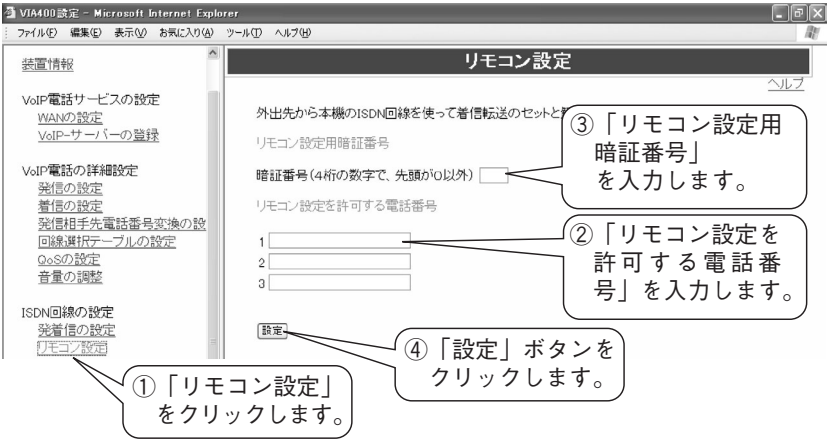
7. 短い応答音を確認すると設定は完了します。



ワンポイント

●設定を誤った場合、長い応答音（約2秒）の後、再度　設定ができます。
●「着信転送解除する」ならば‘2＊0’を入力します。

Web設定方法(操作手順例を元に設定します。)



①「操作メニュー」から「ISDN 回線の設定」の「リモコン設定」をクリックします。
②「リモコン設定を許可する電話番号」として「０３１２３４０００１」を入力します。
③「リモコン設定用暗証番号」として「１２３４」を入力します。
④「設定」ボタンをクリックします。

項　目	内　　容
リモコン設定用暗証番号	
暗証番号	先頭が0以外で、4桁の半角数字を入力します。
リモコン設定を許可する電話番号	
1～3	リモコン設定を許可する電話番号を3件まで設定できます。 32桁迄の半角数字を入力します。

12 その他の機能

12.1 更新機能

ファームウェア(本機を制御するプログラム)をダウンロードして装置のバージョンアップする機能です。

本機は周期的にファームウェアのバージョンを弊社ファームウェア管理用サーバに自動的に問い合わせてバージョンの確認をします。サーバがバージョンアップすると、ファームウェアの更新をお客様にお知らせするために本機更新ランプが点滅(0.5秒間点灯・0.5秒間消灯)します。

更新ランプが点滅しましたら、本機前面の更新スイッチを押して下さい。自動的に弊社ファームウェア管理用サーバに接続して最新ファームウェアに更新します。

ご注意

- 更新ランプ点灯中は、絶対電源を切らないでください。故障の原因となります。
- 通信及び通話中は、更新機能を使用しないで下さい。正常に通信や通話が出来ません。
- 更新機能を利用中に、ISDN回線より着信があった場合は、通話途中で切断されます。

12.2 停電時のとき

状態	動作
停電になったとき	使用中の通話は切れます。
停電中	IP通話は出来ませんが、ISDN回線とPBX1を直結しますので、停電対応PBXの場合はISDN回線で通話が可能です。
停電復旧時	停電対応PBXの場合、使用中の通話は切れます。

ご注意

- 利用されている停電対応PBXの種類やバージョンにより上記表の動作をしないことがあります。その場合、PBXの主電源を一旦オフにしてからオンにして利用ください。
- 「停電が発生」または「停電から復旧」した場合、PBXによっては利用できるまでに約1～2分かかることがあります。
- 停電中は、S/Tコネクタに接続したISDN機器は使用できません。
- PBX-U点に接続したPBXがP-P接続で使用している場合、停電中は使用できません。

12.3 設定初期化

本機の全設定を初期化するには、次の手順で行ってください。

1. 本機の電源を切った状態で背面の初期化スイッチを絶縁された細いピンで押します。
2. 初期化スイッチを押したまま、本機の電源を入れます。
3. 本機のステータスランプ点灯するまで初期化スイッチを押し続けます。
4. ステータスランプ点灯しましたら初期化スイッチを離します。
5. これで、設定していた内容が初期化(工場出荷値)されます。

13 故障かな？と思ったとき

13.1 電話がかけられない

こんなとき	原因	確認／処置
電話がかけられない	回線コードを正しく接続している？	正しく確実に差し込んでください。
ISDN 回線へかけられない	設定？	・Web設定で「VoIP電話の詳細設定」→「回線選択テーブルの設定」→「回線選択テーブル」を確認してください。 ・「0000＋電話番号」で発信してください。(0000：初期値)
IP電話が使えない	設定？	・Web設定で「VoIP電話サービスの設定」→「VoIPサーバーの登録」→「IP電話利用」の有効／無効を調べてください。 ・Web設定で「VoIP電話の詳細設定」→「回線選択テーブルの設定」→「回線選択テーブル」を確認してください。
	IP電話ランプ消灯？	・VoIPサーバーへの登録が完了していない。設定か接続をご確認ください。 ・IP電話が使えていたのに、今はIP電話ランプが消灯している。 1.接続の確認をしてください。 2.ADSLモデム等・電話回線・ISP等の確認をしてください。
	WANランプ消灯？	ADSLモデム等や接続ケーブルに問題があります。ADSLモデム等の説明書でご確認ください。
	PPPランプ点滅？	PPP接続が出来ません。PPPの再接続するまでしばらくお待ちください。
電源ランプがつかない	電源プラグが抜けている？	正しく確実に差し込んでください。
	電源スイッチがOFF？	電源スイッチをONしてください。
	本機が故障？	PBX1-U点とISDN-U点を直結していますのでそのままISDN回線では利用出来ます。
INS ランプが点滅	ISDN-Uコネクタのケーブルが抜けている？	正しく確実に差し込んでください。
	外線使用不可の状態？	ISDN回線を調べてください。
	ISDN-Uで極性が異なる？	・ISDN回線リバーススッチを変更してください。 ・ISDN-U用ケーブルをストレートからクロスに変更してください。
	ISDN-UコネクタにISDN回路のU点以外を接続？	ISDN-UコネクタにISDN回路のU点を接続してください。

こんなとき	原因	確認／処置
ACTランプが点滅	PBXと接続するU点ケーブルが抜けている？	正しく確実に差し込んでください。
	PBXが故障？	PBXを調べてください。
	PBX-Uで極性が異なる？	・ISDN回線リバーススッチを変更してください。 ・PBX-U用ケーブルをストレートからクロスに変更してください。
	PBX-UコネクタにISDN機器のU点以外を接続？	PBX-UコネクタにISDN機器のU点を接続してください。
ステータスランプが常時点滅（1秒周期）	ファームウェアが異常？	更新スイッチを押してください。ファームウェアを更新します。
ステータスランプが消灯	ファームウェアが異常？	本機の電源スイッチを一旦OFFからONにしてください。その後、正常に動作しなければ弊社にご連絡ください。
更新 ,PPP,IP 電話ランプ共点滅	ファームウェアの異常？	本機の電源スイッチを一旦OFFからONにしてください。その後、正常に動作しなければ弊社にご連絡ください。
通話中ではないのにランプが全点灯	本機が故障？	本機が異常の場合は、本機の電源スイッチをOFFにしてください。PBX1-U点とISDN-U点を直結しますので、そのままISDN回線では利用出来ます。

13.2 その他

こんなとき	原因	確認／処置
通話中に切れる／通話音質が悪い	通信が混み合っている？	通話中に通信が混み合うと音質が悪くなったり、切れることがあります。 しばらくしてからお掛け直しください。

13.3 お問い合わせ

上項で問題が解決できない場合は、お買いあげの販売店または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせの際には、以下をご準備ください。

・Web設定画面を確認できるパソコンと本機と接続するためのLANケーブル。
（接続の際には、「7 パソコン側を設定するには」をご参照ください。）
・本機の製造番号（本機底面に記載しています）。
・故障の時期（設置時？利用中？使用期間？）。
・故障内容の詳細。

14 ご参考

14.1 本機通話に関するランプと識別音について

通話状態は、下記表にてランプと識別音でご確認ください。

	本機の状態	使用回線	ダイヤル時識別音	ランプ		
				PPP	IP 電話	B1・B2（通話中）
導入時	結線完了（電源 OFF 状態、停電時）	ISDN	なし	消灯	消灯	消灯
	電源 ON（初期値：工場出荷状態）	ISDN	なし	消灯	消灯	消灯
	PPP 設定完了※1（VoIP サーバー未設定状態）	ISDN	なし	点灯	消灯	消灯
	VoIP サーバー登録失敗（IP 電話ランプ点滅）	ISDN	ピピ※3	点灯	点滅 2※2	消灯
	VoIP サーバー登録成功（IP 電話ランプ点灯）			点灯	点灯	消灯
運用中	VoIP サーバー登録済み					
	VoIP サーバー無応答	ISDN※3	ピピ※3	点灯	点滅 2※2	消灯
	IP 電話接続拒否	ISDN	なし	点灯	点灯	消灯
	IP 電話接続	IP	ドミソ※4	点灯	点灯	点灯
	IP 電話から一般電話	IP	ドミ※4	点灯	点灯	点滅 2※2
	“0000”＋電話番号	ISDN	なし	点灯	点灯	消灯
	ISDN 回線選択テーブル	ISDN	なし	点灯	点灯	消灯
	電源 OFF 又は停電時	ISDN	なし	消灯	消灯	消灯

※1　PPP 設定がされていない場合は、IP 電話登録や IP 通話は出来ません。

※2　点滅 2 とは、0.5 秒間点灯し 0.5 秒間消灯します。

※3　IP 電話サービスに何らかの障害がある場合は、Web 設定で「VoIP 電話の詳細設定」→「発信の設定」→「一般電話再発信」→「有効」の場合、発信のとき受話器から「ピピ」と聞こえてから、ISDN 回線へ発信します。「一般電話再発信」→「無効」の場合は、発信のとき受話器から「ピピ」と聞こえてから、ビジートーン（話中音）が聞こえて発信できません。

※4　Web 設定で「VoIP 電話の詳細設定」→「発信の設定」→「識別音通知」→「有効」の場合、発信のとき受話器から「ドミソ」等の識別音が聞こえます。「識別音通知」→「無効」の場合、識別音はありません。

ご注意

- PPP, IP電話, 更新共ランプが0.25秒間点灯し0.25秒間消灯している場合は、一切通話が出来ません。本機の電源スイッチを一旦OFFからONにしてください。
- 緊急電話等の特殊な電話番号は、直接ISDN回線へ発信します。
- 「0000」＋電話番号をダイヤルした場合は、直接ISDN回線へ発信します。

14.2 INSネット64（ISDN）の付加サービスについて

ISDN付加サービスの利用の時は、「0000」を最初に付加してください。

サービス名称	可否	サービス名称	可否
フレックスホン（キャッチホン）	×	INSボイスワープ／INSボイスワープセレクト	○
フレックスホン（通信中転送）	×	INSなりわけサービス	○
フレックスホン（三者通話）	×	INSナンバー・リクエスト	○
フレックスホン（着信転送）	×	INSメンバーズネット	○
i・ナンバー	○	迷惑電話おことわりサービス	○
ダイヤルイン	○	でんわばん	○
サブアドレス	○	二重番号サービス	○
発信者番号通知	○	空いたらお知らせ159	○
INSナンバー・ディスプレイ	○	代表取扱サービス※1	○
ネーム・ディスプレイ	○	オフトーク通信	×
Lモード	○		
INSマジックボックス	△		

○　：本機で利用できる「INS ネット 64」の付加サービスです。（但し、接続する ISDN 機器がサービスに対応していて、主に付加サービスの契約が必要です。）
△　：転送機能のみ利用できます。
×　：本機で利用できない「INS ネット 64」の付加サービスです。
※ 1：INS ネット 64 付加サービスの発信専用制御（「インタフェース単位制御モード」）の契約が必要です。

14.3 IP 電話の付加サービスについて

2005年9月1日現在

サービス名称	可否	サービス名称	可否
050ダイヤルインサービス	○	一般加入電話番号による IP-IP着信	○
ダイヤルインサービス（一般加入電話番号）	○	代表サービス	○
代表番号通知/基本契約番号通知	○	電話会議サービス	○

○：　本機で利用できるサービスです。（オプション契約が必要なサービスが有ります。）

14.4 電話機からの設定一覧

PBXの電話機より本機の設定番号(５５５５)にて発信した後に下記設定一覧のダイヤル操作で設定が可能です。設定は、自動保存されますので電源を切っても設定は消えません。設定の変更を行うと以前の設定に対して上書きされます。

設定項目	ダイヤル入力	概要
着信転送	2*0【初期値】 2*1	転送解除 転送セット

●外出先から、本機の設定を変更するには「11.10リモコンを設定するには」をご参照ください。

14.5 電話機からの操作一覧

設定項目	ダイヤル入力	概要
本機の設定	5555	本機の設定に使用

●「５５５５」(4 桁発信限定)を押し、「発信ﾎﾞﾀﾝ」を押して「ツツツ...」の音の後で「ツー」の音に変わる事を確認してください。
●プリフィックス番号に「５５５５」を登録しますと正常に動作しません。「５５５５」を登録しないように御願いします。

14.6 回線選択テーブル（初期値）

2005年12月1日現在

No	番号	発信先	No	番号	発信先
1	10x	ISDN	51	09802	VoIP
2	11x	ISDN	52	01x0	ISDN
3	12x	ISDN	53	02x0	ISDN
4	13x	ISDN	54	03x0	ISDN
5	14x	ISDN	55	04x0	ISDN
6	15x	ISDN	56	05x0	ISDN
7	16x	ISDN	57	06x0	ISDN
8	17x	ISDN	58	07x0	ISDN
9	180	ISDN	59	08x0	ISDN
10	181	ISDN	60	09x0	ISDN
11	182	ISDN	61	020	ISDN
12	183	ISDN	62	030	ISDN
13	185	ISDN	63	040	ISDN
14	187	ISDN	64	060	ISDN
15	188	ISDN	65	01x	VoIP
16	189	ISDN	66	02x	VoIP
17	19x	ISDN	67	03x	VoIP
18	0120	ISDN	68	04x	VoIP
19	0130	ISDN	69	05x	VoIP
20	0140	ISDN	70	06x	VoIP
21	0150	ISDN	71	07x	VoIP
22	0160	ISDN	72	08x	VoIP
23	0170	ISDN	73	09x	VoIP
24	0180	ISDN	74	0033	VoIP
25	0190	ISDN	75	000x	ISDN
26	0450	ISDN	76	001x	ISDN
27	0570	ISDN	77	002x	ISDN
28	0750	ISDN	78	003x	ISDN
29	0800	ISDN	79	004x	ISDN
30	0990	ISDN	80	005x	ISDN
31	0220	VoIP	81	006x	ISDN
32	0240	VoIP	82	007x	ISDN
33	0250	VoIP	83	008x	ISDN
34	0260	VoIP	84	009x	ISDN
35	0270	VoIP	85		
36	0280	VoIP	86		
37	0460	VoIP	87		
38	0470	VoIP	88		
39	0480	VoIP	89		
40	0550	VoIP	90		
41	0740	VoIP	91		
42	0770	VoIP	92		
43	0790	VoIP	93		
44	0820	VoIP	94		
45	0880	VoIP	95		
46	0920	VoIP	96		
47	0930	VoIP	97		
48	0940	VoIP	98		
49	0950	VoIP	99		
50	0980	VoIP	100		

※ 上記表は、IP電話サービスプロバイダーのサービス変更により自動的に変更されることが有ります。

14.7 主な仕様

	項目	サービス内容
PBX側	適用回線	INSネット64（ISDN）
	インタフェース構造	2B+D（基本インタフェース）ピンポン方式 （Dチャンネル・パケット通信非対応）
	インタフェース形態 及びレイヤ１起動種別	P-MP常時、P-MP呼毎、P-P
	ポート数	2ポート
	回線接続コネクタ	6pinモジュラージャック（RJ11）
	供給電圧	約59V（無負荷時）
ISDN側	適用回線	INSネット64（ISDN）
	インタフェース構造	2B+D（基本インタフェース）ピンポン方式
	インタフェース形態 及びレイヤ１起動種別	P-MP常時（P-MP呼毎と接続可、P-P接続不可）
	回線接続コネクタ	6pinモジュラージャック（RJ11）
	バス配線接続コネクタ（S/T点）	ISO8877準拠 8pinモジュラージャック（RJ45）　給電あり
	利用通信サービス	INSネット64（ISDN）　伝送速度：64Kbps×2ch
WAN側	プロトコル	PPPoE、PPP
	インタフェース	IEEE 802.3/802.3u/802.3x準拠（10/100BASE-T/TX）
	ポート数	1ポート
	接続コネクタ	8pinモジュラージャック（RJ45）
	その他	10/100Mbps自動認識、Full/Half Autonegotiation機能
LAN側	インタフェース	IEEE 802.3/802.3u/802.3x準拠（10/100BASE-T/TX）
	ポート数	4ポート
	接続コネクタ	8pinモジュラージャック（RJ45）
	その他	10/100Mbps自動認識、Full/Half Autonegotiation機能、 Auto MDI/MDI-X機能
VoIP機能	呼制御プロトコル	SIP
	音声圧縮方式	G.711（64kbps）、G.729A（8kbps）
	エコーキャンセラー機能	G.168準拠 8～32ms
	その他機能（QoS）	ゆらぎ吸収、優先制御、パケット損失補完機能、帯域制御
その他	装備	状態表示LED×17、折り返し試験機能付きDSU内蔵（切り離し可能）、Web設定、U点（極性切り替え機能有り）、停電時PBX-U点ISDN-U点直結機能
	操作部	電源スイッチ、DSU切り離しスイッチ、INS64極性切替スイッチ、S/T点終端スイッチ、設定初期化スイッチ、更新スイッチ
	電源　商用電源	AC100V±10%（50/60Hz）
	サービスコンセント	300W AC100V
	添付品	電源コード、取扱説明書、LANケーブル（ストレート）、ユーザー登録カード
	消費電力	約14W
	外形寸法	250mm（W）× 152mm（D）× 64mm（H）
	質量	約1.4kg
	使用環境	温度0～40℃　湿度20～80%（但し結露なきこと）

※仕様および外観は、性能改善等により予告なく変更する場合があります。

株式会社 アレクソン

お問い合わせ先　サポートセンター　　伊丹　☎072-780-1101
受付時間：月曜～金曜　9:20～12:00・13:00～17:00
（祝祭日、年末年始、弊社休日を除く）
http://www.alexon.co.jp/

本書の内容の一部または全部を無断転載、無断複写することは、堅くお断りします。
本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

2008.04.01
TIM2087D